

インテリア建材

建具・造作材・床・階段・その他

取扱い説明書



ご使用にあたって

この説明書では、お施主さまが商品を安全に正しくご使用いただくためのお願い事項、お手入れの方法などの重要な内容を記載しております。
ご留意いただくとともに、大切に保存してください。

目次

■重要なお知らせ	1
■警告用語の種類と意味	2
■特に注意していただきたいこと	2~19
■お手入れ方法	20~23
■調整方法について	24~61
■アフターメンテナンスについて	62
■商品保証について	63

重要なお知らせ

ご使用の前に

安全のため、必ずお守りください。「インテリア建材商品」のご使用およびお手入れを行う場合は、必ずこの取扱い説明書に従ってください。

もしこの取扱い説明書に従わず、乱用または誤用によるケガおよび損害が発生した場合は、当社およびその販売会社に責任はないものといたします。

1.この取扱い説明書の他にも、あらゆる危険が想定されます。

従って、「インテリア建材商品」のご使用およびお手入れを行う際は、この取扱い説明書の記載事項に限らず、安全対策に関して十分な配慮が必要です。

2.この取扱い説明書は著作権を有し、その権利は留保されています。

お願い

- この「取扱い説明書」に掲載されていない調整については、無理に調整しようとする
扉の落下・破損・ケガなどのおそれがありますので、お買い求めの販売店または、当社
お客さま相談センターまでご相談ください。
- ご使用前に点検して異常がある場合は使用せず、工務店様・販売店様または当社お客
さま相談センターにお問い合わせください。人身事故や物損事故につながるおそれ
があります。
- 製品の設置や修理は必ず専門業者に依頼してください。人身事故や物損事故につな
がるおそれがあります。

問合わせ内容	連絡先窓口	TEL
商品全般	お客さま相談センター	☎ 0120-126-001
修理のご依頼	LIXIL 修理受付センター	☎ 0120-413-433

警告用語の種類と意味

- この「取扱い説明書」では、危険度(又は事故の大きさ)によって、次の3段階に分類しています。以下の用語が持つ意味を理解し、本書の内容(指示)に従ってください。

用語	意味
 警告	取扱いを誤った場合、使用者などが死亡または重傷を負う危険が想定されます。
 注意	取扱いを誤った場合、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。
お願い	特に注意を促す情報で、使用者などが思わぬケガをするおそれや、機器の損傷・故障などにつながる場合があります。

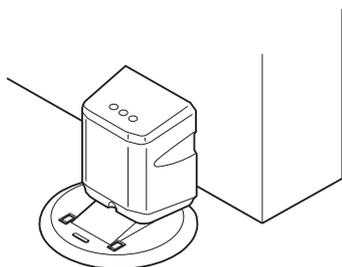
特に注意していただきたいこと

※安全のため、必ずお守りください。

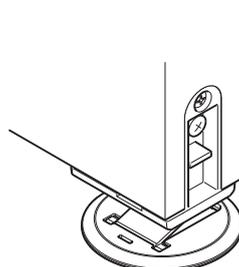
室内ドア(ドアストッパー(マグネットタイプ)) / 可動間仕切り引戸(扉下部) / 上吊引戸(扉下部)

警告

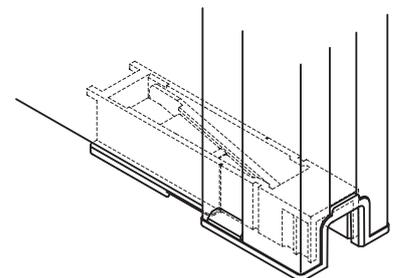
- ドアストッパーや可動間仕切りの扉下部のコーナー部から30cm以上離れて操作および使用してください。
心臓ペースメーカーを装着されている方は、接近して操作されると誤作動をまねくおそれがあります。
その他医用電子機器類に関しても影響を与える場合があります。各機器メーカーまたは販売者にご確認ください。



ドアストッパー



ドアストッパー



可動間仕切り引戸 / 上吊引戸 (扉下部)

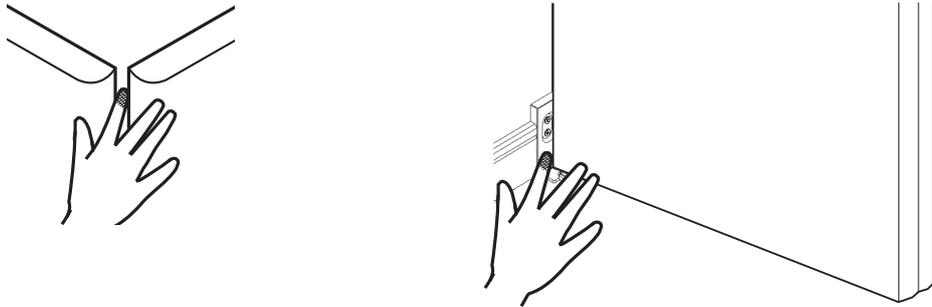
特に注意していただきたいこと

中折れドア・クローゼット折れ戸(レールタイプ・ノンレールタイプ・すっきりタイプ・アウトセットタイプ)

警告

- 本体の開閉操作時にすき間が発生します。このすき間に指を挟んだ状態で扉を開閉しないでください。大きなケガにつながるおそれがあります。

乳幼児が開閉を行わないよう、また、乳幼児が近くにいる時の扉の開閉には十分ご注意ください。



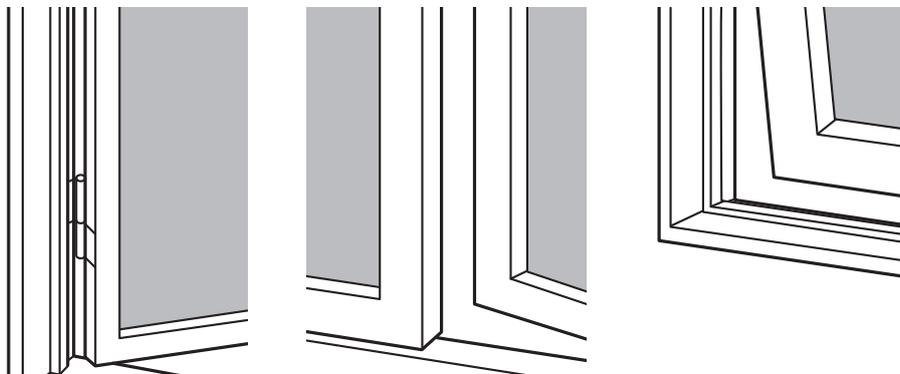
- また、温湿度環境によって扉にソリが生じ、すき間が大きくなる可能性もあります。ご注意ください。

室内用窓 (両開き窓・突出し窓・ランマ用窓・デコマド)

警告

- 本体の開閉操作時にすき間が発生します。このすき間に指を挟み本体を開閉しないでください。大きなケガにつながるおそれがあります。

乳幼児が開閉を行わないよう、また、乳幼児が近くにいる時の開閉には十分にご注意ください。

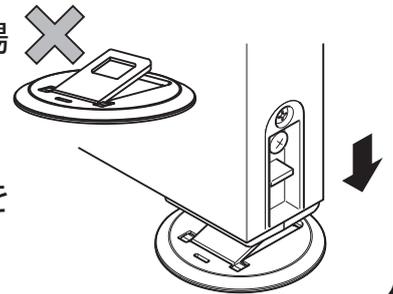


- 特に乳幼児のいるご家庭では窓の前にソファー、家具など、よじ登れる物を置かないようにしてください。転落事故につながるおそれがあります。

室内ドア(ドアストッパー(マグネットタイプ))

⚠ 注意

- 床付け部品のフラップが立ち上がったままになっている場合は、必ず手で倒してください。
思わぬケガをするおそれがあります。
- 扉を開放しておくときは、必ずロックレバーを下げて扉を固定してください。
扉が強風で強く閉まり思わぬケガをするおそれがあります。

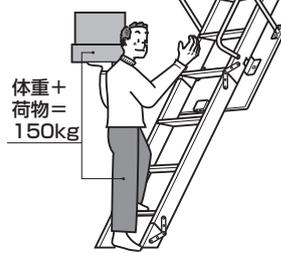


シーリングタラップ・ロフトはしご

⚠ 注意

- 体重と荷物の合計が、はしごを安全に使用できる最大重量(右図の通り)をこえないようにしてください。
思わぬケガをする場合があります。

●シーリングタラップ



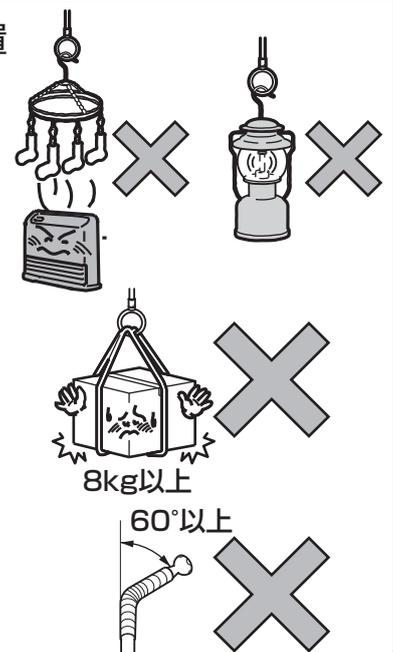
●ロフトはしご



室内物干し 天井付けタイプ

⚠ 注意

- 室内物干しの下にストーブなどの火気のあるものを絶対に置かないでください。
火災のおそれがあります。
- 以下のものは絶対に掛けないでください。
 - ・ランタンなど、火気のあるもの
 - ・人が当たるとケガのおそれがあるもの
 - ・割れ物など、落下すると危険なもの火災やケガ、破損のおそれがあります。
- 1本当たり8kgを超える用途に使用しないでください。
製品の破損・外れにより思わぬケガをするおそれがあります。
- 人や物品、ペット類などの上で使用しないでください。
製品が落下してケガをするおそれがあります。
- ポール上部のバネは60°以上曲げないでください。
製品が破損してケガをするおそれがあります。
- ポールを着脱する際は、落下させないように注意してください。
製品が落下してケガをするおそれがあります。



特に注意していただきたいこと

玄関収納・各種収納

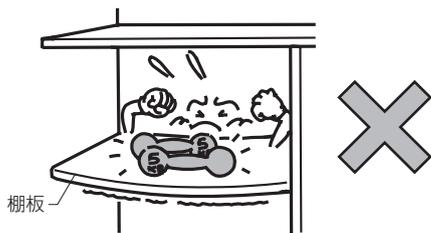
注意

- 玄関収納カウンターの耐荷重は10kgです。この重量をこえる物はのせないでください。製品のゆがみ、破損事故の原因になります。

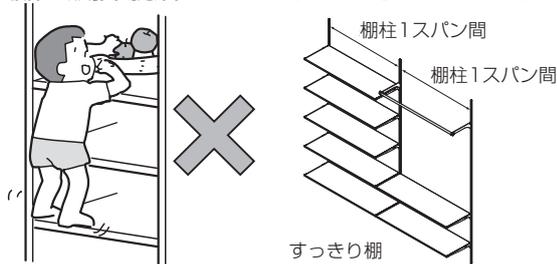


- 丁番などの可動部には手を入れないでください。挟まれて、ケガをするおそれがあります。

- 各製品の耐荷重をこえる収納物をのせないでください。耐荷重は均等荷重です。製品が破損・脱落し、ケガをするおそれがあります。



- 棚板に足を掛けたり、ハンガーパイプにぶらさがったり、よじのぼったりしないでください。製品が破損・脱落し、ケガをするおそれがあります。



玄関収納棚板取付け可能枚数

取付け可能枚数以上は取付けしないでください。キャビネット落下の原因になります。

キャビネット種類	キャビネット高さ	可動棚(取付け可能枚数)	固定棚(取付け可能枚数)
ウォール	320	1	—
	321～544	2	—
	545～960	3	—
ベース	704	4	—
	705～800	4	—
	801～1184	7	—
トール	1216	6	1
	1217～1760	9	1
	1761～2080	11	1
	2081～2240	12	1

※耐荷重とは安全に物を載せるための重量であり、たわみが出ない基準ではありません。

玄関収納耐荷重

部位	W幅	耐荷重	備考
カウンター	—	10kg	支持キャビネット1台あたりの耐荷重
可動棚板	200	2kg	靴1足
	400	4kg	靴2足
	600	6kg	靴2～3足
	740	7.5kg	靴3～4足
	800	8kg	靴4足
固定棚板	—	10kg	W幅に関わらず一定
地板	—	20kg	W幅に関わらず一定

玄関収納別売品耐荷重

別売品名	耐荷重
スライドコートハンガー	5kg

システム収納 フレームタイプ耐荷重

部材	耐荷重
フレーム	180kg/本
ハンガーパイプセット	40kg/個
スライドパイプセット	6kg/個
小物掛けパイプセット	5kg/個
棚板セット	20kg/枚
引出し	10kg/段
スライド棚	2kg/段
バスケット棚	5kg/段
カウンター・台輪	30kg/段
寝具ラック	20kg/個

収納部材 枕棚・中段耐荷重

部材	耐荷重
中段	200kg
枕棚単体	70kg
枕棚 + ハンガーパイプ	合計 70kg ※ハンガーパイプには30kgまで
枕棚L型納まりの場合	枕棚合計 70kg

デコカウンター耐荷重

部材	耐荷重
デコカウンター	幅 455mm 間隔内で 15kg

床下収納耐荷重

収納本体(呼称)	耐荷重	
	深型	収納本体
深型	600	110kg
	900	165kg
浅型	600	70kg

※耐荷重(kg)は、収納本体に張付の注意ラベルにも記載してあります。※フタの耐荷重の目安は70kgです。

すっきり棚 棚板・パイプ耐荷重

部材	奥行き	耐荷重
樹脂棚板	—	8.5kg/枚
	130	5kg/枚
木製棚板	200	10kg/枚
	300	
パイプ	—	17kg/本

すっきり棚 棚柱1スパン間耐荷重

棚柱寸法	耐荷重
L1820	85kg
L900	47kg
L600	37kg

※例) L1820に樹脂棚板+パイプを設置する場合は、樹脂棚板8枚とパイプ1本になります。

※例) L900に木製棚板+パイプを設置する場合は、木製棚板3枚とパイプ1本になります。(L600の場合は、木製棚板2枚とパイプ1本)

室内建具・両開き窓

⚠ 注意

- ドア・窓の調整で丁番固定ねじをゆるめた場合は調整後必ず締付け、ガタツキがないことを確認してください。
扉・窓脱落の原因になるおそれがあります。
- 扉の下に物を挟まないようにしてください。
扉が持ち上がり、扉脱落の原因になるおそれがあります。

デコマド

⚠ 注意

- 製品に足をかけたり、よじ登らないようにしてください。
製品が破損・脱落し、ケガをするおそれがあります。



階段／オープン用金属手すり

⚠ 注意

- 手すりのパネルと階段の間から、頭や体を出さないようにしてください。
落下のおそれがあります。
- 蹴込板が無い仕様の階段（ストリップタイプ、桁タイプ、及びアルミ階段）については、踏板の間にすき間があります。頭や体を出したり、よじ登ったりしないようにしてください。
落下のおそれがあります。
- 踏板の上で走ったり飛び降りたり過度な衝撃を与えないでください。
固定部が緩み、破損や異音発生の原因になるおそれがあります。



特に注意していただきたいこと

可動間仕切り引戸 / 上吊引戸

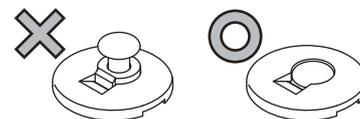
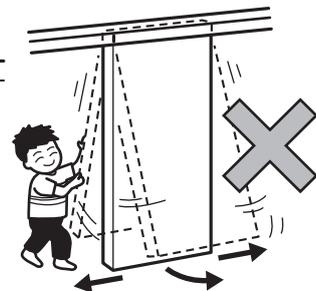
⚠ 注意

- 扉にぶら下がったり、もたれかからないでください。
扉が外れケガをするおそれがあります。

- 扉の開閉方向以外の力を加えないでください。
ガイドピンが扉からはずれるおそれがあります。
はずれた場合は、開閉方向に扉を静かに1往復させてください。

- ガイドピンが扉下部のレールから外れた状態で扉を開閉したり前後に動かさないでください。
部品が破損して落下するおそれがあります。
はずれた場合は、開閉方向に扉を静かに1往復させてください。

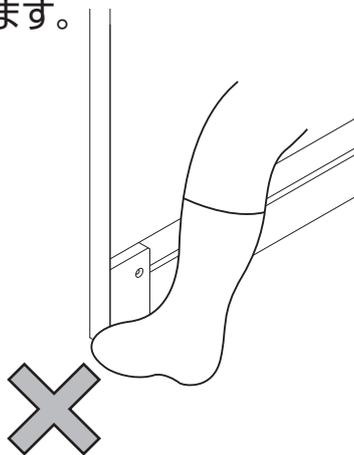
- ガイドピンがもどらない場合は必ず手で押し戻してください。
思わぬケガをするおそれがあります。



クローゼット引戸 アウトセット方式

⚠ 注意

- ガイドピンにはのらないでください。
部品がはずれ、思わぬケガをするおそれがあります。



枕棚・中段セット

⚠ 注意

- 補強用の束に寄りかかったり、ぶつかったり、物をぶついたりしないでください。
製品の破損や収納物が落下し、思わぬケガをするおそれがあります。



アクセントボード

⚠ 注意

- 心臓ペースメーカーを装着されている方は磁石製品の取扱いには十分注意してください。
接近されると誤作動をまねくおそれがあります。その他医療用電子機器類に関しても影響を与える場合があります。各機器メーカー又は販売者にご確認ください。
アクセントボード自体は磁力を発していません。

お願い

- 暖房器具などから発生する熱風・熱気が直接当たらないようにしてください。
ソリや変色などの原因になります。

- 製品に水・油・殺虫剤・除光液・化粧品・整髪料・毛染め剤・脱色剤・うがい薬・芳香剤・除湿剤・アロマオイル・洗剤・漂白剤・除菌クリーナー・紅茶、その他の液体などがかった場合は、すぐに拭き取ってください。

放置すると、表面がふくれたり、シミ・変色が発生したり臭いが残ったり、破損・落下しケガをするおそれがあります。また、マジックやインクは製品につかないようにしてください。すぐに清掃しても落ちない場合があります。

- 水にぬれた場合は、速やかに拭き取るようにしてください。

長時間ぬれたまま放置すると、ひび割れ・ソリ・変色などの原因になります。



- 刃物など先のとがったものや硬いものでひっかかないでください。
キズが付きます。

- 木製部分に電化製品(電子レンジ・炊飯器など)の熱や水蒸気があたらないようにしてください。

電化製品を収納内部にいたまま使用しないでください。ソリや変色の原因になります。



- 扉にテープやシールなどを張らないでください。

表面が傷むことがあります。



- ガラスを使用している製品につきましては物が当たったり、人がぶつくと割れてケガをするおそれがあります。

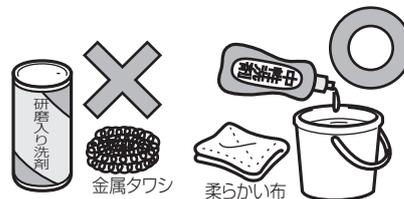
特にお子さまにはご注意ください。



- ガラスはキズつけないように取扱ってください。

- 金属タワシ・研磨剤入り洗剤などはガラスをキズつける原因になります。

ひどい汚れまたは落ちにくい汚れは、薄めた中性洗剤に浸した柔らかい布をかたく絞って拭き取ってください。また、乾いた柔らかい布でから拭きをしてください。



表面キズをつけないよう、アクリル系パネル・ポリカーボネートのお手入れは以下の要項にて行ってください。

- 土埃など硬いゴミが付着している場合は、水を十分に含んだ柔らかい布で表面を濡らしながら軽くゴミを流し落としてください。
- 柔らかい布、または柔らかいスポンジを用いて、ぬるま湯で薄めた中性洗剤で洗浄してください。
- 中性洗剤が付着した表面を水を十分に含んだ柔らかい布で軽く、拭き取ってください。
- 最後に柔らかい布で完全に水を拭き取ってください。

特に注意していただきたいこと

室内ドア／引戸 通風デザイン ロック付開閉レバーでのロック操作方法

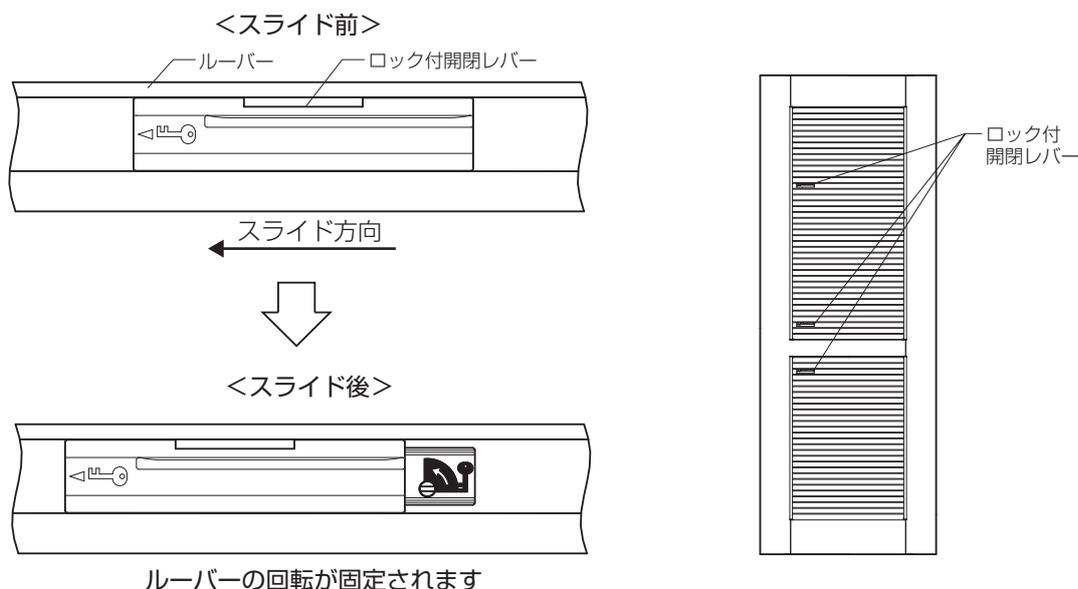
ロック付開閉レバーではルーバーを閉じた状態で固定し、お子さまの指はさみなどの事故を起こりにくくするチャイルドロック機能があります。

お願い

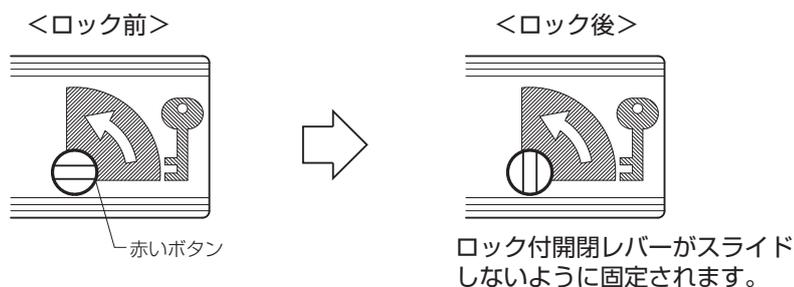
- 建具本体に寄りかかったり、ルーバーに無理な力をかけないでください。ルーバーが変形したり外れる場合があります。
- お子さまの事故防止のためにロックのかけ忘れにご注意ください。またルーバーは3つに別れて連動します、それぞれのロックをかけてください。(サイズにより連動は2つになります。)
- 部品の破損防止のためロックをかけた状態でルーバーの操作は行わないでください。

■ロックのかけ方

①羽根を閉じロック付開閉レバーを矢印の方向にカチッとするまでスライドさせます。



②赤いボタンをマイナスドライバー（もしくはキャッシュカードなど）にて矢印方向に回転させると、レバーのスライドを固定し2重にロックを掛けることができます。



ロック操作方法
動画



717797301002

■ロックの解除方法

ロックのかけ方①②の逆の手順でロックを解除してください。

室内建具

お願い

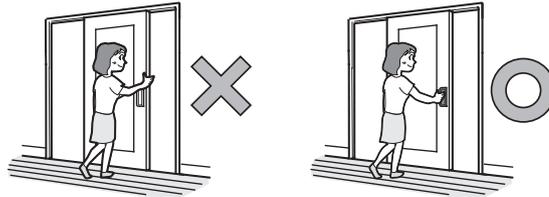
- 扉の開閉にあたっては、吊元側のすき間に手を置かないでください。

指を挟んでケガのおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。

- 扉の開閉にあたっては、必ず把手・引手・手掛けなどの操作部を持って操作してください。

把手・引手・手掛けなどの操作部から手を離したり、扉の先端に手を置くと、扉が急に閉まったとき、扉と枠の間に指を挟み、思わぬケガをするおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。

プッシュプルハンドルの場合は、把手から手を離して扉を開けると扉が勢いよく開き、ぶつかって思わぬケガをするおそれがあります。



- 扉を開け放した状態にするときは、ドアストッパーなどをお使いください。

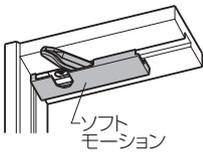
強い風などで、勢いよく閉まることがあり、ぶつかったり、ガラス割れなどで思わぬケガをするおそれがあります。

- ソフトモーション部品に潤滑油などを塗布しないでください。

作動不良の原因になります。



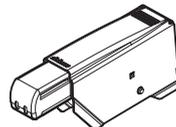
ドアソフトモーション



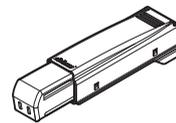
引戸ソフトモーション



ラシッサクローゼット
開き戸ソフトモーション



玄関収納ソフトモーション
クローゼット開き戸ソフト
モーション(ライン枠)



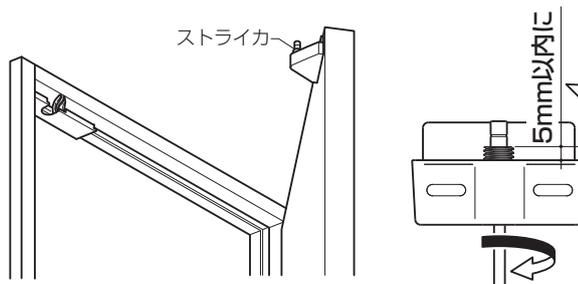
ラシッサクローゼット開き戸
ソフトモーション付き
スライド丁番



室内ドア (ソフトモーション)

お願い

- ストライカの調整でピンを上げ過ぎないでください。部品が破損します。ソフトモーションを調整する前に、丁番でドア本体の建付け調整を行なってください。



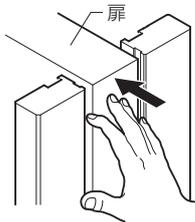
5mmを超えてしまうと調整ねじが破損します。5mm以上の調整が必要な場合は、先に丁番で建付け調整をしてください。

特に注意していただきたいこと

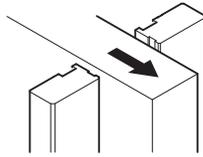
引込み戸

お願い

- 戸袋の扉出入れは下図のように行ってください。開ける際に途中で手をはなしたり、戸袋内の静止状態から無理に引っ張ると、壊れる場合があります。



①戸袋に向かってゆっくり押し込むと扉は静止します。



②静止状態から軽く押すと、とび出します。

※戸袋内で静止しない場合は20cm以上戻してから再び手で押し込むと復帰します。

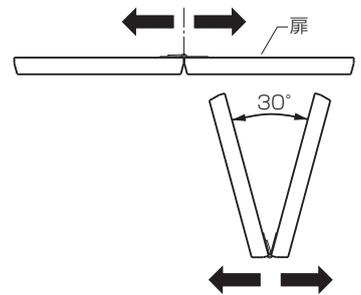
クローゼット折れ戸

お願い

扉を開閉する際は、下記いずれかの方法で操作してください。

- 扉をフラットのまま移動させてください。
- 扉が折れた状態で移動させる場合は、30°の角度で扉が一時固定するようになっていますので、この状態で移動させてください。

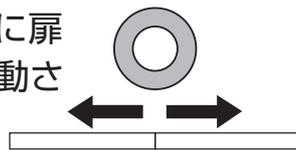
※角度が30°未満の状態では移動させないでください。この場合、動きがギクシャクしたり下部のローラーがレールから外れたりする場合があります。



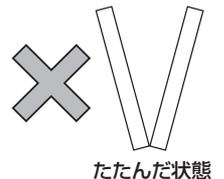
可動間仕切り折れ戸

お願い

- 扉の開閉は右図のように扉をフラットな状態で移動させてください。



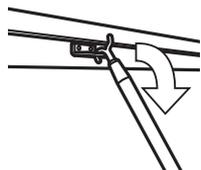
※扉をたたんだ状態では、移動させないでください。動きがギクシャクしたり、ガイドピボットの走行に支障がでたりする場合があります。



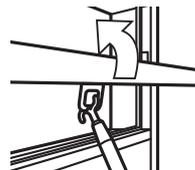
ランマ付ドア・ランマ用窓

お願い

- 本体を開閉する際は下図の方法で開閉してください。



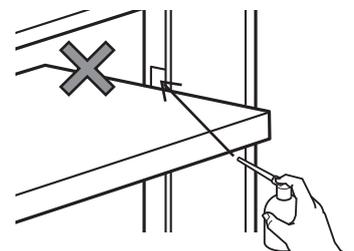
開：金具穴にフック棒を引っ掛けて手前に引き、本体を回転させます。



閉：金具のくぼみにフック棒をあて押し上げるようにして本体を回転させます。

※上記以外の個所にフック棒を当てると本体を傷つける原因になります。

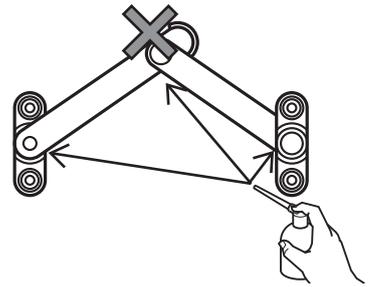
- 回転軸には、潤滑油などや、清掃時の洗剤散布もおさげください。トルクがなくなり、任意位置での固定が出来なくなります。



室内用窓

お願い

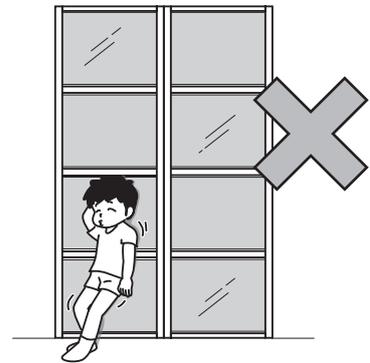
- フリクションステーには、潤滑油などや、清掃時の洗剤散布もおさげください。トルクがなくなり、任意位置での固定が出来なくなります。



デコマド・インテリア格子

お願い

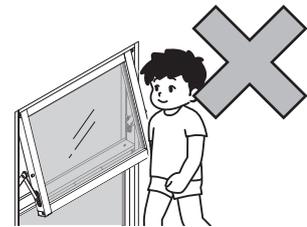
- 製品にぶつかったり、ぶら下がったり、もたれかからないでください。
製品が外れケガをするおそれがあります。



突出し窓

お願い

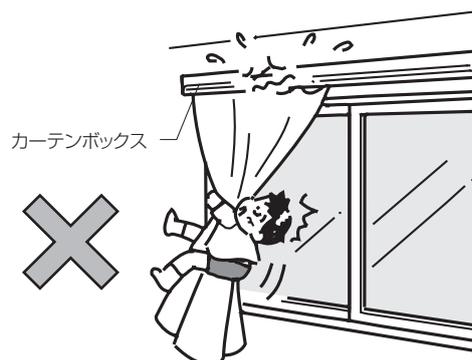
- 突出し窓のそばを通るときは、開いている本体や把手にぶつからないようご注意ください。
ケガや製品の破損につながるおそれがあります。



カーテンボックス

お願い

- カーテンボックスにカーテン以外の物をぶら下げたり、カーテンにぶら下がったりしないでください。
外れ・落下のおそれがあります。

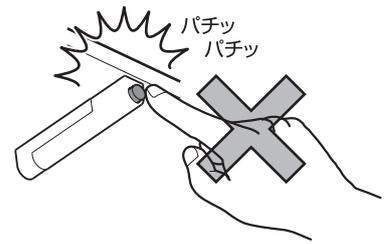


特に注意していただきたいこと

玄関収納

お願い

- プッシュラッチを指ではじいて遊ばないでください。
部品が破損する原因になります。



- 汚れは、きれいな乾いた柔らかい布でから拭きしてください。
ひどい汚れまたは落ちにくい汚れは、中性洗剤を薄めて硬く絞ったぞうきんで拭き取ってください。

絶対に使用しないでください

酸性・アルカリ性の洗剤、溶剤(シンナー・ベンジン)など

各種収納

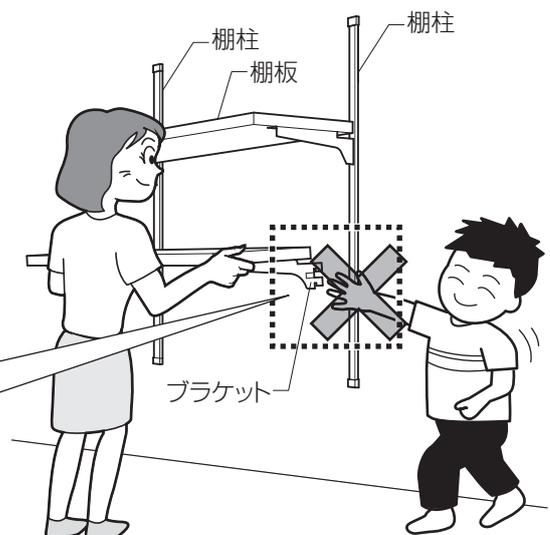
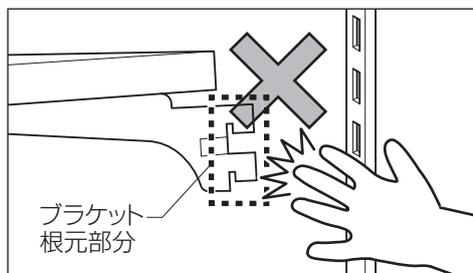
お願い

- 家電製品をのせる場合は、必要設置寸法(家電に付属の取扱い説明書などに記載)を必ずご確認ください。

すっきり棚

お願い

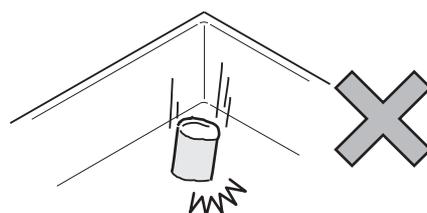
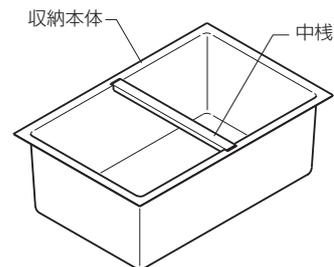
- 棚柱から棚板やパイプを取り外す際には、ブラケットの根元部分(棚柱と接している部分および棚柱内に納まっている部分)には、触らないようにしてください。
指や手などをケガをするおそれがあります。



床下収納

お願い

- 中棧を外した場合は、必ず元に戻してください。
フタの破損・外れにより、ケガをするおそれがあります。
- 収納部への転落に気をつけてください。
特にお子さまにはご注意ください。
- 外して横に置いたフタの上にはのらないでください。
- 自分で分解・修理・改造などは絶対にしないでください。
- スライドタイプのガイドレールと本体の間に、指や手を入れないでください。
指や手をはさんでケガをするおそれがあります。
- 収納本体に物を落とさないでください。
白く変色したり、破損するおそれがあります。
- 収納本体の抗菌性能を維持するため、定期的にかから拭きでよごれを拭き取ってください。



特に注意していただきたいこと

シートカウンター

お願い

■シートカウンター耐荷重

製品	T (厚み)	D (奥行き)	耐荷重
カウンター (L3600)	40	220	60kg (16.5kg/m)
	40	300	80kg (22.5kg/m)
	70	500	135kg (37.5kg/m)
ペンチタイプ (L1200)	70	300	135kg (110kg/m)

耐荷重は均等に物を載せた場合を示します。また、耐荷重とは安全に物を載せるための重量であり、たわみが出ない基準ではありません。

1個所に集中して物を置くと耐荷重以下であっても、たわみが大きくなります。

■シートカウンターお手入れ方法

- 汚れは、きれいな乾いた柔らかい布でから拭きしてください。

ひどい汚れまたは落ちにくい汚れは、中性洗剤を薄めて硬く絞ったぞうきんで拭き取ってください。

絶対に使用しないでください

酸性・アルカリ性の洗剤、溶剤(シンナー・ベンジン)など

■シートカウンター取扱い

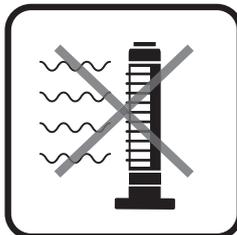
- シートカウンターをご使用の際は下記行為を避けてください。

製品の劣化やキズの原因になります。

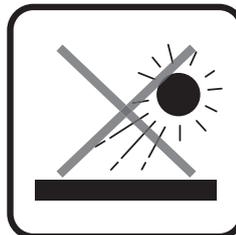
熱いものを直接上に置かない!!



熱風を直接当てない!!



直射日光に当てない!!



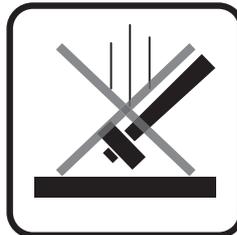
液体類をこぼさない!!



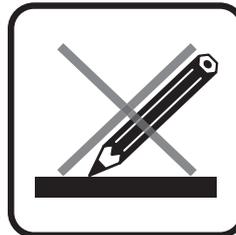
テープやシールを貼らない!!



硬い物を落とさない
引きずらない!!



刃物や筆記用具を直接使わない!!



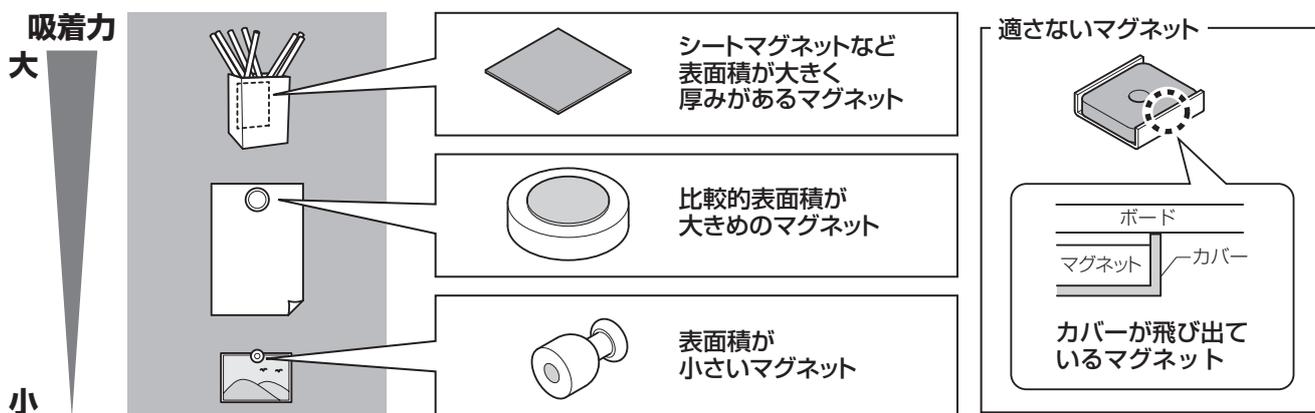
アクセントボードはマグネットが取り付けられるボードです

●ご使用前に

マグネットの落下によるケガおよび損害が発生した場合、また、マグネットの使用による化粧面の損傷は、当社およびその販売会社に責任はないものといたします。

マグネット選びのポイント

アクセントボードは、表面に樹脂シートを貼っているため、マグネットの吸着力は若干弱くなります。また、マグネットの吸着力は種類や形状により異なりますので、事前に必ず吸着力を確認してください。

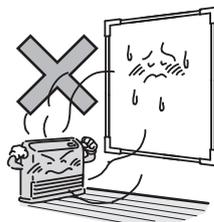


※上記はあくまで目安であり、マグネットの厚みや種類によっても吸着力は異なります

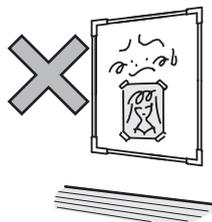
お願い

- アクセントボードまたはマグネットに付着している汚れは拭き取ってください。マグネットの保持力が低下することがあります。
- マグネットを取付けた状態でスライドさせないでください。製品にキズをつけるおそれがあります。
- 下記行為を避けてください。製品の劣化やキズの原因になります。

熱風を直接当てない!!



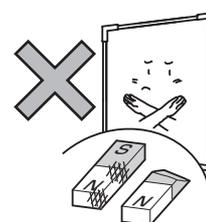
テープやシールを張らない!!



刃物や筆記用具を 直接使わない!!



錆びたマグネット 破損したマグネットを 使わない!!



特に注意していただきたいこと

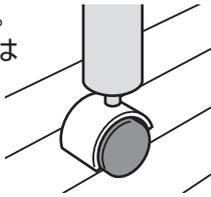
床

お願い

- キャスター付きのイスなどを繰り返してご使用になりますと、床表面をキズつけたり、破損するおそれがあります。ご使用を避けるか、厚手のカーペットなどを敷いて保護してください。

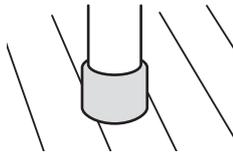
耐キャスター性を高めた床材もございますが、キズやへこみがつかないわけではありませんので、過度の荷重にはご注意ください。

※金属製や球形状のキャスターはご使用を避けてください。キズやへこみが発生しやすくなります。



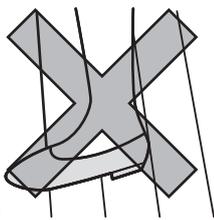
- テーブルやイスをひきずりますと、床材表面をキズつけるおそれがあります。

イスの脚にゴムキャップやフェルトなどをつけると床表面のキズつきを防げます。



- マットなどの裏面がゴム製の物や、イスや家具などのプラスチック製の脚および脚につける緩衝材などは、材質によっては長時間床面と接触していると、含有成分が浸透して色移りすることがあります。浸透して色移りすると除去できませんので、ご注意ください。

- 上履用ですので土足でのご使用は避けてください。



- 水やしょう油、洗剤などをこぼした場合は、すみやかに拭き取ってください。

耐水性を高めた床材もありますが、放置すると表面のシミ・くされなどの原因になります。

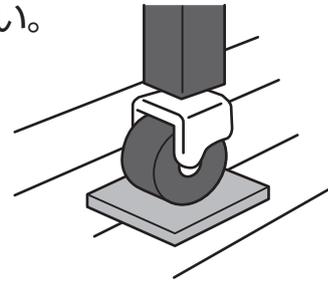
※目地部分を強くこすると、色落ちする場合がありますので、ご注意ください。



- ピアノなどの重量物を置く場合は、下地の強度など構造上の問題がありますので、あらかじめ施工業者さまへご確認ください。

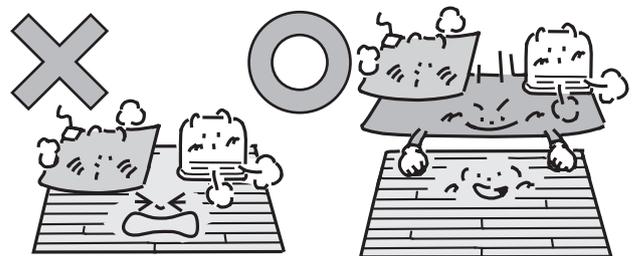
強度不足の場合、床が抜けるおそれがあります。

- ピアノなどの重量物を置く場合は根太や下地の補強をした上で、脚部にインシュレーターや小さな板などを敷き、重量を分散させてください。また、移動させる時は引きずらないでください。



- ホットカーペットや温風ヒーターなどをご使用の際は、目スキ、表面ひび割れ、変色、フクレなどの原因になりますので、カーペットなどの下敷きをするなど、床表面に熱が伝わらないようにご使用ください。

※滑り止め機能付や滑り止め加工を施した製品（シート、カーペット、マット、ゴムなど）をご使用になる時は、裏面材の成分が溶出して床材表面に付着したり、変色やつや変化を発生させるおそれがあります。

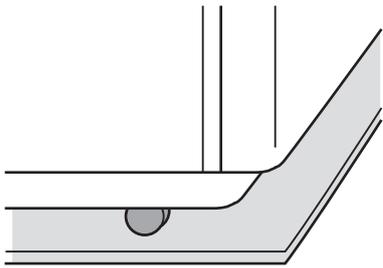


- 床暖房運転時にカーペットなどで表面を覆うと、放熱が妨げられ暖房効率が悪くなったり、熱がこもって床材をいためやすくなりますので、何も敷かないでください。

床

お願い

- 床材は、大型冷蔵庫や温風ヒーターの吹出し周辺で、熱がかかると継ぎ目にすき間や表面にひび割れ、変色、フクレを生じます。耐熱性にすぐれた商品もありますが、大型冷蔵庫や温風ヒーターの熱風が直接床材の表面に当たらないように保護してください。



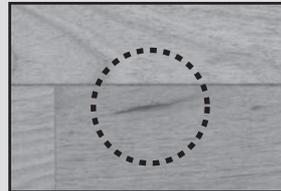
- 玄関マットやカーペットを固定するために、粘着テープは使用しないでください。
床材表面を傷めるおそれがあります。

豆知識

天然木は1枚1枚色柄に特有の変化があります。製造工場では極力色合わせするなど工夫しておりますが、まったく同じ木目・色調になることはありません。天然木ならではの特性としてご理解ください。小さな節や入り皮、てりなどは木材の成長過程で発生する天然木ならではの特徴です。個性あふれる自然の表情としてご理解ください。

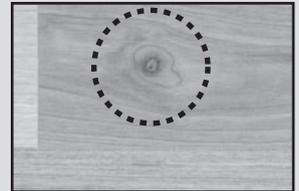
●入り皮

成長過程で幹に巻込まれた樹皮や変色部分



●節

枝が成長した幹に巻込まれた部分



●てり

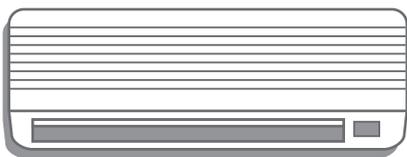
木材を形成する細胞の方向性の違いから生じるツヤの違い



床・階段・手すり

お願い

- エアコンや強制排気型の暖房装置を連続使用する場合には、室内が過乾燥となり、床材などの木製品の継ぎ目にすき間や表面にひび割れを生じるおそれがありますので、加湿器の併用をおすすめします。
望ましい湿度は45～70%です。



- 手すりの上に登ったり、手すりにぶら下がったり、故意に手すりを揺らすことはしないでください。手すりの破損、転落のおそれがあります。

- サッシ周りなど直射日光に長く当たりますと、熱や紫外線によって変色したり、表面にひび割れが発生するおそれがあります。

日光、紫外線などによる変色、退色は天然木に特有の性質です。カーテン・ブラインドなどでさえぎるよう to してください。



特に注意していただきたいこと

階段

ご案内

- 蹴込板が無い仕様の階段（ストリップタイプ、桁タイプ、及びアルミ階段）は、桁で支えている構造のため、段数が多い場合は揺れを感じる場合がありますが、強度上問題はありません。

ご案内

- ラシッサアルファ蓄光タイプご使用の場合
 - ご使用環境や光の照度、照射時間によって光り方は異なります。
 - 個人の身体能力の差、自宅の照明の違いにより、見え方の効果は異なります。
 - 時間の経過とともに輝度は減衰します。
 - 階段の昇降に必要な明かりが得られない場合は電気をつけて昇降してください。

インテリア格子

ご案内

- 縦格子に負荷が掛かると、部材連結個所から音がすることがありますが、強度上問題はありません。
(例) 縦格子 2 本を掴んで握ってしまった場合など

お手入れ方法

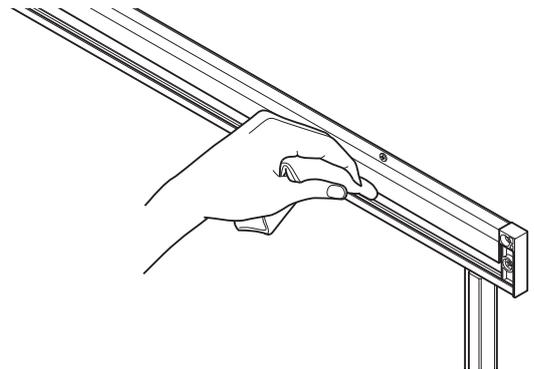
建具・収納や階段手すりの表面など(木目・ガラス・アクリル系パネル・樹脂部品など)

- 日常のお手入れは、乾いた柔らかい布または化学ぞうきんでから拭きしてください。
- ※溝加工デザインの場合は、表面を損傷させたりするおそれがありますので、水拭きはしないでください。
- ひどい汚れまたは落ちにくい汚れは、中性洗剤を薄めてかたく絞ったぞうきんで拭き取ってください。汚れがひどい場合でも、酸性・アルカリ性の洗剤、溶剤(シンナー・ベンジン)などは絶対に使用しないでください。
- ゴミがたまらないよう、レールの溝はこまめにお掃除をしてください。扉レールの溝にゴミがたまりますと、扉の滑らかな走行のさまたげとなり、故障の原因となります。掃除機などでこまめに掃除してください。



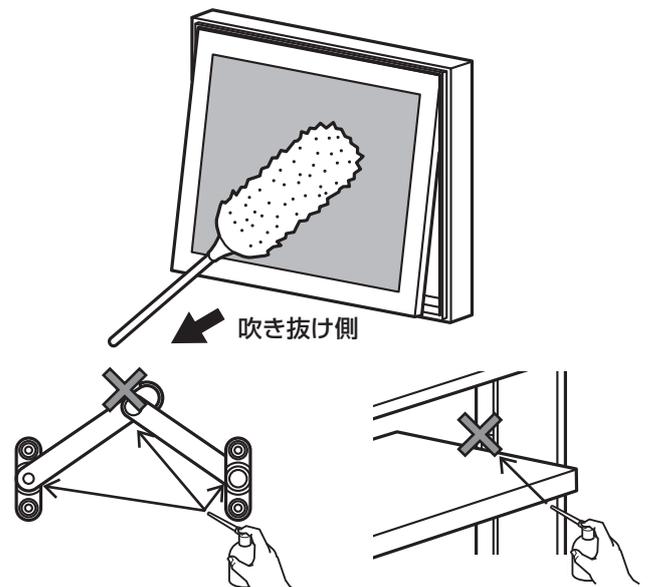
クローゼット折れ戸アウトセットタイプ

- ゴミがたまらないよう、レールの溝は柔らかい布でこまめにお掃除をしてください。レールの溝にゴミがたまりますと、異音や開閉不良の原因となります。



室内用窓(両開き窓・突出し窓・ランマ用窓)

- 吹き抜け側の清掃は、長い柄付きのモップなどで、吹き抜け側から行ってください。



- 本体のフリクションステー、ランマ回転軸には、潤滑油などや、清掃用の洗剤散布も避けてください。トルクがなくなり、任意位置での固定ができなくなります。

把手・引手・つまみ・室内物干しなど

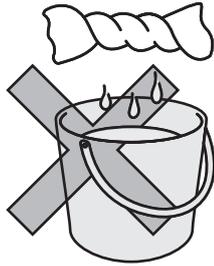
- 日常のお手入れは、乾いた柔らかい布または化学ぞうきんでから拭きしてください。
- ひどい汚れまたは落ちにくい汚れは、中性洗剤を薄めてかたく絞ったぞうきんで拭き取ってください。汚れがひどい場合でも、酸性・アルカリ性の洗剤、溶剤(シンナー・ベンジン)などは絶対使用しないでください。表面の塗料が落ちるおそれがあります。
- シリンダー錠、デッドロック錠のキーの抜き差しや回転操作が悪くなった場合は、鉛筆(柔らかい芯)の粉や黒鉛粉またはシリンダー錠専用潤滑剤を使用してください。鉛筆を使用する場合は、キーの切込み面を鉛筆でなぞったあと、キーで抜き差しを数回行ってください。
- ※鍵穴には絶対に油を注さないでください。注入直後は動きが良くても、ホコリを吸着し、かえって動きを悪くします。
- 把手・つまみがゆるんでガタつく場合は、手回しドライバーで固定ねじを締め直してください。



お手入れ方法

床(木製品)

- 日常のお手入れは乾いた布でから拭きしてください。
 - 汚れがひどいときは、かたく絞ったぬれぞうきんで拭き取ってください。その後、乾いた布で拭き取ってください。
 - 汚れに応じて中性洗剤などを使用し、洗剤をきれいに拭き取ってください。
- ※目地部分を強くこすると、色落ちする場合がありますので、ご注意ください。
- ※上記の方法以外でのお手入れはしないでください。

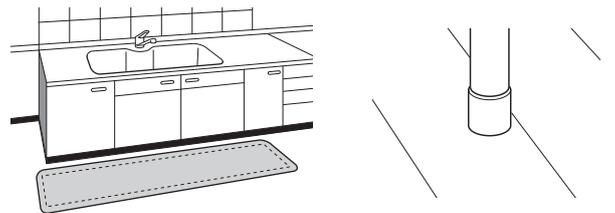


- 床材表面にしょう油・コーヒー・洗剤・カビ取り剤をこぼした場合は、放置しておきますと変色のおそれがあります。木目や目地に染み込む前にただちにかたく絞ったぬれぞうきんで拭き取ってください。
 - ペットの排泄物をそのまま放置しますと、水をこぼした場合以上に変色などで床材の美観をそこなうおそれがあります。ただちにかたく絞ったぞうきんできれいに拭き取ってください。また、ペットのツメでフローリングの表面をキズつける場合もありますので、ご注意ください。
 - 床材は水気・湿気を嫌います。水にぬれた場合すみやかに乾いたぞうきんで拭き取ってください。放置しておくと、しみ・変色が生じたり、表面のひび割れが生じたりすることがあります。次の点にご留意ください。
- ① 水の飛び散るおそれのある流し台、洗面台の周辺には、マットを敷いて保護してください。
 - ② 観葉植物などの鉢には、必ず水受け用の皿などを敷いてください。
 - ③ 雨が吹き込むおそれがある場合、サッシを閉めてください。
- ※木質床材は本質的に水気を嫌います。スチームを使ったお手入れや水濡れ、ワックスの塗布量が多いと、フクレやハガレ、変色などの原因になります。
- マットなどの裏面がゴム製の物や、イスや家具などのプラスチック製の脚および脚につける緩衝材などは、材質によっては長時間床面と接触していると、含有成分が浸透して色移りすることがあります。浸透して色移りすると除去できませんので、ご注意ください。

- クレヨン・油性ペンなどが床材表面に付着した場合は、アルコールまたはシミ抜き用ベンジンを含ませた布ですみやかに拭き取ってください。



- 化学ぞうきんをご使用の場合は、ドライタイプをおすすめします。ウェットタイプは薬剤の種類によって表面の変色など不具合の原因になるおそれがあります。
- 化学ぞうきんを床の同じ所に長い間放置したり、ぬれた所を化学ぞうきんでふいたりしないでください。化学反応により、変色・汚れの原因になります。



床(木製品)

- ノンワックス仕様の床材はワックスがけの必要はありません。お客様のご都合でワックスがけされる場合は、木床用の樹脂系ワックス(リンレイ:ハイテクフローリングコート)をご使用ください。ワックスがけをされますと、表面がワックスの性能になり、本来の性能を損なう場合があります。
- ご使用の際は直接床にまかず、布などにしみ込ませて薄くムラなく塗布してください。床に直接多量にまきますと表面のふくれなどの原因となります。
- 室温が低いとき(5℃以下)や雨天で湿度が高いときにワックスを塗布したり、ワックスの塗布面にお湯などをこぼすと、ワックスが白化する場合があります。白化した場合はワックスを除去してください。
- ワックス塗布後は、換気を行い乾燥させてください。乾く前に塗布面を歩いたりしますと塗りムラなどの原因となります。
- ワックスがけ前後に化学ぞうきんを使用しないでください。床材表面のワックスが白くなるおそれがあります。
- ワックスはくり剤は使用しないでください。表面を傷める原因となります。
- ワックスの使用方法を誤ると床材表面に異常を起こす場合がありますので、その他の使用方法については、容器記載の使用方法をよくお読みください。



- 床材に小さな穴があき、木の粉のようなものが出てきた場合、虫害のおそれがあるので専用薬剤を散布・注入するなど、早期対応が必要です。専用薬剤は、ホームセンターなどでお求めいただけますが、処理専門業者にご相談されることをおすすめします。
- ※一般的に床材は製造工程で高温高圧処理されるため、虫や卵は死滅します。その後の流通段階や施工後に、外部から虫が飛来して産卵し、虫食いが発生する場合があります。



ホルムアルデヒドへの配慮をお願いします。

当社では商品から放散される化学物質の削減に努めていますが、日常的に通気や換気をこまめに行ってください。特に、新築住宅やリフォーム直後には十分な換気をお願いします。また、ホルムアルデヒドは高温になると多く放散される性質があります。夏場や長時間密閉した後は、特に気をつけてください。

階段・手すりなど

- 汚れがひどいときは、かたく絞ったぬれぞうきんで拭き取ってください。その後、乾いた布で拭き取ってください。
- 使用上に異常・不具合が生じたときは、状況を確認してください。ご自身で対処できない場合は、施工業者さまにご連絡ください。



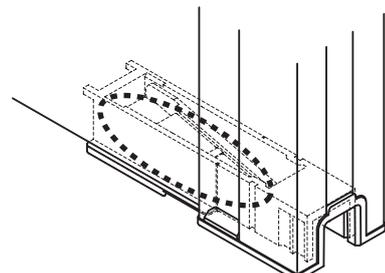
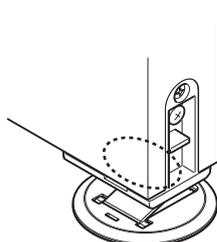
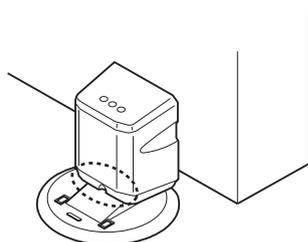
天然木のため起こること

- 床鳴り
原因の一つとして床材の継ぎ目部分がすれて音が発生していることが考えられます。これは天然木の性質として調湿機能が動き、伸び縮みを生じることによって発生するもので特性上やむをえない現象です。
- ソリ、目スキ、突上げ
天然木は呼吸しており、季節や使用場所など湿度変化によって伸び縮みを繰り返します。そのため床材のソリや目スキ、突上げ(継ぎ目部分の盛り上がり)が発生することがあります。特性上ある程度やむをえないものですので、ご理解ください。

室内ドア(ドアストッパー(マグネットタイプ))/可動間仕切り引戸(扉下部)/上吊引戸(扉下部)

- マグネット部に異物が付着している場合は取り除いてください。磁力が低下して、ストッパーが作動しないことがあります。

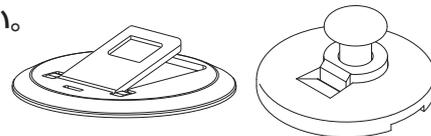
… マグネット位置



お手入れ方法

室内ドア(ドアストッパー(マグネットタイプ)) / 可動間仕切り引戸 ノンレールタイプ / 上吊引戸

- ストッパー、ガイドピンのまわりは定期的に掃除機をかけてください。
ゴミやほこりによって動きが悪くなり本体にかからなくなることがあります。
- 引っかかったゴミやホコリはストッパー、ピンを引き上げて取り除いてください。
掃除機でむりにこするとキズの原因になります。
- ジュースなどの液体をこぼした場合は、ストッパー、ピンを引き上げて濡れた布で拭き、よく乾かしてください。
- 床へワックスや洗剤を使用する場合はストッパー、ガイドピン内にはいり込まないようにしてください。
固着により動きが悪くなり本体にかからなくなることがあります。



アクセントボード

- 汚れが付着していた場合、きれいな乾いた柔らかい布でから拭きしてください。
ひどい汚れまたは落ちにくい汚れは、中性洗剤を薄めてかたく絞ったぞうきんで拭き取ってください。

絶対に使用しないでください

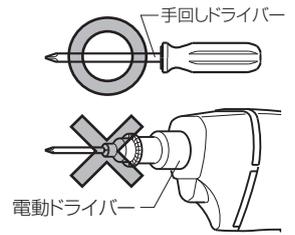
酸性・アルカリ性の洗剤、溶剤(シンナー・ベンジン)など

調整方法について

●ご使用の間、納まりに関して不都合が生じた場合は、以下の要領で調整を行ってください。

お願い

- この「取扱い説明書」に掲載されていない調整については、無理に調整しようとすると扉の落下・破損・ケガなどのおそれがありますので、お買い求めの販売店または、当社お客さま相談センターまでご相談ください。
- 建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。
電動ドライバーを使用した場合は、ねじ頭が壊れるおそれがあります。



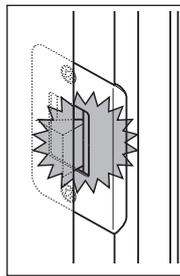
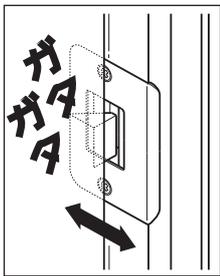
■調整方法を予告なしに変更する場合があります。ご了承ください。

ラシッサ室内ドア・SL戸襖ドア／ストライクによる建付け調整

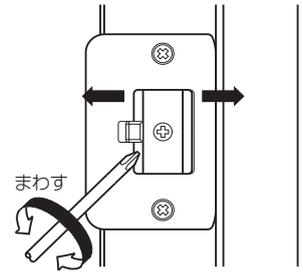
ラッチがストライクの中でガタついたり、ラッチがかかりにくい場合はプラスドライバーでストライクの調整ねじを回して調整してください。

■ラッチがストライクの中でガタつく

■ラッチがかからない



ストライク調整ねじ
可能調整範囲±3mm



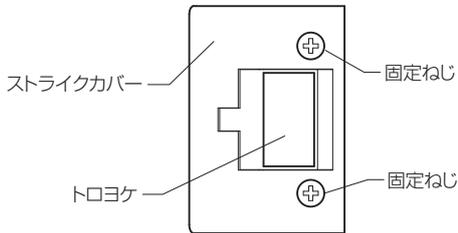
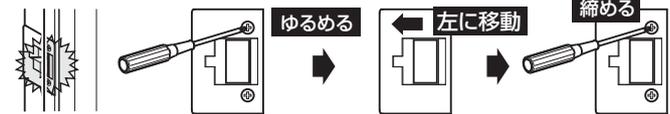
ラシッサ室内ドア(ライン枠)／ストライクによる建付け調整

- 固定ねじ2カ所をゆるめてください。
- トロヨケを手で左右に動かして位置を決めてください。
- 固定ねじ2カ所を締めて固定してください。

■ラッチがストライクの中でガタつく

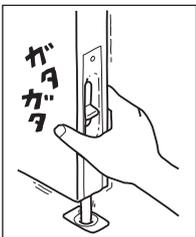


■ラッチがかからない

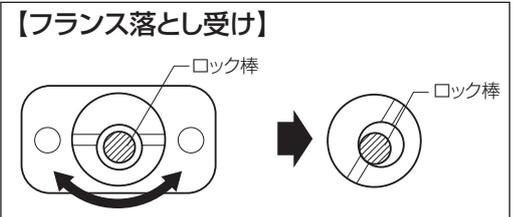
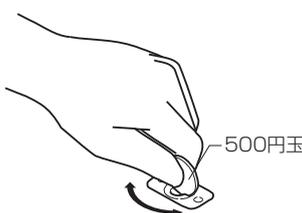


ラシッサ親子ドア／子扉のガタツキ調整

■子扉がガタつく

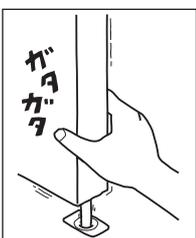


- コインなどで穴部分を回転させ、ロック棒をフランス落とし受けの内側に当てるようにしてください。

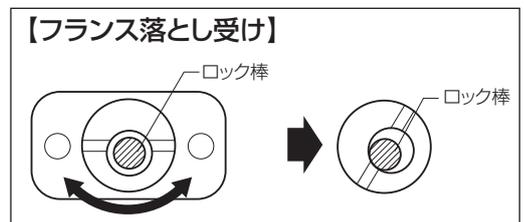
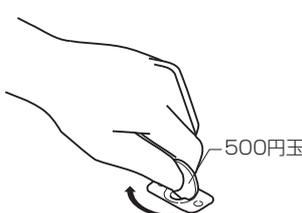


ラシッサ両開き窓／本体のガタツキ調整

■本体がガタつく



- コインなどで穴部分を回転させ、ロック棒をフランス落とし受けの内側に当てるようにしてください。



調整方法について

ラシッサ室内ドア・SL戸襖ドア／丁番による建付け調整

丁番の固定ねじ、調整ねじは回し過ぎると外れたり、破損する場合がありますので、ご注意ください。

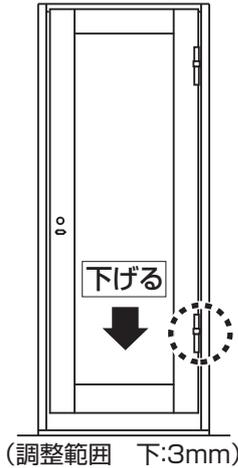
ドア建付け
調整方法
動画



5344728746001

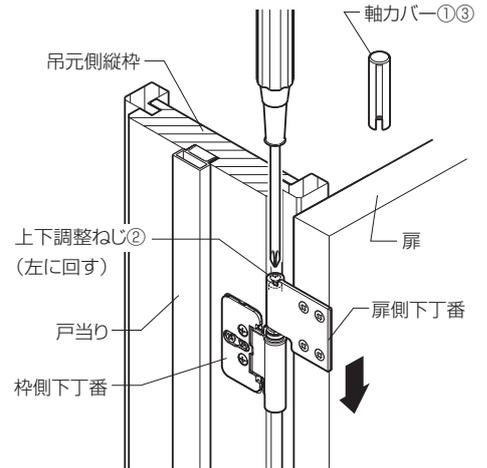
不具合例

■扉の上部が枠に当たる。



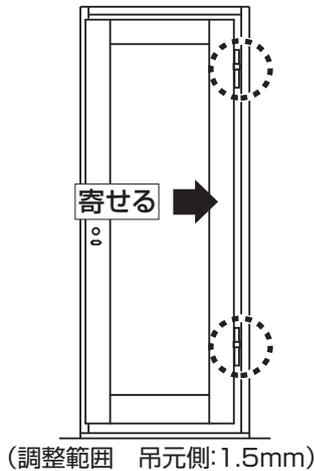
調整方法

- ①扉側下丁番の軸カバーを外す。
- ②上下調整ねじを左に回し扉を下げて位置を決める。
- ③軸カバーをはめる。



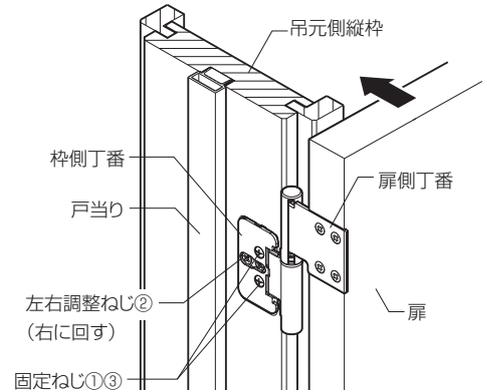
不具合例

■扉の戸先側が枠に当たる。



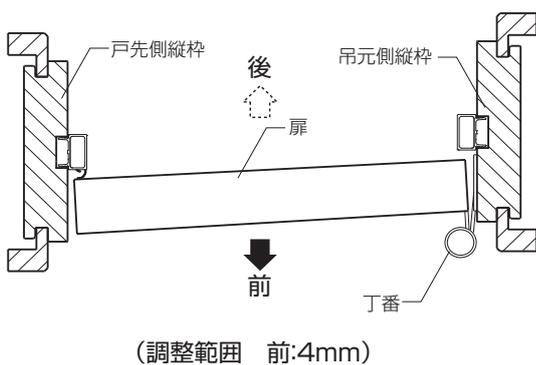
調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを右に回して扉を吊元側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。
- ④固定ねじが必ず締まっていることを確認してください。



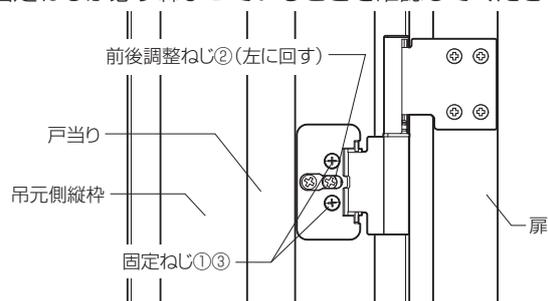
不具合例

■戸先側の枠が前に出ている。



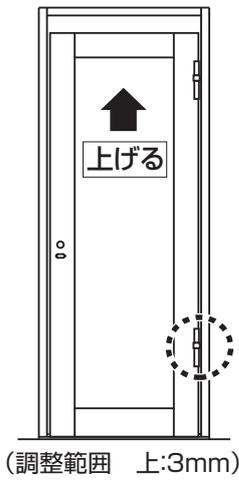
調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを左に回して扉を前に移動させる。
- ③固定ねじを締める。
- ④固定ねじが必ず締まっていることを確認してください。



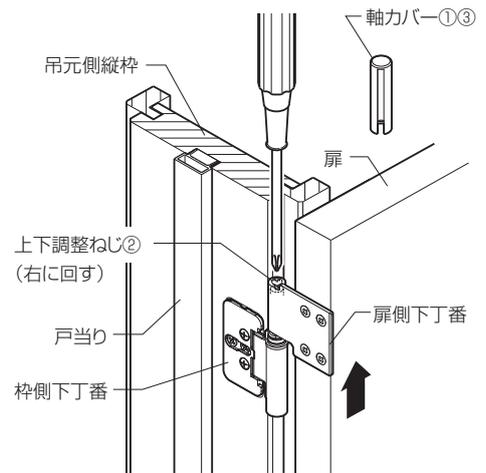
不具合例

■扉の下部が枠に当たる。



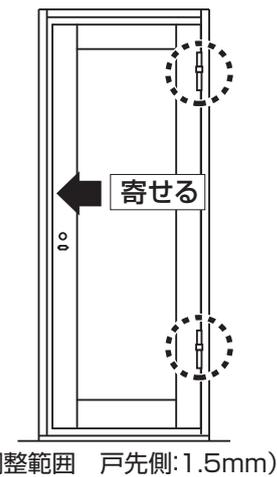
調整方法

- ①扉側下丁番の軸カバーを外す。
- ②上下調整ねじを右に回し扉を上げて位置を決める。
- ③軸カバーをはめる。



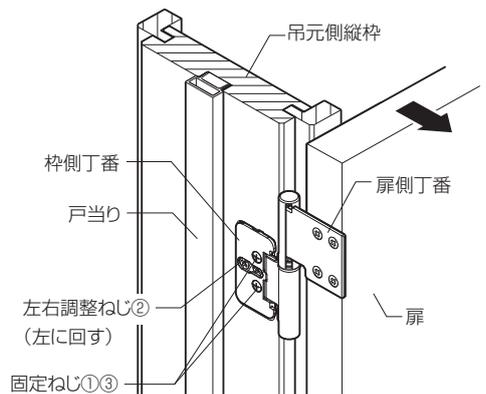
不具合例

■扉の戸先側のすき間が大きすぎる。



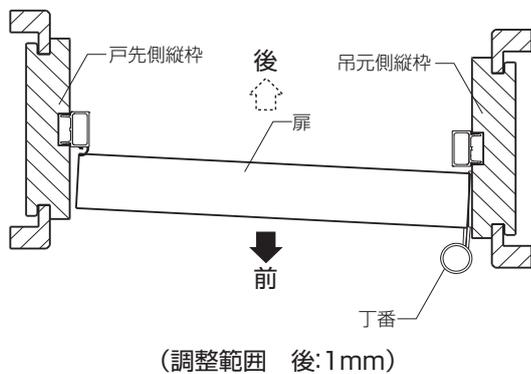
調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを左に回して扉を戸先側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。
- ④固定ねじが必ず締まっていることを確認してください。



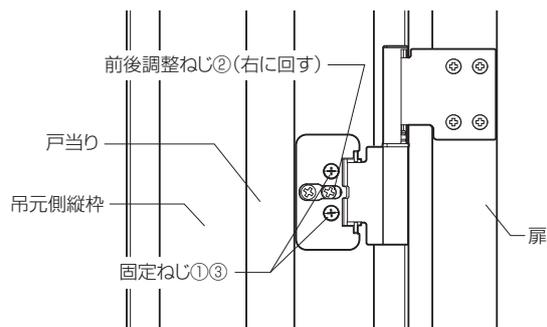
不具合例

■吊元側の枠が前に出ている。



調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを右に回して扉を後に移動させる。
- ③固定ねじを締める。
- ④固定ねじが必ず締まっていることを確認してください。



調整方法について

ラフィス室内ドア／コンパクトピボット丁番による建付け調整

※建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。

※電動ドライバーは、使用しないでください。ねじ頭が壊れるおそれがあります。

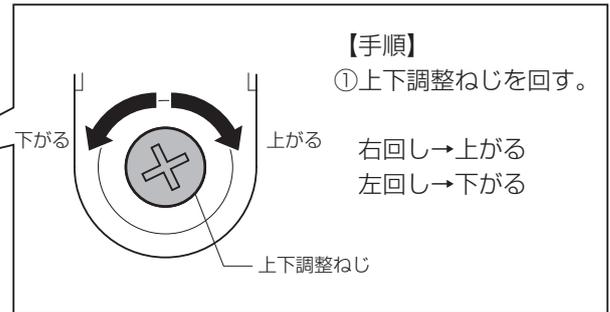
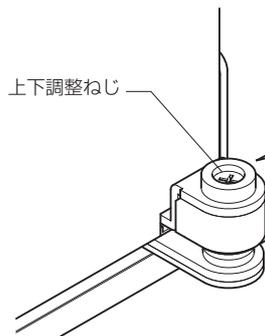
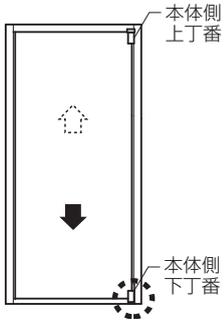
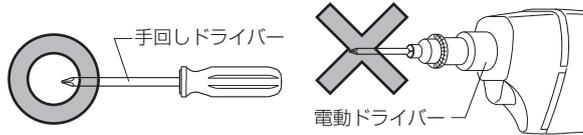
ドア建付け
調整方法
動画



5764152995001

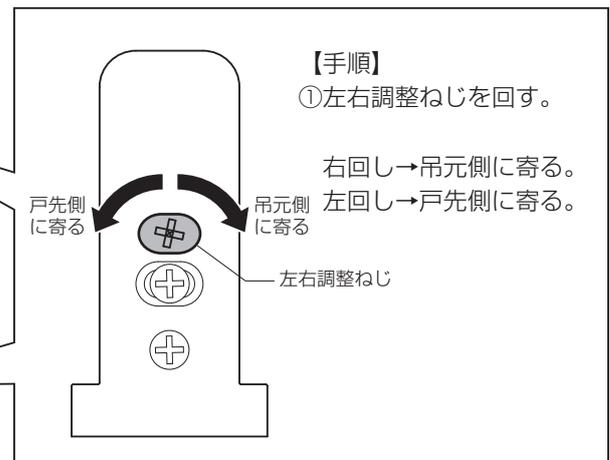
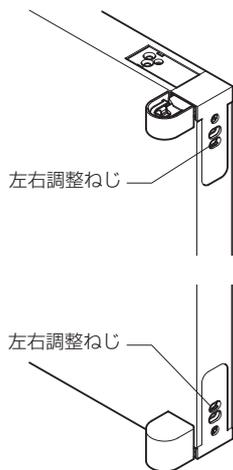
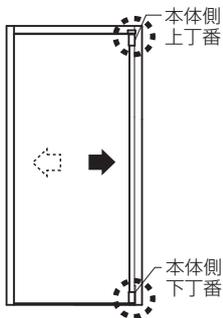
上下の調整

- 本体側下丁番で調整します。
- 調整幅は、上(2mm)、下(2mm)です。



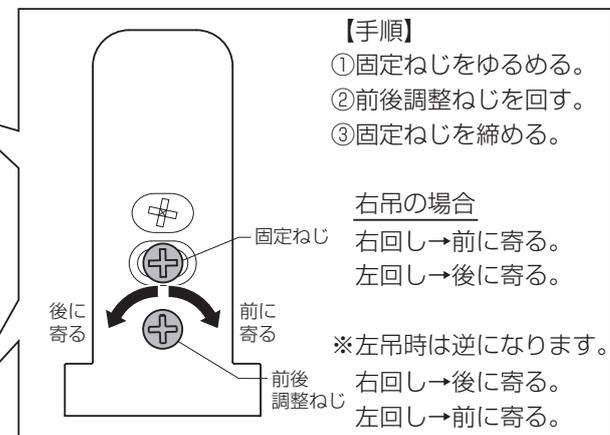
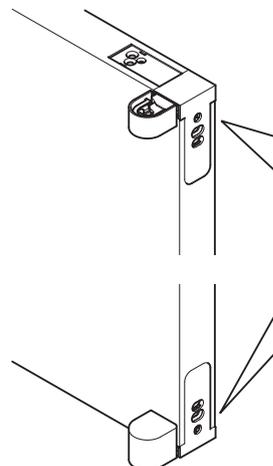
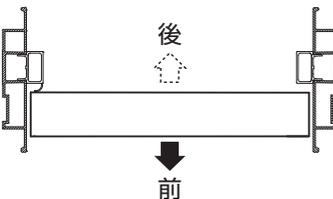
左右の調整

- 本体側上丁番および本体側下丁番の両方で調整します。
- 調整幅は、吊元側に1.5mm、戸先側に2.5mmです。



前後の調整

- 本体側上丁番および本体側下丁番の両方で調整します。
- 調整幅は、前(2mm)、後(2mm)です。

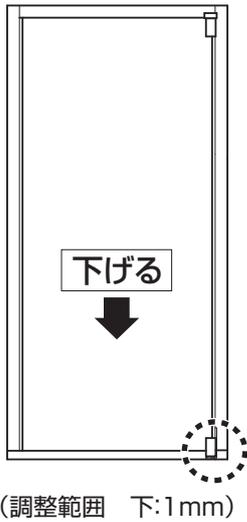


ラシッサ室内ドア／ピボット丁番による建付け調整

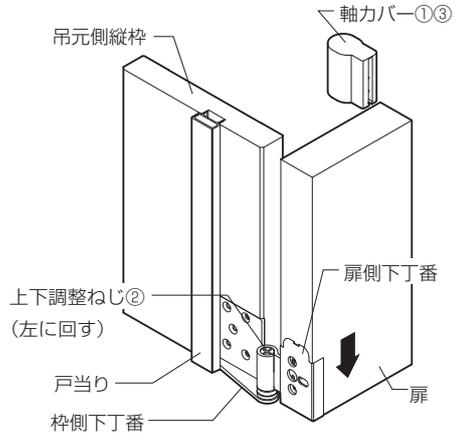
不具合例

調整方法

■扉の上部が枠に当たる。



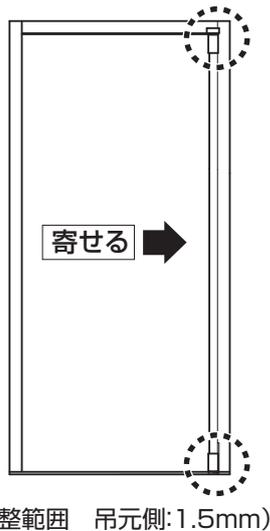
- ①扉側下丁番の軸カバーを外す。
- ②上下調整ねじを左に回しドアを下げて位置を決める。
- ③軸カバーをはめる。



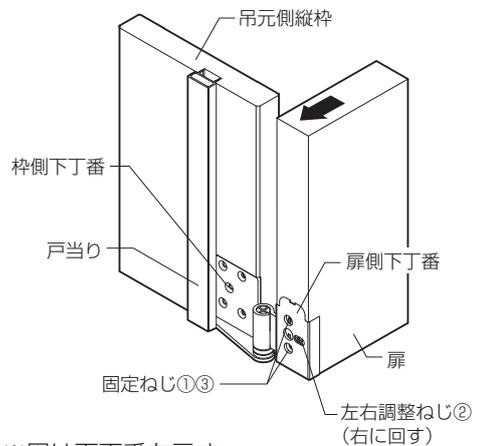
不具合例

調整方法

■扉の戸先側が枠に当たる。



- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを右に回して扉を吊元側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。

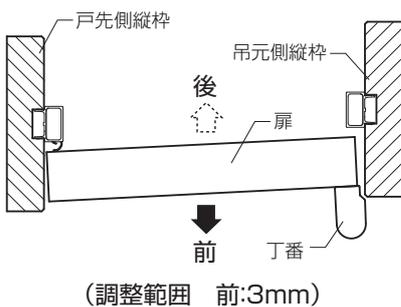


※図は下丁番を示す。
(上丁番も同様に調整してください)

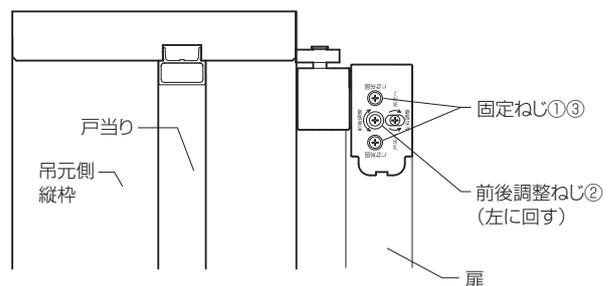
不具合例

調整方法

■戸先側の縦枠が前に出ている。



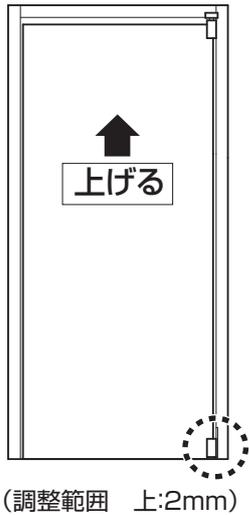
- ①固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを右に回して扉を前に移動させる。
- ③固定ねじを締める。



調整方法について

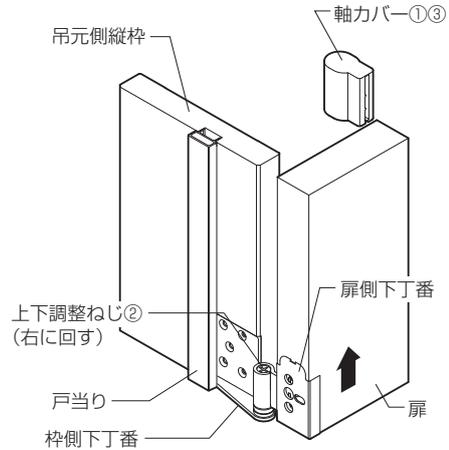
不具合例

■扉の下部が枠に当たる。



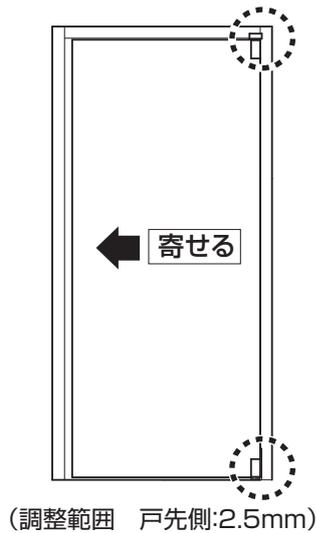
調整方法

- ①扉側下丁番の軸カバーを外す。
- ②上下調整ねじを右に回し扉を上げて位置を決める。
- ③軸カバーをはめる。



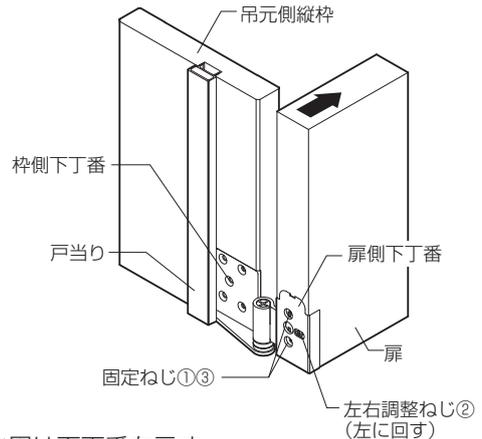
不具合例

■扉の戸先側のすき間が大きすぎる。



調整方法

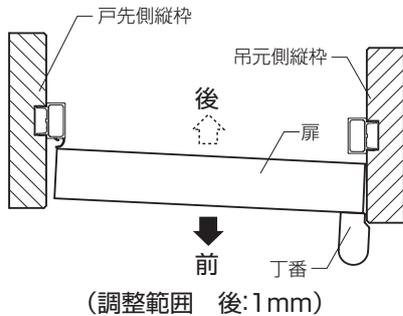
- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを左に回して扉を開き側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。



※図は下丁番を示す。
(上丁番も同様に調整してください)

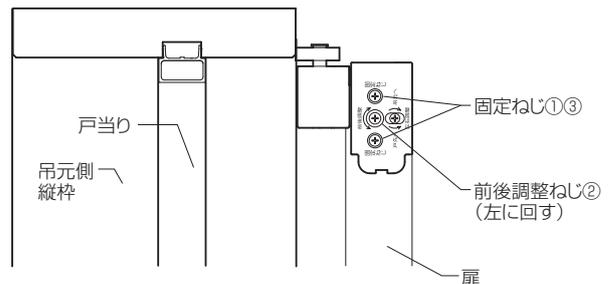
不具合例

■吊元側の縦枠が前に出ている。



調整方法

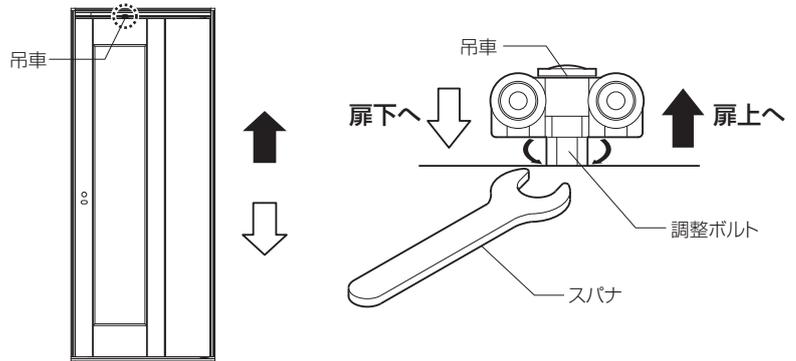
- ①固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを左に回して扉を後に移動させる。
- ③固定ねじを締める。



ラシッサ中折れドア / 左右・上下調整

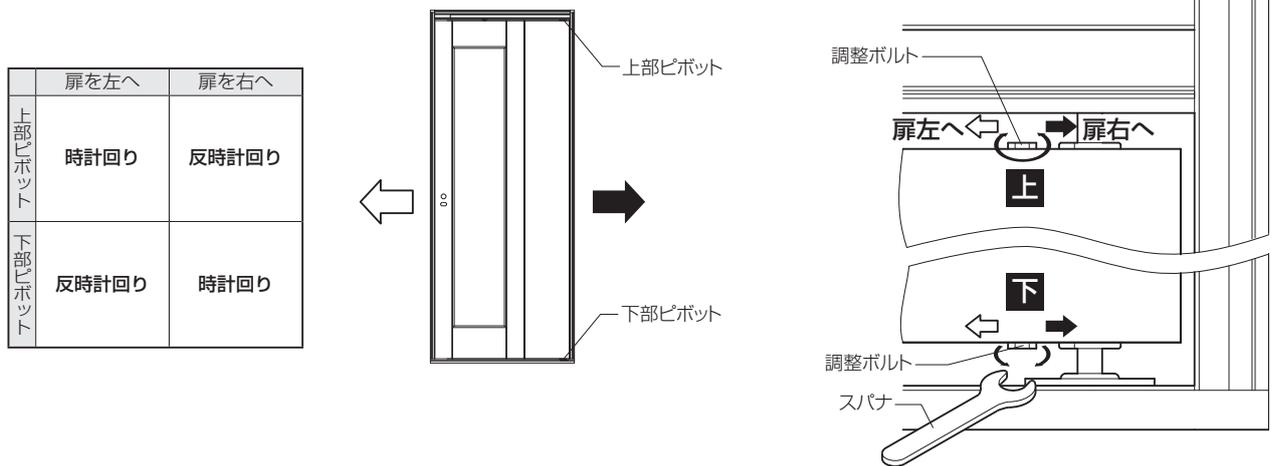
上下調整

- 吊車で調整します。調整幅は±3mmです。
- 付属のスパナで時計回りに回すと扉が上がり、反時計回りで扉が下がります。



左右調整

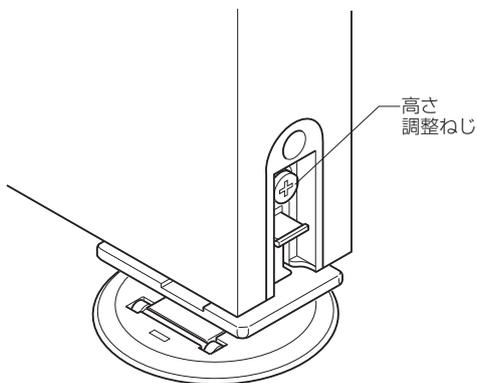
- 上・下部ピボットで調整します。調整幅は±2.5mmです。
- 付属のスパナで上・下部ピボットの調整ボルトを回して調整します。



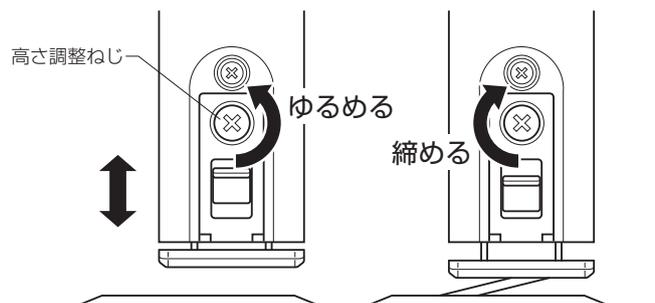
室内ドア（みえナイソウドアストッパー） / 上下調整によるストッパーかかり調整

お願い

- ドアストッパーを調整する前に、丁番でドア本体の建付け調整を行ってください。



ストッパーが掛からないときは、高さ調整ねじをゆるめてストッパーが掛かる位置まで部品を上下させて、再度ねじを締めなおしてください。



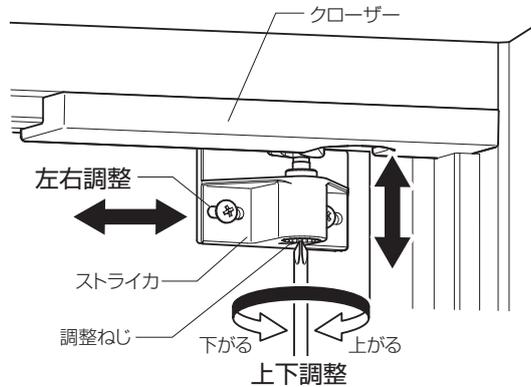
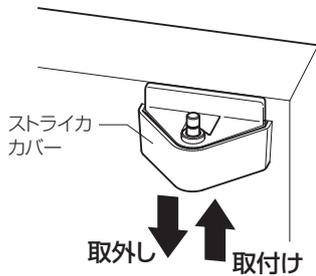
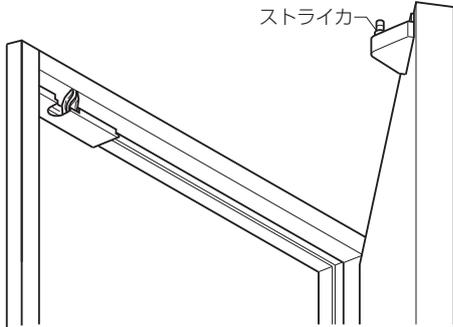
調整方法について

室内ドア(ソフトモーション)/ストライカの調整

お願い

●ソフトモーションを調整する前に、丁番でドア本体の建付け調整を行ってください。

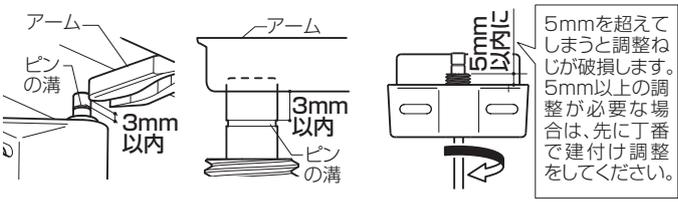
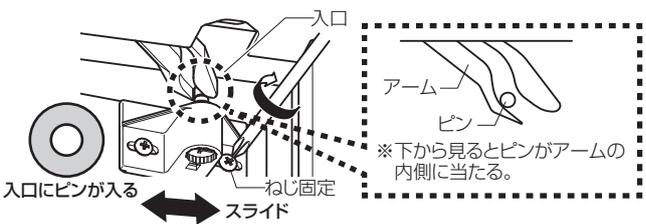
●調整はストライカカバーを取外し、行います。調整後は再度カバーを取付けてください。



■ソフトモーション機能異常時の対処方法

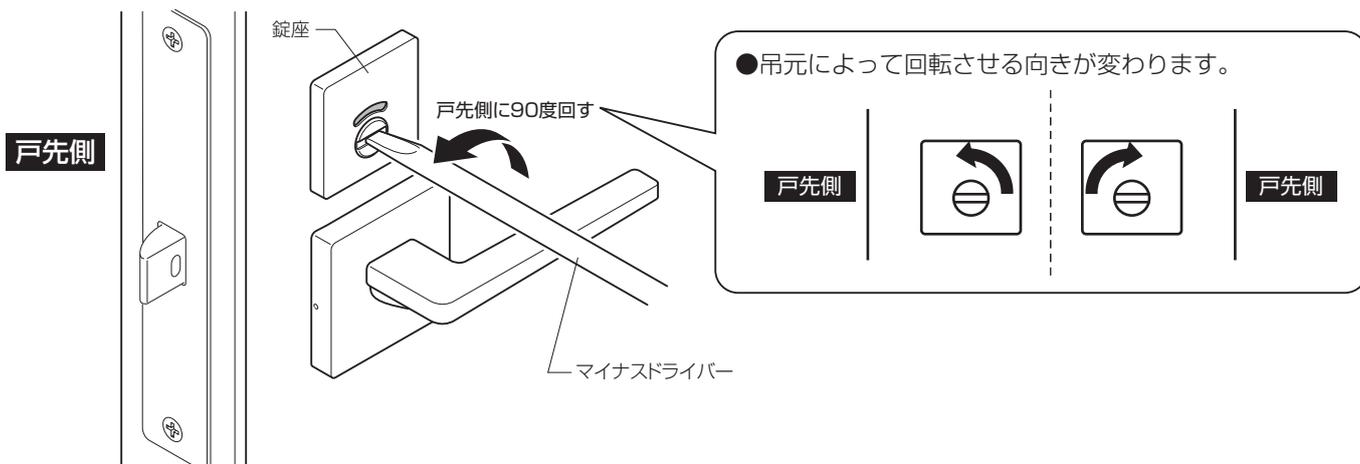
現象	原因	対処方法
ドアが閉まりきらない	アームとストライカの位置がずれています	上下調整でストライカピンの溝とアームの下面を合わせてください。
	ねじをゆるめてストライカを左右に動かし、アームの入口の丁番側の面ぎりぎりにピンが通過するように合わせてください。調整後は再度ねじを締めなおしてください。	左右調整
極端に強い換気扇や風が吹いている	換気扇を弱める。 強風が入ってこないように窓を閉める。	
クローザーカバーとストライカが接触している	丁番の上下調整でドアを下げてください。 ▶ ドアの建付け調整 P.24	
ドア本体が反っている	丁番の建付け調整を行なった上で、ストライカの調整を行ってください。改善されない場合、ドア本体の交換が必要です。 ▶ ドアの建付け調整 P.30	

■ソフトモーション機能異常時の対処方法

現象	原因	対処方法
ドアを開けるときのアームが戻る	アームとストライカの位置がずれています	上下方向 
		左右方向 <p>ねじをゆるめてストライカを左右に動かし、アームの入口の丁番側の面ぎりぎりにピンが通過するように合わせてください。調整後は再度ねじを締めなおしてください。</p> 
ブレーキが全く効かない	ダンパーの破損	クローザーの交換が必要です。
	ストライカピンの破損	ストライカピンの交換が必要です。
ブレーキの利き具合がドアによって違う	商品特性上問題ありません。	本体の重量、建付け、部屋の広さ、風の強さ・向きにより同一にはなりません。
ドアを強く閉めると丁番部分がおおる	商品特性上問題ありません。	ただし、繰り返し行なうと丁番取付け部がグラつくしますので、お控えください。

室内ドア／表示錠・簡易錠 非常解錠方法

- 錠座の凹部にマイナスドライバーまたはコイン(10円玉)を差し込み、戸先側へ向かって90度回します。

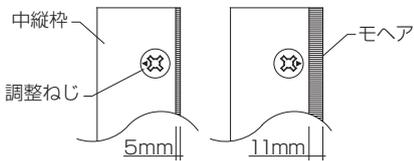


調整方法について

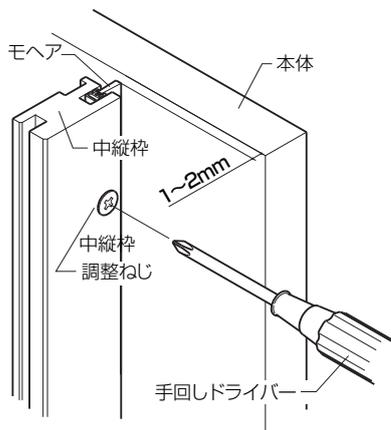
ラシッサ室内引戸 / 中縦枠の調整

■中縦枠の調整（調整幅 +6mm）

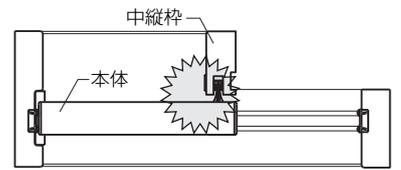
- ①中縦枠のモヘア調整ねじを手回しドライバーで回してモヘアの出寸法を調整してください。
- ②調整後、本体とモヘアの先端が1～2mmのすき間が確保されているか確認してください。



調整ねじの▲マークがモヘア側に向いている時がモヘアが最も出ている状態で、逆に向いている時が最も引っ込んでいる状態です。



●片引き・引分け



本体と中縦枠モヘアが接触しすぎると、開閉が重くなります。

※本体とモヘアのすき間が1～2mm程度になるように調整してください。

モヘア
調整動画

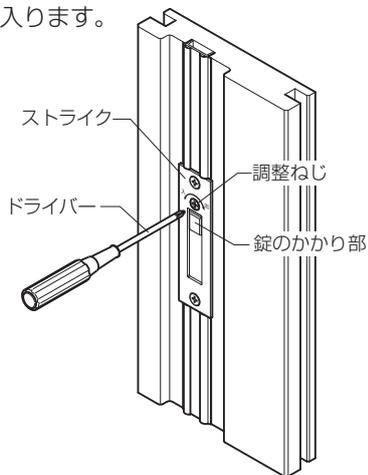


569522996002

室内引戸 / 引戸錠のかかり調整

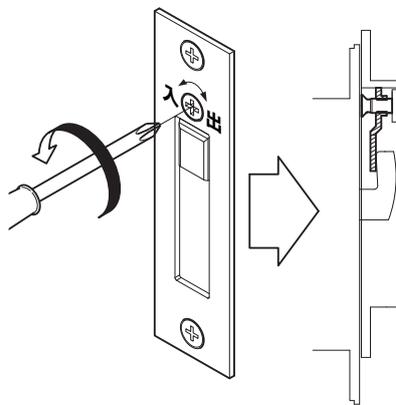
■引戸錠のかかり調整

- ストライクの調整ねじを右に回すと錠のかかり部が出て、左に回すと錠のかかり部が奥に入ります。



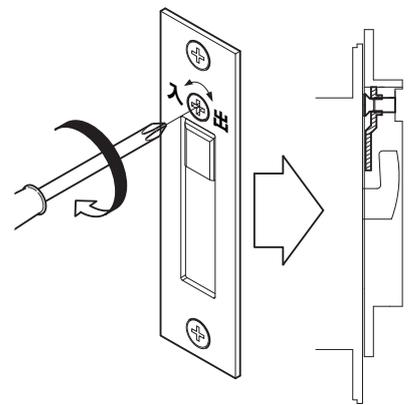
【本体と枠のすき間が大きい場合】

- 調整ねじを左に回して調整してください。



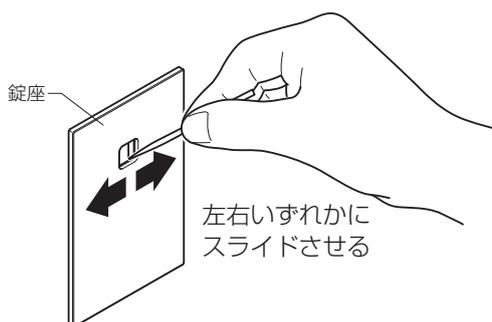
【錠がかかりにくい場合】

- 調整ねじを右に回して調整してください。



室内引戸 / プッシュ錠 非常解錠方法

- 錠座の表示窓（解錠穴）のくぼみに先の細いもの（つまようじなど）を挿入し、横へスライドさせます。



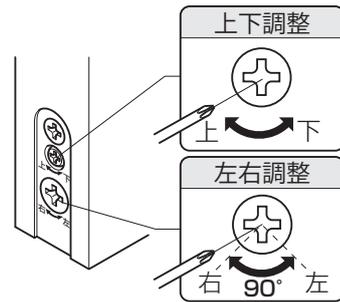
ラシッサ 室内引戸 Vレール方式・SL戸襖引戸 / 戸車調整

■上下調整（調整幅+ 4mm、- 2mm）

- 本体両下端の上下調整ねじを回して調整してください。

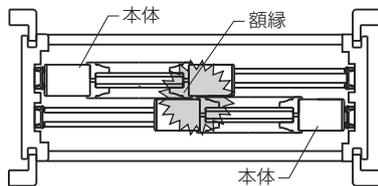
■左右調整（調整幅± 2mm）

- 本体両下端の左右調整ねじを回して調整してください。
- ※左右調整ねじの可動範囲は90°です。これを超えて無理に回さないでください。

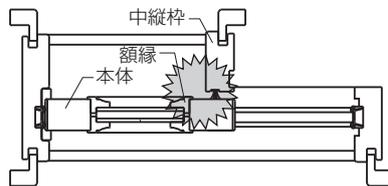


※左右調整する場合は、本体同士がぶつからないようにご注意ください。また、本体と中縦枠モヘアが接触しすぎて、開閉が重くならないよう調整してください。

●引違い・3枚・4枚建



●片引き・引分け



Vレール引戸
建付け
調整動画



973347946002

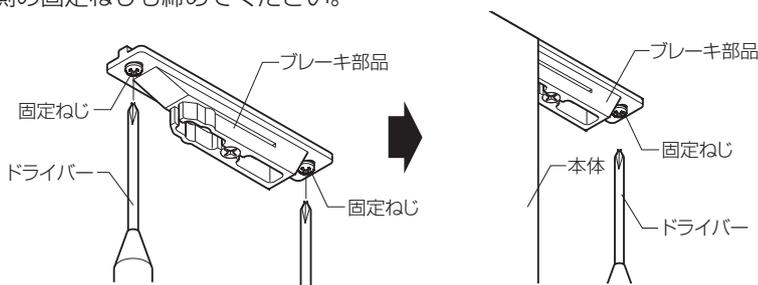
⚠ 注意

- 本体と上レールへのかかりを 5mm 以上確保してください。かかりが少ない場合は、本ページの本体の調整を必ず行ってください。本体が枠から外れてケガをする原因になります。

ラシッサ 室内引戸 Vレール方式・SL戸襖引戸 / ブレーキ調整

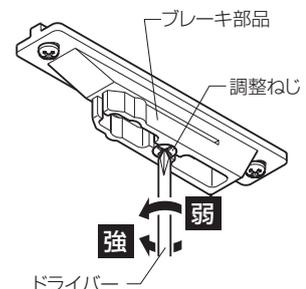
■ブレーキの左右調整

- 本体の左右調整時、ブレーキの左右調整も行ってください。上レール内側に付いているブレーキ部品の固定ねじをゆるめ、図のように本体を途中まで閉じてください。このまま片側の固定ねじを締め、本体を開けて反対側の固定ねじも締めてください。

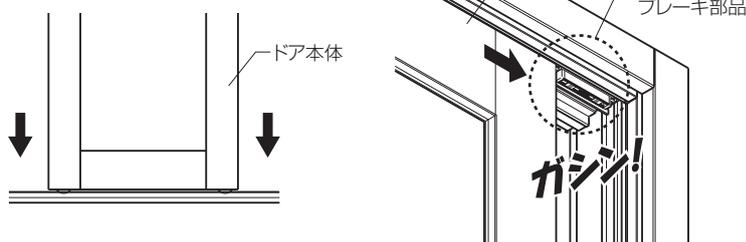


お願い

- 調整ねじを弱方向に回す場合、ブレーキの表面からねじ頭の出寸法が 1.5mm 以内になるように調整してください。回しすぎるとねじが抜けます。



- 本体がブレーキ部品に当たる時は、戸車の上下調整ねじを回して本体を下げてください。



調整方法について

ラシッサ 室内引戸Vレール方式 ソフトモーションの調整

シングルソフト
モーション
調整動画



973032775002

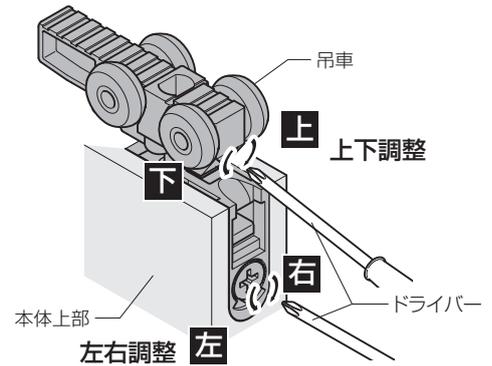
■ソフトモーション機構の調整方法

現象	チェックポイント	対処方法
<p>閉まりきらない すき間</p> <p>STOP!</p>	<p>●下レールに粉塵やゴミがたまったり付着している。</p>	<p>下レールを清掃してください。</p> <p>■Vレールの場合</p> <p>※この面に付着している汚れを拭き取ってください</p> <p>※この部分にたまっているゴミを吸い取ってください</p> <p>■フラット下レールの場合</p> <p>※この面のゴミ・汚れを除去してください</p> <p>フラット下レール</p> <p>床</p>
<p>閉まりきらない</p>	<p>●本体がソフトモーション受け部品と接触している。</p> <p>ガタン!</p> <p>本体</p> <p>ソフトモーション受け部品</p>	<p>戸車を下げてください。</p> <p>上下調整</p> <p>下</p>
<p>本体があおる</p> <p>ガタッ!</p>	<p>●受け部品の高さがあっていない。</p>	<p>調整ねじを回して受け部品の高さを調整してください。</p> <p>調整ねじ</p> <p>手回しドライバー</p> <p>シングルソフトモーション受け部品</p> <p>受け部品</p> <p>高さ合わせる</p> <p>手回しドライバー</p>
<p>ソフトモーションが作動しない</p>		

室内引戸（上吊・アウトセット方式）可動間仕切り引戸方式／吊車による建付け調整

■上下調整（調整幅+4mm、-1mm）

- プラスドライバーで、吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。
- ※床面と本体下部とのチリ寸法は、8（-1、+2）mmが標準です。
- ※本体と床のすき間が範囲からはずれていると、ガイドピン・ガイドスライダーがはずれたり、ガイドピン・埋込敷居・フラット下レールと引戸の下部がこすれる場合があります。



■左右調整（調整幅±2mm）

- 前後調整は、プラスドライバーで吊車下部の調整ねじを右に回すと本体が右へ動き、左に回すと本体が左に動きます。

上吊引戸／引込み調整

■ソフトモーション機構の調整方法

現象	チェックポイント	対処方法
<p>閉まりきらない すき間</p> <p>STOP!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●下レールやフラット下レールに粉塵やゴミがたまったり付着している 	<p>下レールを清掃してください。</p> <p>■Vレールの場合</p> <p>※この面に付着している汚れを拭き取ってください</p> <p>※この部分にたまっているゴミを吸い取ってください</p> <p>■フラット下レールの場合</p> <p>※この面のゴミ・汚れを除去してください</p> <p>フラット下レール</p> <p>床</p>
<p>閉まりきらない すき間</p> <p>STOP!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●本体とモヘアが接触している ※片引き・引分けのみ <p>中縦枠</p> <p>本体</p>	<p>吊車の左右調整ねじで本体にモヘアが触れて開閉が重くならないように調整してください。</p> <p>【吊車の調整】</p> <p>左右調整ねじを左に回すと本体が左に動き、右に回すと右に動きます。（調整幅左右各2mm）</p> <p>上下調整</p> <p>左右調整</p> <p>ドライバー</p>
<p>ブレーキが効かない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●吊車（ソフトモーション付）のラッチが上がっている 	<p>本体を全開した後、全閉することを1～2回繰り返してください。ソフトモーション機構が自動復帰します。</p> <p>全開</p> <p>全閉</p>

■ソフトモーションには商品の構造上、以下の現象が発生します。

製品不具合ではありませんので、あらかじめご了承ください。

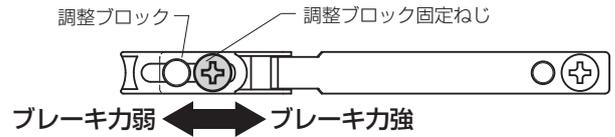
- ・開閉の際にカチッという部品の作動音が生じます。
- ・バネを採用している為、扉を開ける際に途中扉が重く感じる部分があります。
- ・オイルダンパー（緩衝装置）を使用している為、夏季と冬季（部屋の温度差）で引き込み速度が異なる場合があります。
- ・扉の重量、建付け状況により、扉の引き込み速度が異なる場合があります。
- ・重量の重い扉を強めに閉めると、ブレーキ感が弱く感じる場合があります。
- ・重量の軽い扉を勢いよく閉めると、扉戸先の浮き上がり（つかかり）が生じる場合があります。
- ・レール、戸車にゴミなどが付着し動きが悪くなると、扉が閉まりきらないことがあります。

調整方法について

上吊引戸／ブレーキ調整

■ブレーキの調整

- 上レール内側に付いているブレーキ部品の調整ブロック固定ねじを2回転までゆるめ、調整ブロックをスライドさせて、ブレーキ力を調整してください。調整後は、固定ねじを締めてください。



ラシッサ 上吊連動引戸／吊車調整

現象	チェックポイント	対処方法
開閉が重い	<ul style="list-style-type: none"> ●下枠とガイドスライダがこすれている <p>8mmより小さい</p> <p>中間本体 ガイドスライダ 戸先本体 L型ガイド</p> <p>✕ 中間本体のチリが8mmより小さい</p>	<p>下枠とガイドスライダがこすれないように調整してください。</p> <p>■中間本体の連動を解除する スライダから戸先本体の吊車を外します。調整が完了したら逆の手順でスライダに戸先本体の吊車を取付けてください。</p> <p>スライダを下図のように広げて吊車を外してください。</p> <p>■吊車の調整 吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。(調整幅上4mm、下1mm)</p> <p>吊車 上下調整 ドライバー 左右調整 本体上部</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●戸先本体とL型ガイドが見込方向でこすれている <p>中間本体 ガイドスライダ 戸先本体 L型ガイド</p> <p>✕ 戸先本体のチリが中間本体のチリより小さい</p>	<p>戸先本体とL型ガイドがこすれないように調整してください。</p> <p>■中間本体の連動を解除する 連動ユニットのスライダから戸先本体の吊車を外します。調整が完了したら逆の手順でスライダに戸先本体の吊車を取付けてください。</p> <p>スライダを下図のように広げて吊車を外してください。</p> <p>■吊車の調整 吊車下部の調整ねじを左に回すと本体が左に動き、右に回すと右に動きます。(調整幅左右各2mm)</p> <p>吊車 上下調整 ドライバー 左右調整 本体上部</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●戸先本体とL型ガイドが高さ方向でこすれている <p>中間本体 ガイドスライダ 戸先本体 L型ガイド</p> <p>✕ 戸先本体のチリが中間本体のチリより小さい</p>	<p>戸先本体とL型ガイドがこすれないように、戸先本体または中間本体を調整してください。 ※中間本体を下げる場合はガイドピンとのこすれ、床とのこすれに注意してください。</p> <p>■吊車の調整 吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。(調整幅上4mm、下1mm)</p> <p>吊車 上下調整 ドライバー 左右調整 本体上部</p>

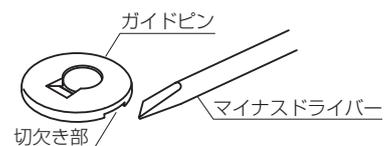
ラシッサ 上吊連動引戸／引込み調整

現象	チェックポイント	対処方法
ブレーキが効かない	<ul style="list-style-type: none"> ●吊車(ソフトモーション付)のラッチが上がっている 	<p>本体を全開した後、全閉することを1~2回繰り返してください。ソフトモーション機構が自動復帰します。</p> <p>全開 → 全閉</p>

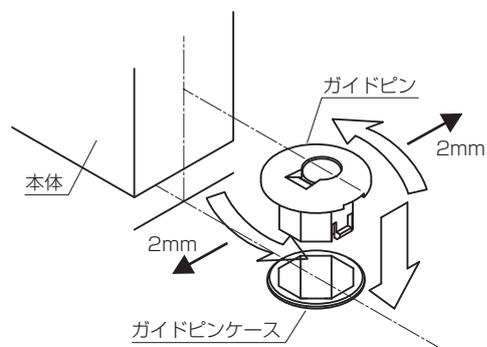
上吊引戸／ガイドピンの調整

■前後調整（調整幅± 2 mm）

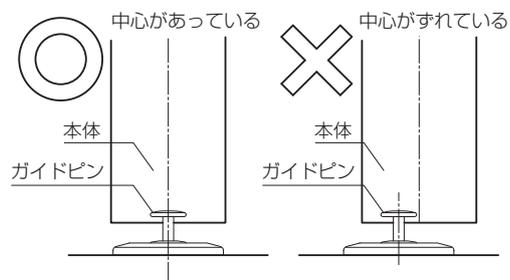
- ガイドピンを切り欠き部にマイナスドライバーなどを差込んで外してください。
※床にキズがつかないようにマイナスドライバーの下にあて布をして外してください。



- 本体が前後に動いていないことを確認し、本体の中心線上にガイドピンの先端がくるようにガイドピンをまわして位置をあわせてください。
※中心がずれていると、本体の開閉時にガイドピンが外れてしまう場合があります。
※ガイドピンケース内部、ガイドピン本体にゴミなどが入り込んでいる場合はきれいに取り除いてください。



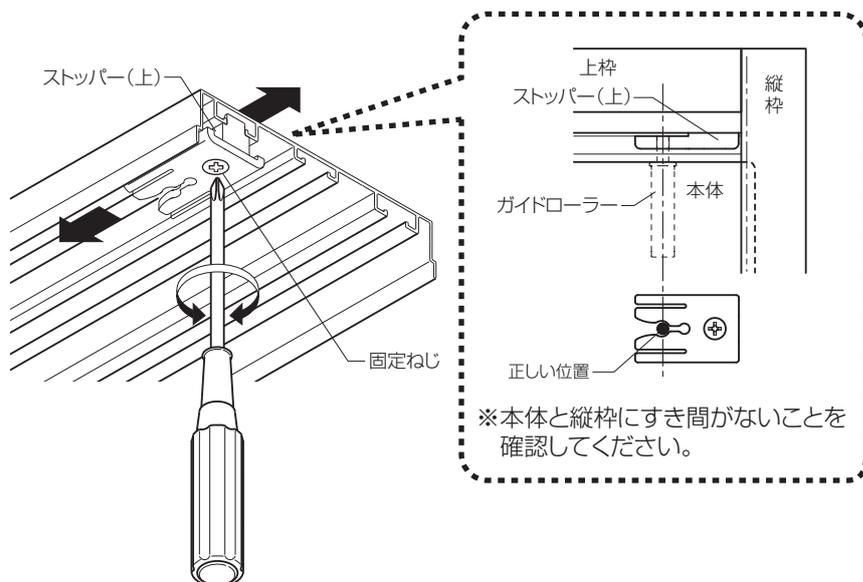
- 位置があったらガイドピンをガイドピンケースへ『カチッ』と音がするまで押し込んでください。



ラシッサ クローゼット連動引戸タイプ／ストッパー調整

■ストッパーの調整

- ①ストッパーの固定ねじをゆるめます。
- ②右図のように正しい位置にストッパーを動かします。
- ③ストッパーの固定ねじを締めてください。



- ※本体の高さ調整を行ったあとにストッパーの位置を調整してください。
- ※ガイドローラーがストッパーの正しい位置におさまるようにしてください。

調整方法について

クローゼット折れ戸／吊車による建付け調整

■段違い(上・下)の調整

- 扉の取付け後、上下の目地が合っていない場合、左右の吊車の上下調整ねじをドライバーで回し調整してください。

(上下調整量 +5mm -1mm)



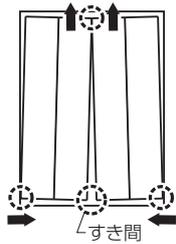
クローゼット折戸
本体建付け
調整方法動画



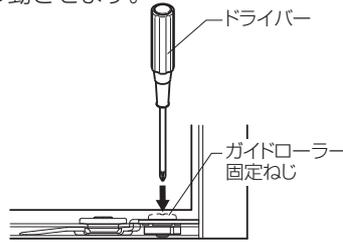
973347564002

■扉同士のすき間の調整

- 吊車上下調整および、ガイドローラー固定金具左右調整を行います。

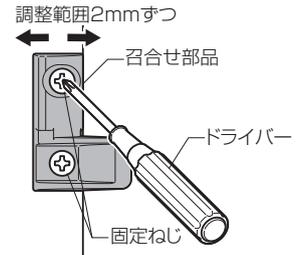


- 扉をずらしてガイドローラー固定金具ねじをプラスドライバーでゆるめて移動させます。



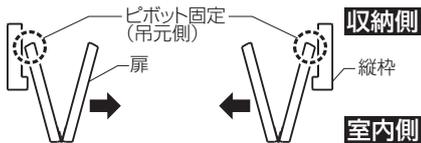
■召し合せ部品の調整

- 固定ねじをドライバーでゆるめて調整してください。



■ピボット・フリー切替方法

- ピボット仕様 (吊元側)

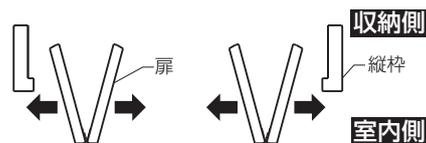


- ピボット仕様にする方法

- ①扉を開けてください。
- ②扉を吊元側へ「カチッ」となるまで押し込んでください。
- ③開閉して上下とも固定されていることを確認してください。



- フリー仕様



- フリー仕様にする方法

- ①扉を開けて折りたたんでください。
- ②折りたたんだまま扉の中央より上側を手前に引いて、上部切替カセットから外してください。
- ③扉を引いて、下側を固定金具から外してください。



クローゼット折戸
フリー・ピボット
切替方法動画

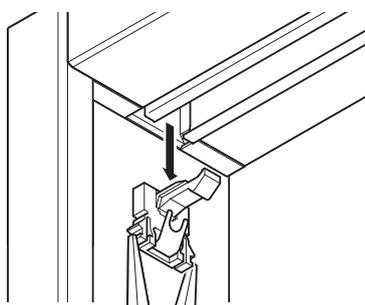
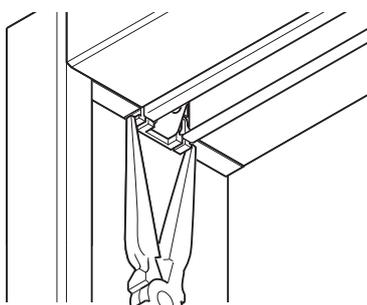


973347563002

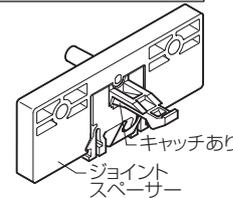
■常時フリー仕様にする方法(フリー・ピボット切替方法 → 常時フリー仕様)

- フリー・ピボット切替カセットの外し方

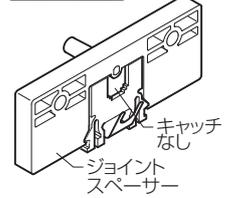
- ①ベンチなどでカセットの端部を挟み込みます。
- ②下方向へ引き抜きます。



フリー・ピボット切替仕様



フリー仕様



フリー・ピボット
切替カセット
着脱方法動画

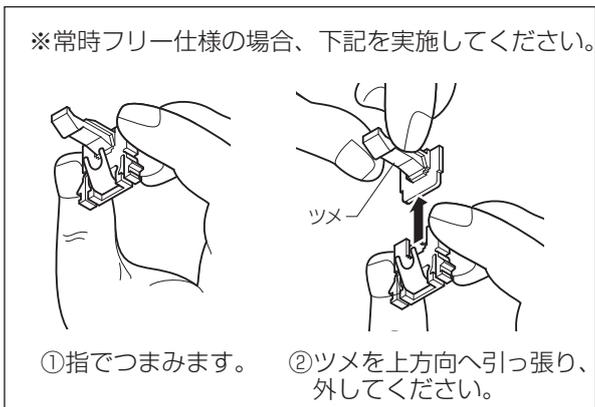
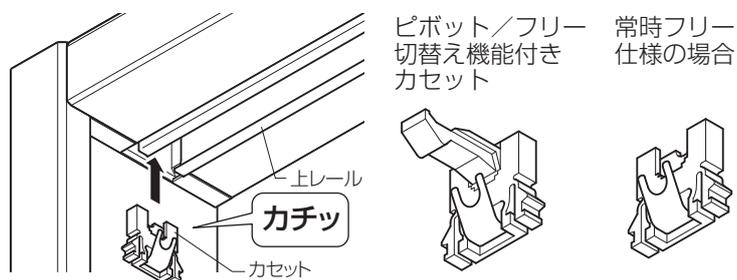


973347561002

クローゼット折れ戸／吊車による建付け調整

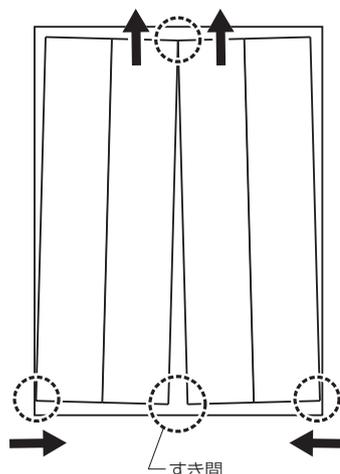
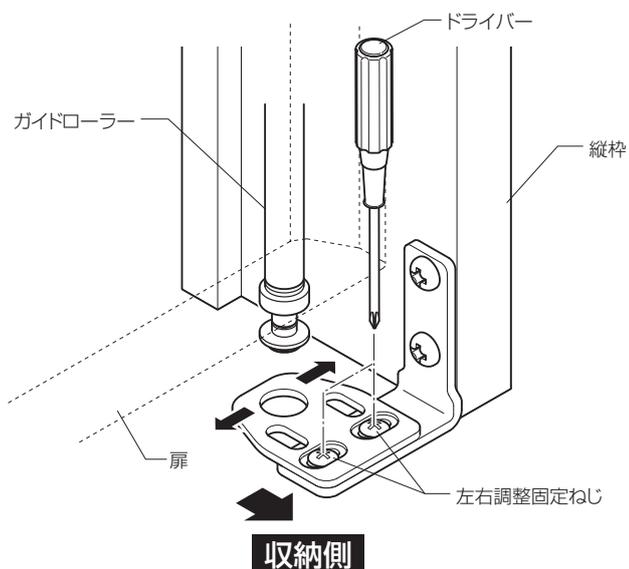
●カセットの取付け方

③ツメを外したカセットをレールとジョイントスペーサーの間にカチッとなるまで差込んでください。



■扉同士のすき間の調整（ノンレールタイプの場合）

●扉同士のすき間が大きい場合、吊車上下調整および、固定金具の左右調整ねじをドライバーでゆるめ、位置調整後に固定してください。（左右調整量± 3mm）

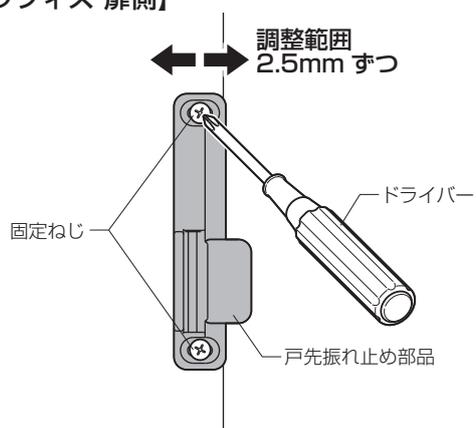


■戸先振れ止め部品の調整

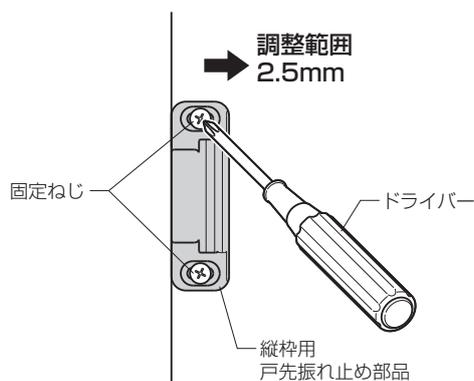
●固定ねじをドライバーでゆるめて調整してください。

【ラシッサ 扉側・縦枠側共通】

【ラフィス 扉側】



【ラフィス 縦枠側】

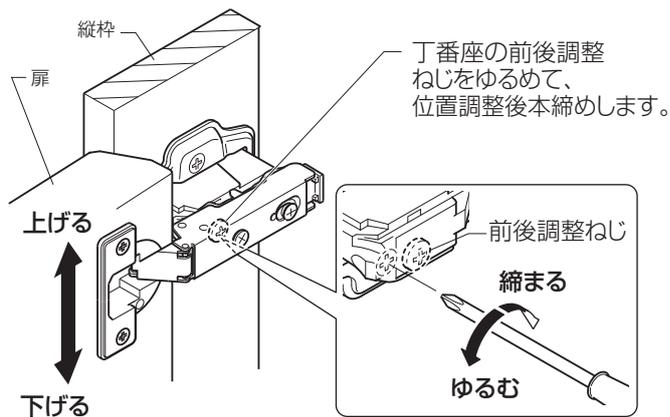
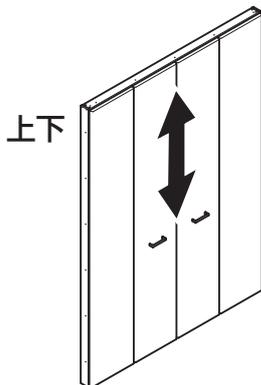


調整方法について

ラシッサ クローゼット折戸すっきりタイプ / スライド丁番、吊ヒンジによる建付け調整

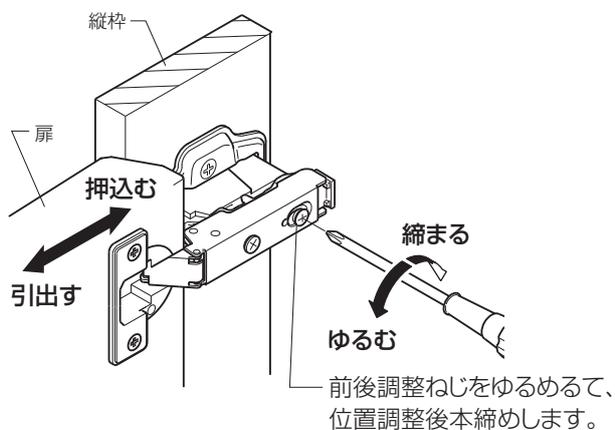
■上下調整

(調整範囲：± 1.5mm)



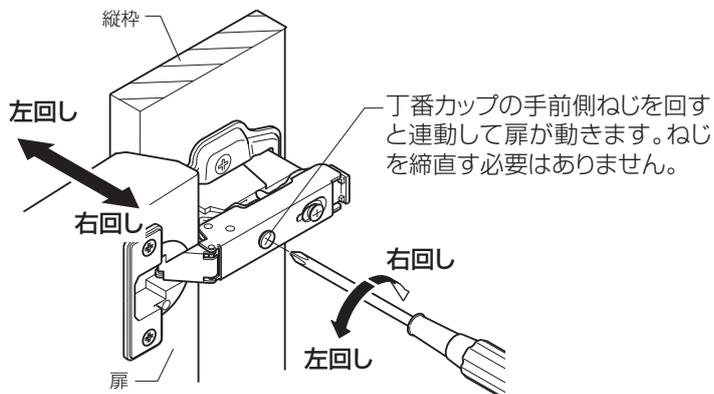
■前後調整

(調整範囲：± 2mm)



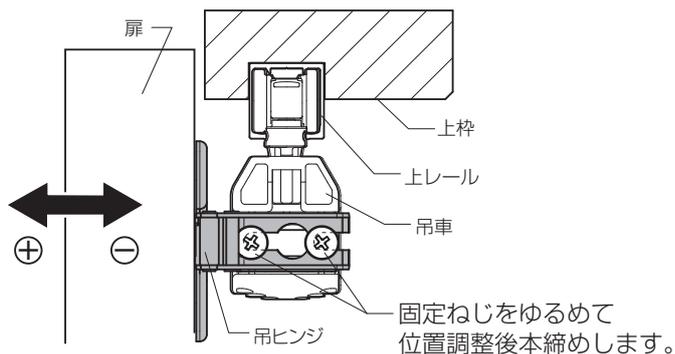
■左右調整

(調整範囲：吊元側へ 1mm、戸先側へ 3mm)



■吊ヒンジ調整

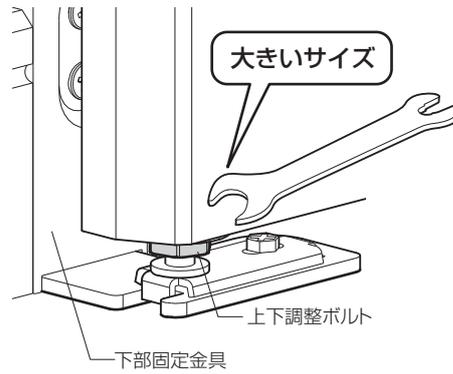
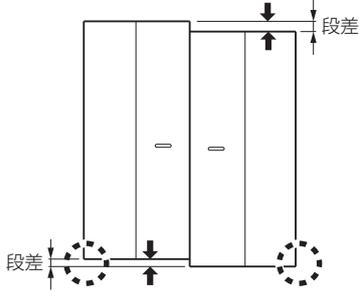
(調整範囲：+ 1mm、- 2.5mm)



クローゼット折れ戸アウトセットタイプ / 下部固定金具による建付け調整

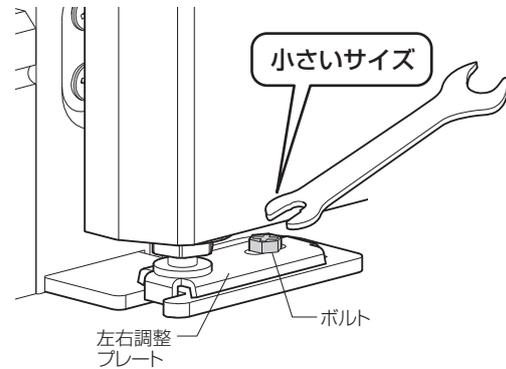
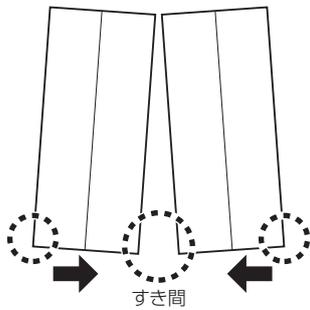
■上下調整

- 本体の取付け後、上下の目地が合っていない場合、付属の調整スパナで下部固定金具の上下調整ボルトを回して調整します。(上下調整量：±3mm)



■左右調整

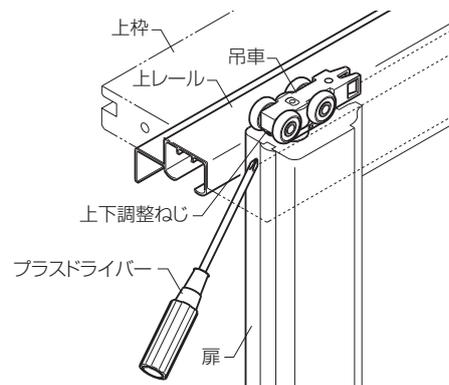
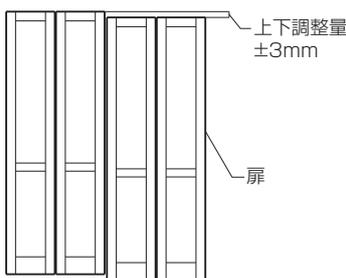
- 付属の調整スパナで下部固定金具の左右調整プレート上のボルトをゆるめ、左右方向の調整をした後、ボルトを締め付けます。(左右調整量：±3mm)



ラシッサ 可動間仕切り折れ戸 / 吊車による建付け調整

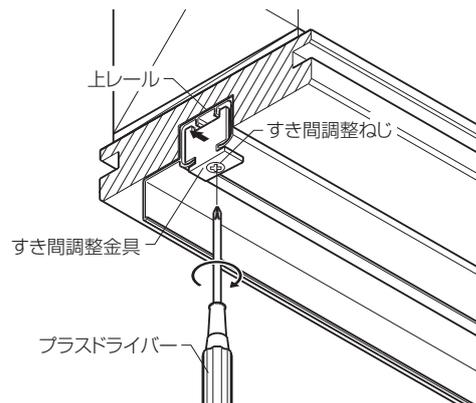
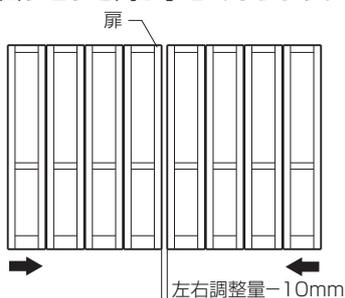
■上下方向の調整

- 扉が段違いになった場合は、左右の吊車の上下調整ねじをドライバーで回して調整してください。



■左右方向の調整

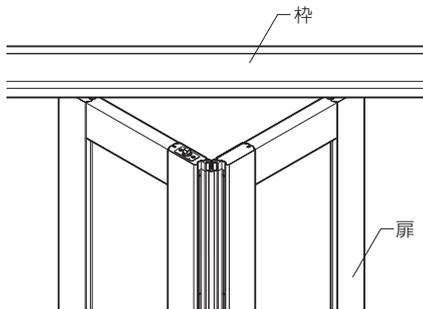
- 扉間のすき間が大きい場合は、上レール両端のすき間調整ねじをプラスドライバーで回して調整してください。右に回すとすき間が小さくなります。



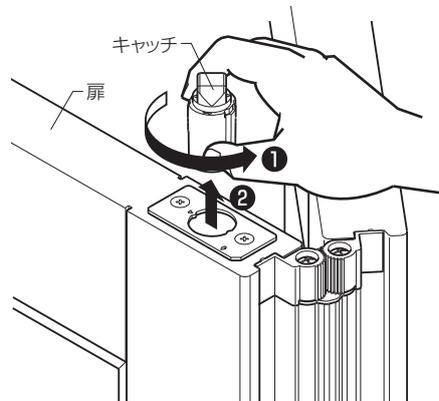
調整方法について

■扉の振れ止めの調整(キャッチの上下調整)

①扉を開けてください。

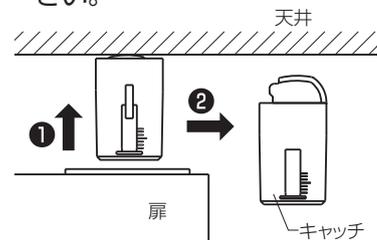


②キャッチのヘッドを左に回してロックを解除して、キャッチを上へ引抜きます。



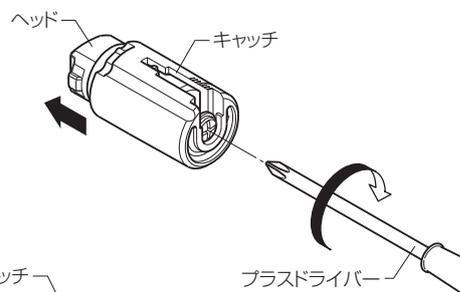
お願い

●天井と扉上端とのスペースが小さい場合は、キャッチを天井に押付けて、キャッチ全長を短くした状態で横に抜いてください。

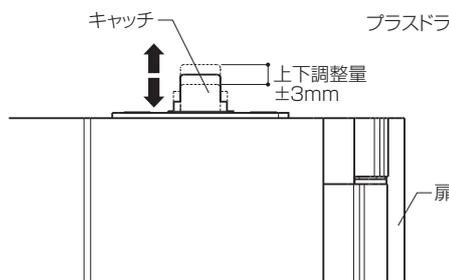
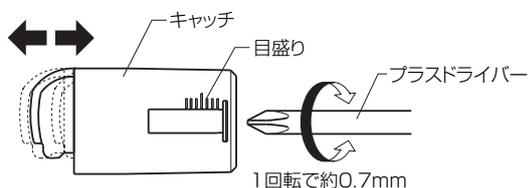


③キャッチ下面の調整ねじをプラスドライバーで回して調整してください。
※時計回りに回すとキャッチのヘッドが上がります。

●キャッチ力が弱いとき。	反時計回り
●キャッチにガタツキがあるとき。	
●キャッチ力が強いとき。	時計回り
●キャッチが上枠に当たり、扉を閉めることができないとき。	



※ねじ1回転で約0.7mm上下します。キャッチ側面の目盛りを目安にして調整してください。

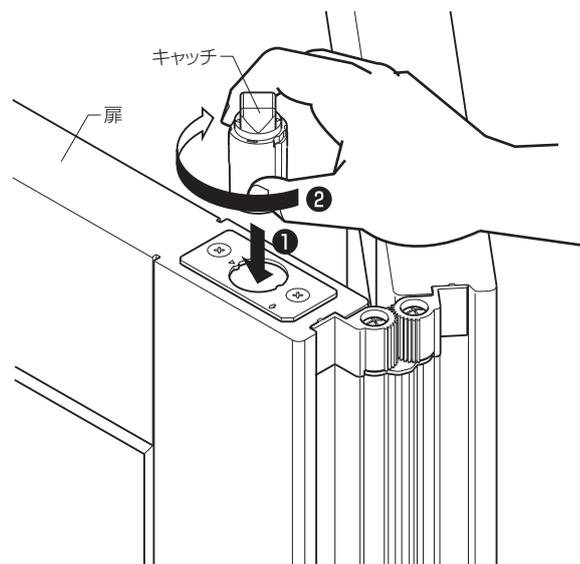


④キャッチを取付け穴に差込み、キャッチのヘッドを右に回してロックしてください。

※ヘッド取付け向き間違い防止のため、押え板の突起の位置がずれています。押え板の突起の位置とキャッチの切欠きの位置を合せて差込んでください。

お願い

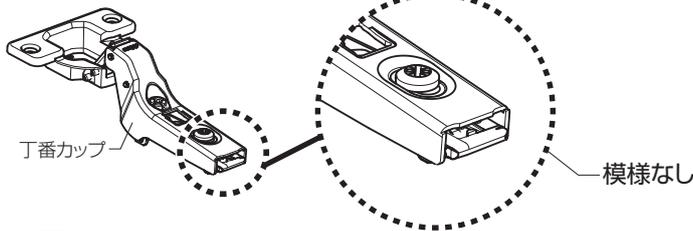
●必ず「カチッ」という手応えを感じるまで右に回してください。
キャッチのロックが不完全な場合、キャッチが破損する可能性があります。



⑤扉を閉めて、キャッチの掛かりを確認してください。問題がある場合は①～④の作業を繰り返してください。

クローゼット開き戸（※）・玄関収納／スライド丁番による建付け調整

※下図の通り模様なしの場合（模様ありの場合は P.45 を参照してください。）



スライド丁番
建付け調整動画



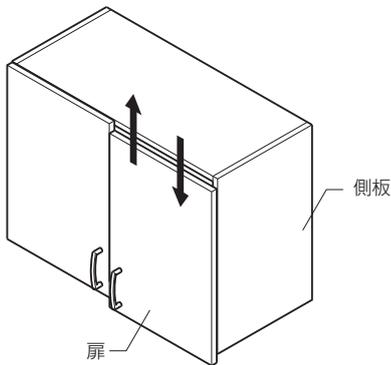
973347945002

お願い

●丁番カップや丁番座が扉や側板からはずれかけている場合は使用を控えて点検を行ってください。

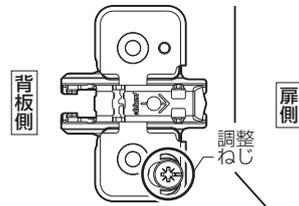
■上下調整

(調整範囲：± 2mm)

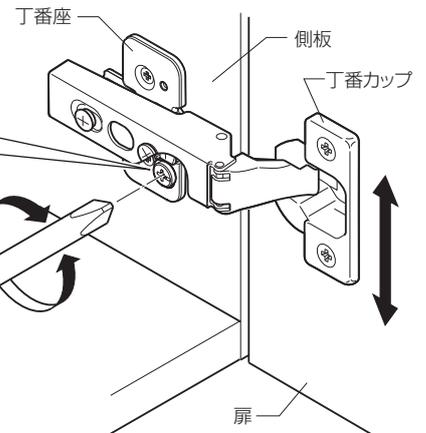


※調整範囲を超えてねじ込まないでください。

丁番座の調整ねじを回します。

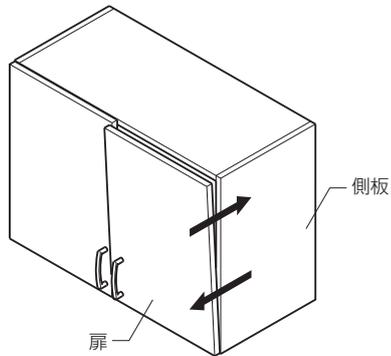


扉が重く、うまく回らない場合は扉を持ち上げるようにして調整してください。

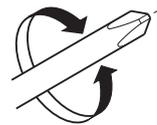


■前後調整

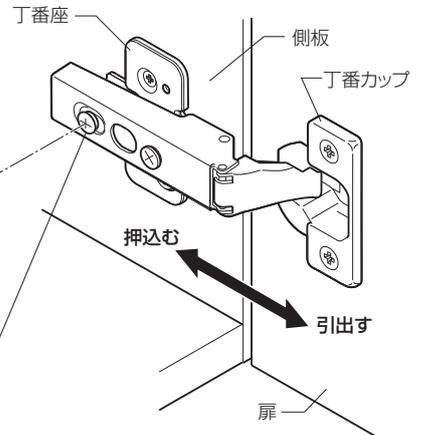
(調整範囲：4mm (3mm 前方、1mm 後方))



※調整後、調整ねじを必ず締直してください。

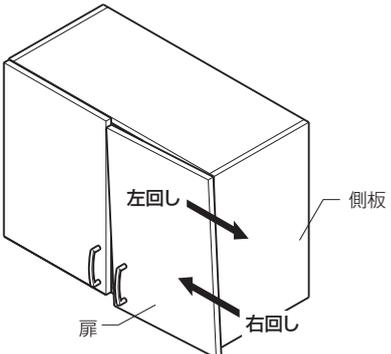


丁番カップの奥側ねじをゆるめて、位置調整後本締めします。



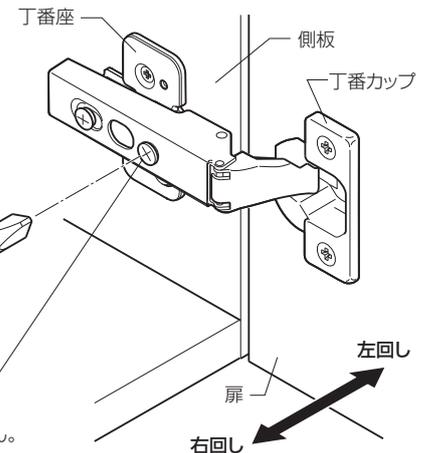
■左右調整

(調整範囲：± 2mm)



※調整範囲を超えてねじ込まないでください。

丁番カップの手前側ねじを回すと連動して扉が動きます。ねじを締直す必要はありません。

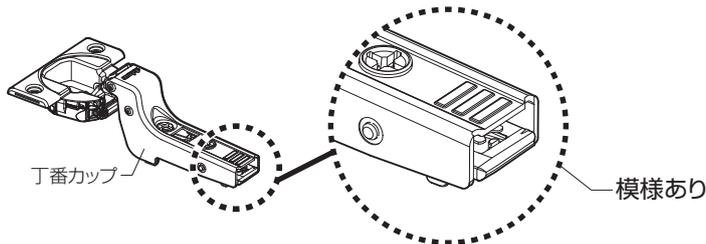


※図は右吊元を示します。左吊元は左右が逆になります。

調整方法について

クローゼット開き戸(※) / スライド丁番による建付け調整

※下図の通り模様ありの場合（模様なしの場合は P.44 を参照してください。）



スライド丁番
建付け調整動画



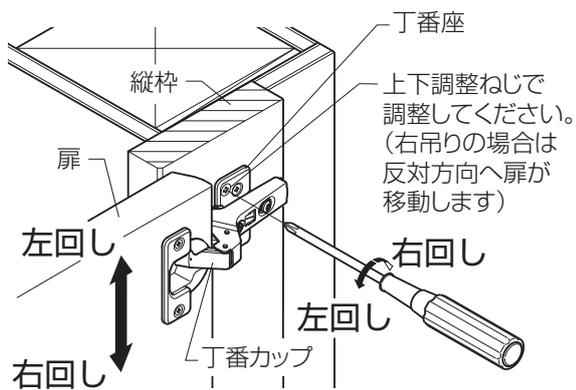
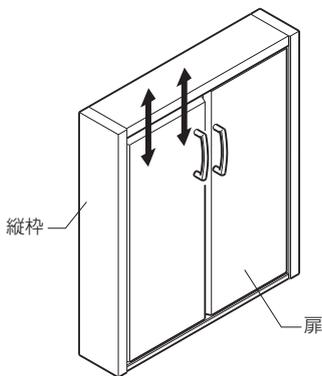
973347945002

お願い

●丁番カップや丁番座が扉や縦枠からはずれかけている場合は使用を控えて点検を行ってください。

■上下調整

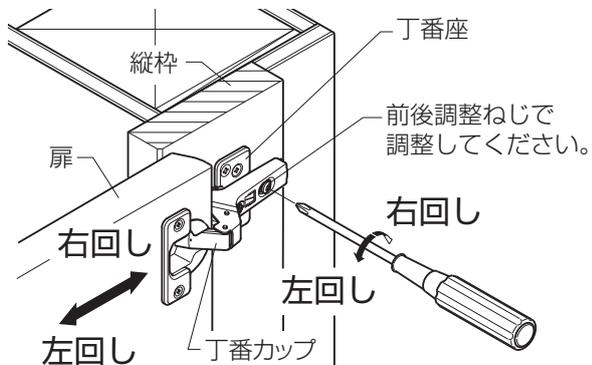
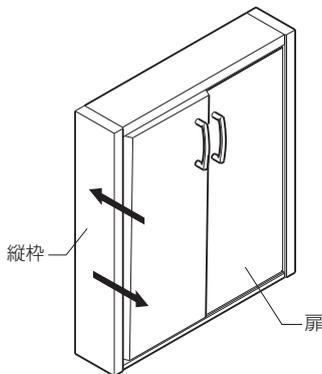
(調整範囲：± 2mm)



※調整範囲を超えてねじ込まないでください。

■前後調整

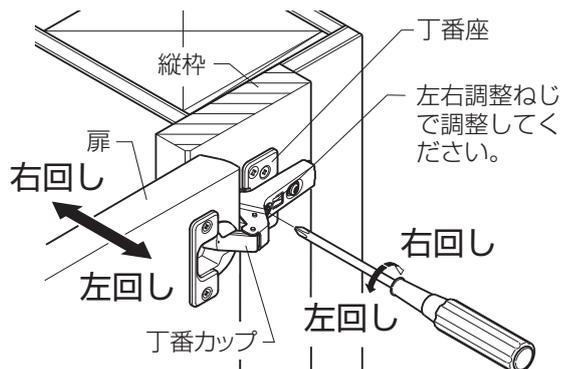
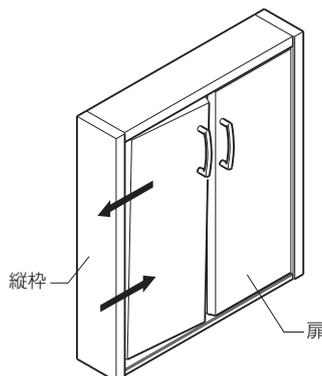
(調整範囲：4mm (3mm 前方、1mm 後方))



※調整範囲を超えてねじ込まないでください。

■左右調整

(調整範囲：± 2mm)

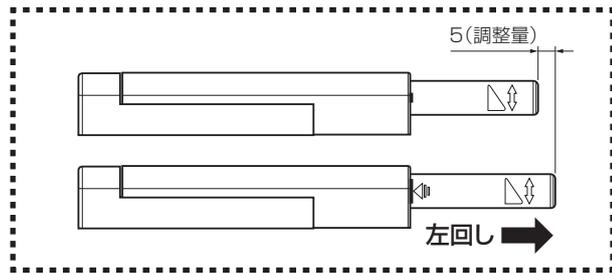


※調整範囲を超えてねじ込まないでください。

玄関収納 / プッシュラッチ調整方法

※扉が開かない場合、プッシュラッチのロッドを回して突出し量を調整してください。

※部品を調整しても扉が開かない場合、扉の位置調整を行ってください。

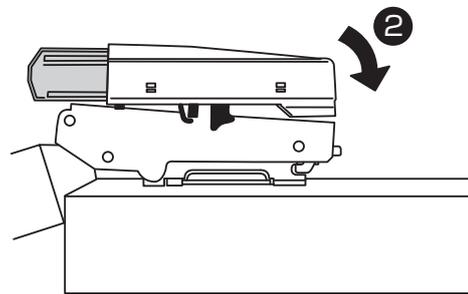
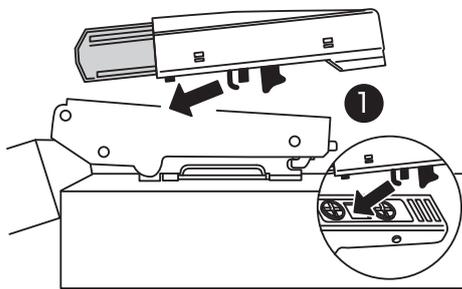


クローゼット開き戸・玄関収納 / ソフトモーション付け外し方法

■ソフトモーションの取付け

①丁番の口穴に突起を差し込みます。

②ソフトモーションの後ろ側をパチンと音がするまで差し込みます。

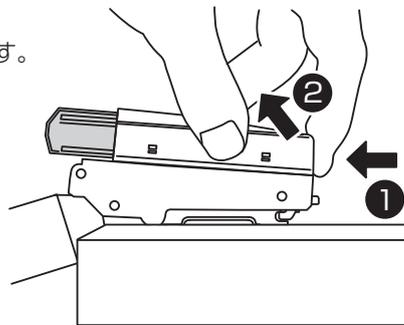


お願い

●取付けた後、扉を数回開閉し、作動に問題のないことを確認してください。

■ソフトモーションの取外し

①ソフトモーションの後ろ側を引っ張って取外します。

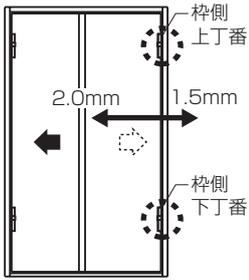


調整方法について

ラシッサ 両開き窓／丁番による建付け調整

左右の調整

- 枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。
- 調整幅は、吊元側に1.5mm、戸先側に2.0mmです。



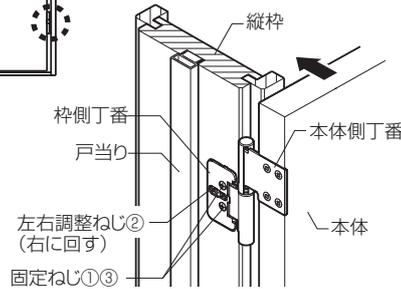
不具合例

1. 本体同士が当たる。



調整方法

- ① 固定ねじをゆるめる。
- ② 左右調整ねじを右に回して本体を吊元側に移動し位置を決める。
- ③ 固定ねじを締める。
- ④ 固定ねじが必ず閉まっていることを確認してください。



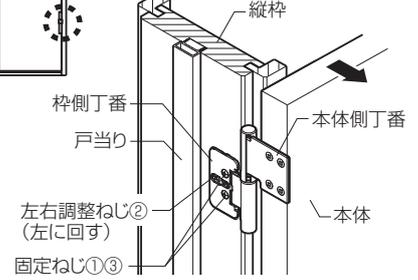
不具合例

2. 召合せのすき間が大きい。



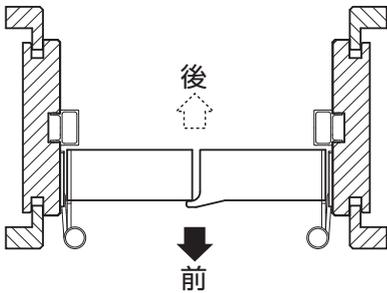
調整方法

- ① 固定ねじをゆるめる。
- ② 左右調整ねじを左に回して本体を開き側に移動し位置を決める。
- ③ 固定ねじを締める。
- ④ 固定ねじが必ず閉まっていることを確認してください。



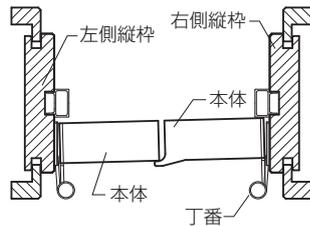
前後の調整

- 枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。
- 調整幅は、後側に1.0mm、前側に4.0mmです。



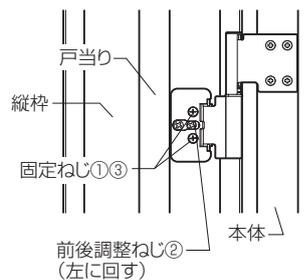
不具合例

1. 左側の枠が前に出ている。



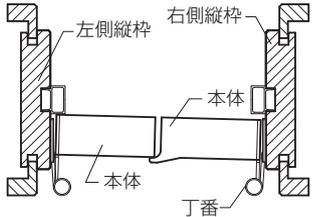
調整方法(右側縦枠の丁番を調整する場合)

- ① 固定ねじをゆるめる。
- ② 前後調整ねじを左に回して本体を前に移動させる。
- ③ 固定ねじを締める。
- ④ 固定ねじが必ず閉まっていることを確認してください。



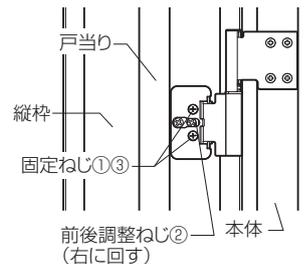
不具合例

2. 右側の枠が前に出ている。



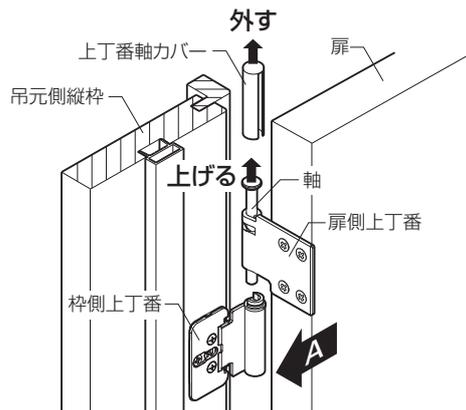
調整方法(右側縦枠の丁番を調整する場合)

- ① 固定ねじをゆるめる。
- ② 前後調整ねじを右に回して本体を後に移動させる。
- ③ 固定ねじを締める。
- ④ 固定ねじが必ず閉まっていることを確認してください。

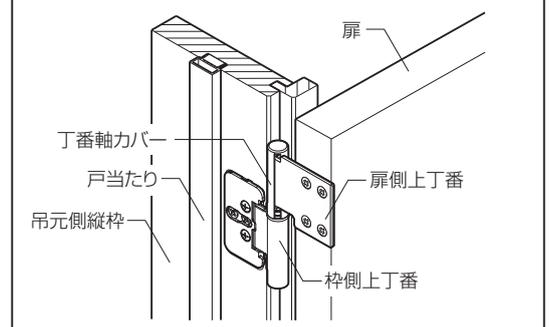


SL戸襖ドア／取外し方法

- ① 下丁番軸カバーを上げます。
 - ② 上丁番軸カバーを外します。
 - ③ 扉を持ち上げて外します。
- ※ 枠などに当たって扉が外せない場合は、上丁番の軸をとまるまで上げて、A方向に扉を外します。

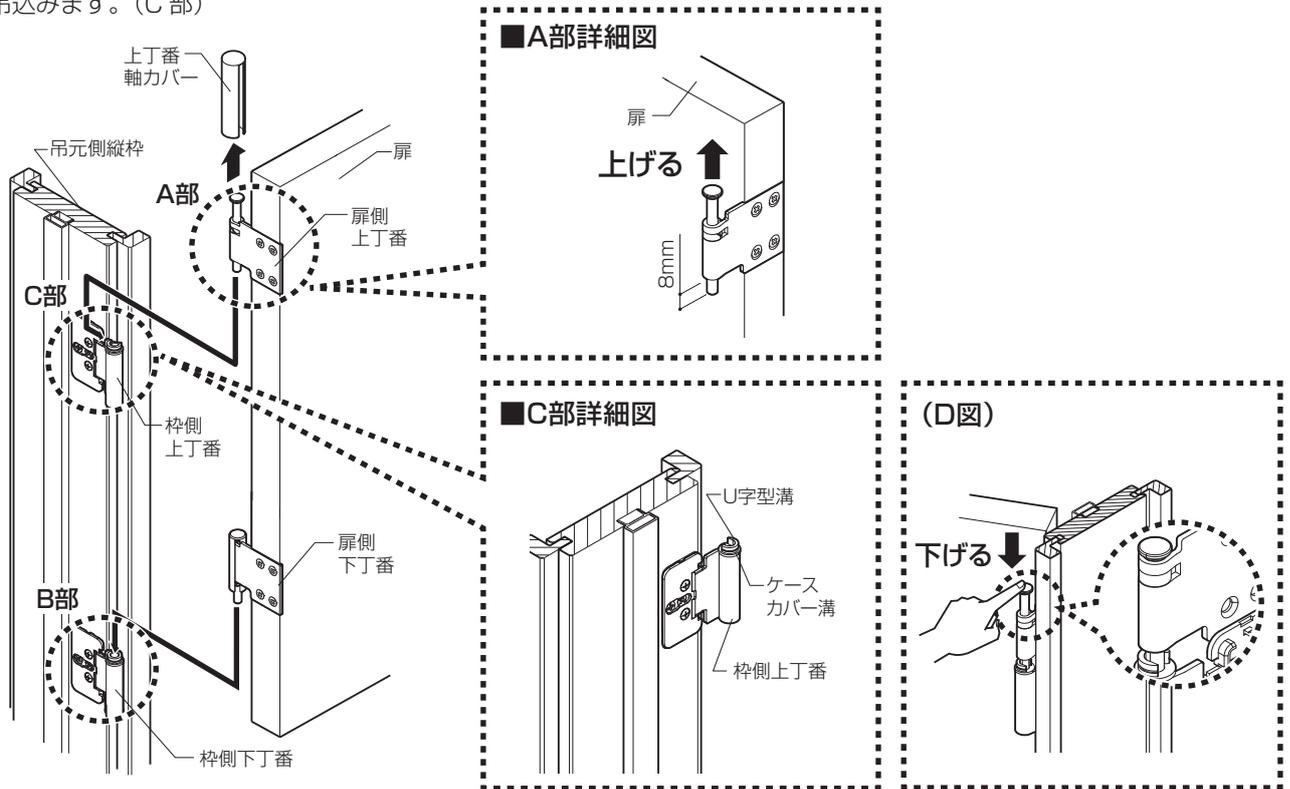


■取付け完成図



SL戸襖ドア／取付け方法

- ①下丁番軸カバーを上げます。
- ②上丁番軸カバーを外してください。
- ③扉側上丁番の軸を止まるまで上げます。(A部)
※軸は8mm程残した位置で止まります。
- ④扉側下丁番を枠側下丁番に差込みます。(B部)
※扉側下丁番の軸を垂直に差込んでください。
- ⑤扉側上丁番の軸を枠側上丁番のU字型溝にはめ込み、扉を吊込みます。(C部)
- ⑥扉側上丁番軸を止まるまで下げてください。(D図)
- ⑦上丁番軸カバーを取付けます。
※枠側上丁番のケースカバー溝にはめ込んでください。
- ⑧下丁番軸カバーを下げます。
※枠側下丁番のケースカバー溝にはめ込んでください。
- ⑨扉側上丁番の軸が下がっていることを確認してください。



SL和襖開き戸／扉の取外し・取付け方法

【扉の取外し方法】

- 扉側の丁番を止めているねじをゆるめて抜き取り扉を外します。
※最初に下丁番、次に上丁番のねじをゆるめてください。

お願い

- 取外し、取付けは床に敷物を敷いて行ってください。
扉が床に当りキズを生じさせるおそれがあります。

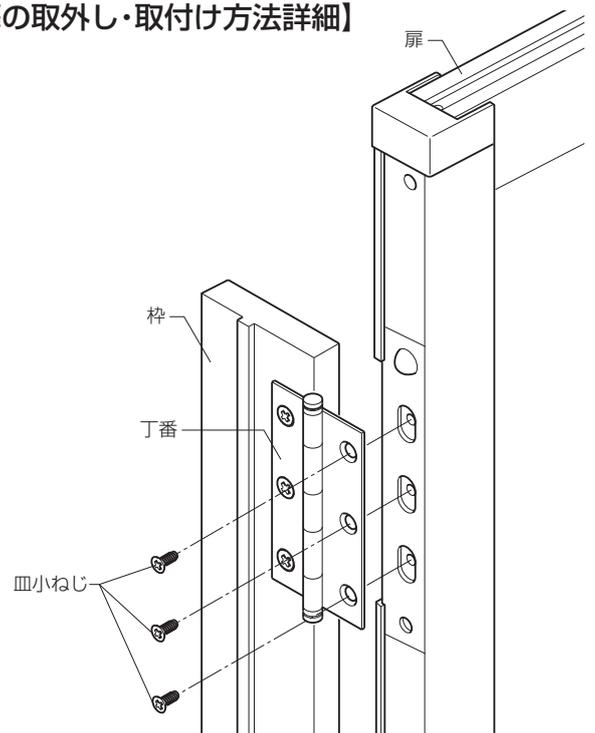
【扉の取付け方法】

- 枠に取付いている丁番に扉を取付けます。(右図参照)
※最初に上丁番、次に下丁番の順番で取付けてください。

お願い

- 取外し、取付けは必ず手回しドライバーを使用してください。
電動ドライバーを使用した場合ねじが壊れるおそれがあります。

【扉の取外し・取付け方法詳細】



調整方法について

SL / 襖紙の張替え方法

1 襖紙(シート)の張替えに必要なもの

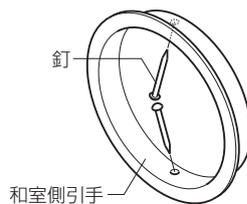
- ・鋼製定規(かね尺など)・カッター・ハケまたは乾いたタオル・ヘラ・マスキングテープ
- ・プラスドライバー・マイナスドライバー・水・必要幅の襖紙(シート)・市販の澱粉糊

2 現地張りタイプの場合

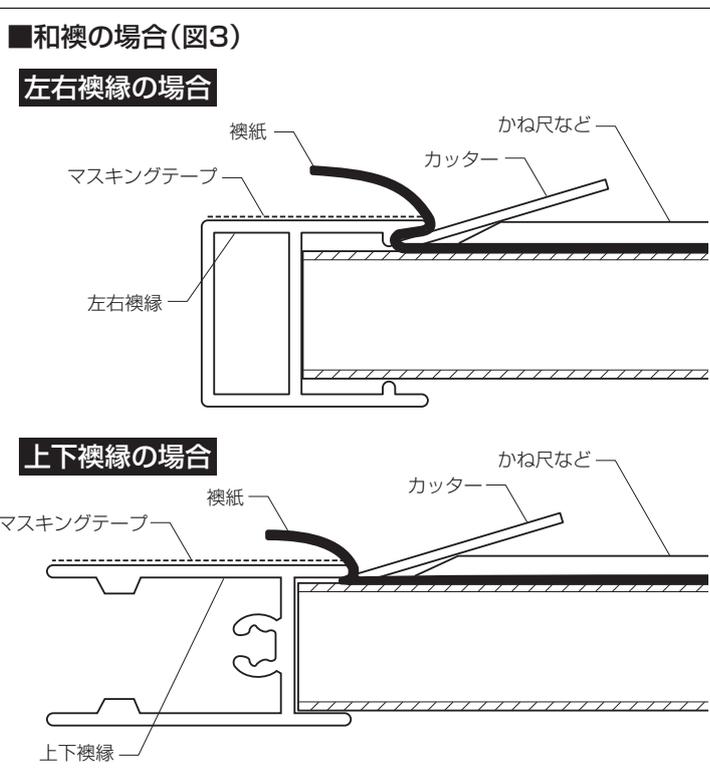
※現場手配した襖紙を張った場合は、次回の張替え時から、上に張増しすることができます。

- ①扉を枠から外します。
- ②把手(または引手)を取外します。
※戸襖引戸の場合は、釘で固定されているので、釘を抜いて和室側の引手を取外してください。(図1)
- ※和襖引戸の場合は、引手を手で引っ張って取外します。固い場合は、裏面から当て紙をしてマイナスドライバーで少しずつ持ち上げます。(図2)
- ③襖縁を養生するためマスキングテープを襖縁に張ってください。
- ④新しい襖紙を張ります。
 - 新しい襖紙を、上下・左右共に襖縁より10mmほど大きく裁断します。(予備切断)
- ⑤扉に襖紙を澱粉糊(糊付き紙の場合は水)で付けます。
 - 位置を確認して襖に張付けます。しわが入った所は、もう一度はがして張りなおしてください。次に押えハケか、乾いたタオルで中央から上下左右へ空気を押出すように軽くこすってください。多少のしわやたるみは乾燥すれば直ります。
- ⑥襖縁に合わせて襖紙をカッターなどで切断します。(本切断) 襖縁の内側いっぱいまで襖紙を折返し、かね尺などをガイドにしてカッターで切断してください。その際、下地をキズ付けないでください。キズが付くと縁がはずれて使用できなくなるおそれがあります。(図3)
- ⑦襖紙の切り代をヘラなどで襖縁の内側に押込んでください。(図4)
- ⑧扉を吊込んで把手を取付けてください。(引戸の場合は、引手を取付けてください。)(図5)

(図1)



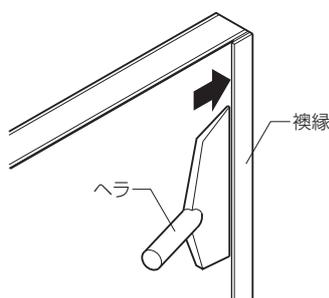
(図2)



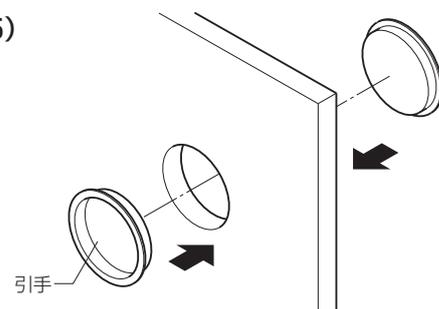
お願い

- 片面をクロス張りにしないでください。ソリが生じます。
- 両面現地張りタイプの場合は、両面とも同じ襖紙を張ってください。

(図4)



(図5)



3 既製襖タイプの場合

※襖柄シートですので、張替えは不要です。

破損などで張替えが必要な場合は、市販の襖紙での対応をおすすめします。

①扉を枠から外します。

②把手を取外します。(引戸の場合、引手を手で引張って外します。

固い場合は、裏面から当て紙をしてマイナスドライバーで少しずつ持ち上げます。)(図2)

③襖縁を養生するため、マスキングテープを2枚重ねて張ってください。

④糊の密着性を高めるため、襖柄シートのコーティング層と着色層をはくりします。

●襖縁の際からサンドペーパー(手作業)で、襖縁にキズを付けないようにして着色層までをはくりします。
(幅15mm~20mmで行ってください。)

ハンディーサンダーなどで襖柄シート全体のはくりをします。(図6)

サンドペーパーは100番~180番程度のものを使用してください。

●はくりは着色層がなくなり、襖柄シート基材の紙が出てくるまで行います。

襖基材のペーパーハニカム(ダンボール)までのはくりしないでください。

⑤襖表面に穴があいた場合は、周囲をマスキングテープで養生し、

穴うめ下地パテで基材(ペーパーハニカム)内部まですき間なく充てんし、平らにしてください。

⑥新しい襖紙を張ります。

●新しい襖紙を上下・左右共に襖縁より10mmほど大きく裁断します。

●市販の澱粉糊を襖全体に塗布してください。(糊は「ルーアマイルド」(ヤヨイ化学)をおすすめします。
水との稀釈要領などについては説明書に従ってください。

●張りはじめに襖の柄が曲がらないようにしてください。

また、張りはじめに襖紙がよれると襖紙に負荷がかかり、はがれやすくなりますので慎重に行ってください。

●ヘラを使い、余分な空気・糊を外に出して襖紙のしわを取除いてください。

●襖紙の密着をよくするため、全体をまんべんなく押えます。

⑦襖縁に合わせて襖紙をカッターなどで切断します。

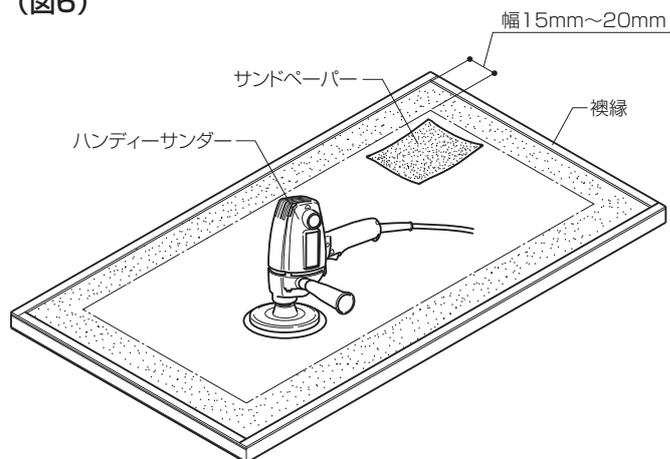
(本切断)襖縁の内側いっぱいまで襖紙を折返し、かね尺などをガイドにしてカッターで切断してください。

その際、下地をキズ付けないでください。キズが付くと縁がはずれて使用できなくなるおそれがあります。(図3)

⑧襖紙の切り代をヘラなどで襖縁の内側に押し込んでください。(図4)

⑨扉を吊込んで把手を取付けてください。(引戸の場合は、引手を取付けてください。)(図5)

(図6)



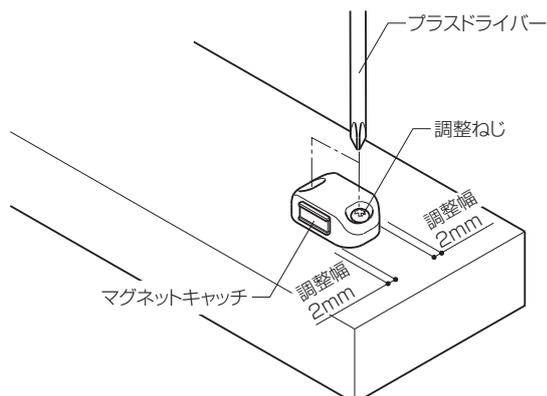
お願い

- 片面をクロス張りにしないでください。
ソリが生じます。

SL和襖開き戸/マグネットキャッチによる建付け調整

■前後調整(調整幅±2mm)

●マグネットキャッチが扉をキャッチしない場合、プラスドライバーで調整ねじをゆるめて、マグネットを前後させてください。



調整方法について

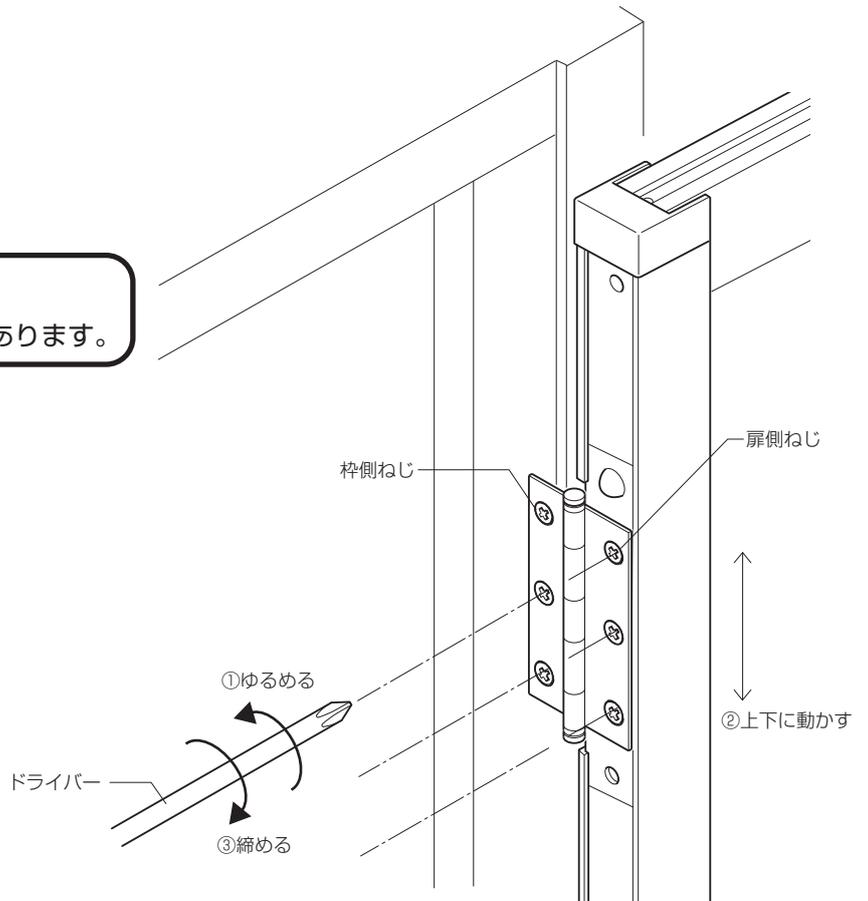
SL和襖開き戸建付け調整

■上下調整（調整幅±3mm）

- ①扉側の丁番を止めているねじを半回転～1回転回しゆるめます。
※枠側のねじはゆるめません。
- ②扉を手で上下に動かし適した高さに合せます。
- ③ゆるめたねじをすべて締めます。

お願い

- 調整は床に敷物を敷いて行ってください。
扉が床に当りキズを生じさせるおそれがあります。



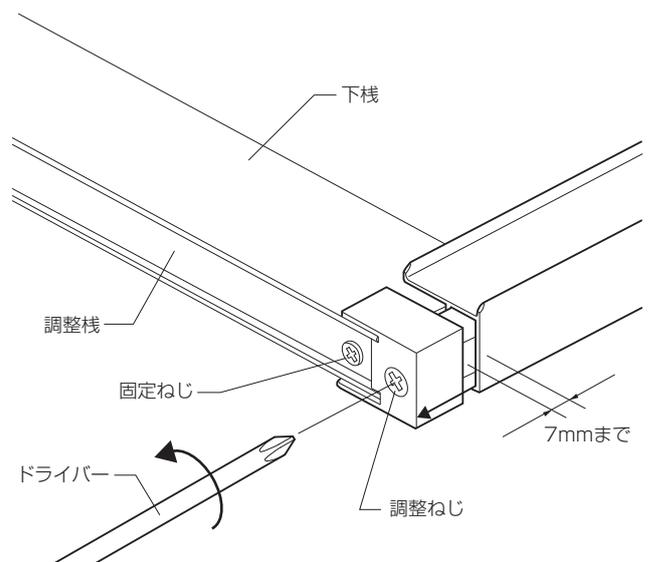
SL和襖引戸建付け調整

■上下調整（調整幅+7mm）

- ①扉を枠から外します。
 - ②扉を寝かせ 扉下面の左右角にある調整ねじを回します。
※内寄りにある固定ねじはゆるめません。
 - ③ねじを左に回すと下棧より調整棧が出てきます。（7mmまで）
適した高さになるよう調整します。
- ※左右の調整ねじの一方だけを回し続けしないでください。左右交互に1回転ずつ回すことでスムーズに調整棧が出入りします。ねじの回転が固くなったら それ以上 回さないでください。
- ④扉を枠に戻します。

お願い

- 調整は必ず手回しドライバーを使用してください。
電動ドライバーを使用した場合ねじが壊れるおそれがあります。

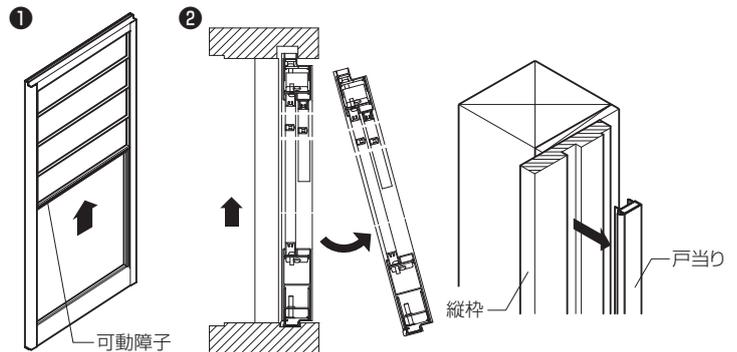


SL上げ下げ障子／扉の取外し・取付け方法

●サッシ・網戸のお手入れや障子張り替えの際には下記要領で扉を外してください。

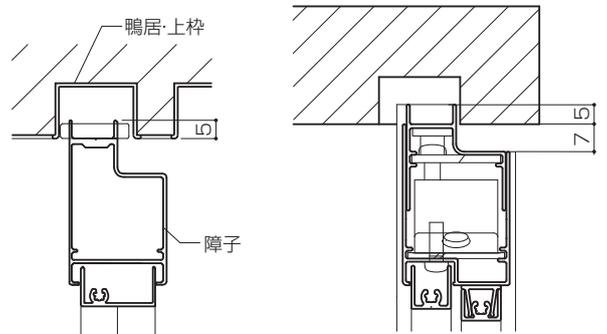
■取外し方法

- ①可動障子を開けます。
※一番上まで可動障子を上げた状態で作業してください。
- ②中棧・下棧を持ち、扉を持ち上げて下棧を下枠から外します。
※取付けは取外し方法と逆の手順にて行ってください。下棧溝に扉が入っていることを確認してください。
※網戸のお手入れがしにくい場合は、縦枠に取付いている戸当りも外してください。
お手入れ後は、元通り縦枠溝に戸当りをはめ込んでください。



SL和障子／建付け調整

- ご使用中に建付けにくいが生じることがありますので(定期的な点検し)下記の方法で建付けの調整をしてください。
- ※上げ下げ障子以外の障子の鴨居・上枠へのかかりは5mm以上確保してください。かかりが少ないと障子の外れにつながります。(図1)
- ※上げ下げ障子は、上枠と上棧のチリを7mm以内にしてください。(図2)



上げ下げ障子以外(図1)

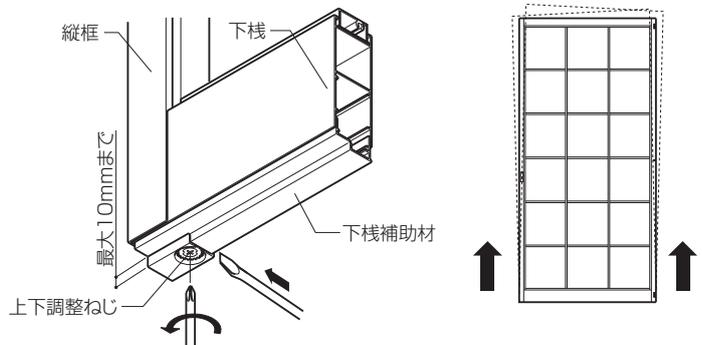
上げ下げ障子(図2)

■上下方向の建付け調整

- ※扉下棧・上棧には調整機能がついています。扉の戸首の鴨居・上枠へのかかりが少ない場合に調整します。
- ※紙貼障子には扉上棧の調整機能はありません。

●扉下棧で調整する場合

- 調整量は+10mm、-0mmです。
- ・扉を外し、下棧の底の上下調整ねじをプラスのドライバーで左に回します。
 - ※一度調整ねじを回せば、その後は扉を吊り込んだまま調整可能です。その場合は、扉を少し持ち上げ、上下調整ねじのダイヤルをマイナスドライバーで回します。
 - ※上げ下げ障子は、扉を外して調整してください。

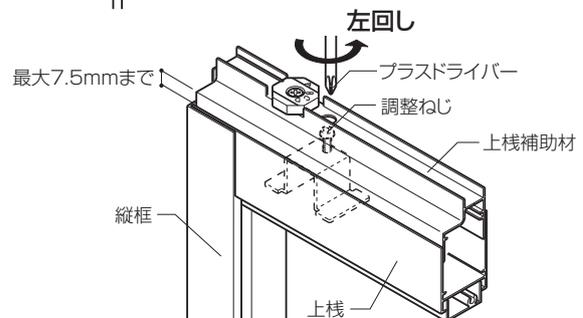


●扉上棧で調整する場合

調整量は+7.5mm、-0mmです。

・猫間障子の場合

- 上棧調整ねじ穴に、プラスドライバーを差し込んで左に回します。

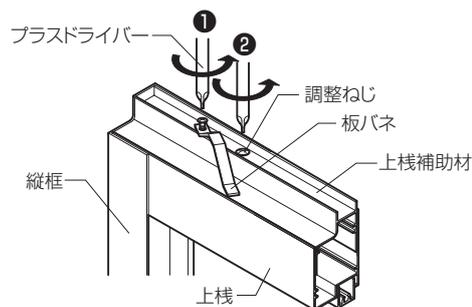


調整方法について

・上げ下げ障子の場合

①上棧に付いている板バネのねじをゆるめ、板バネをズラします。
 ※ねじを外してしまうと上棧補助材に取付けてある接続金具が抜け落ちてしまうため外さないでください。

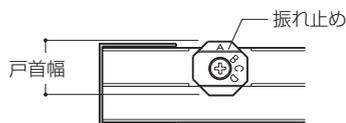
②上棧調整ねじ穴に、プラスドライバーを差込んで左に回します。



■戸首の鴨居溝内部のガタツキ調整

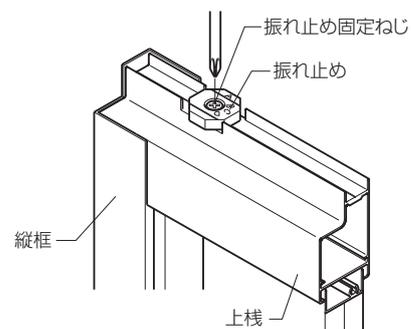
※上げ下げ障子にはガタツキ調整機能はありません。

●溝内部で戸首のガタツキが大きい場合に調整します。上棧上部の振れ止め固定ねじをプラスのドライバーでゆるめ、振れ止めの八角面を回転させて調整します。八角面を決めたら、面を上棧と平行にして、固定ねじで締付けます。



(単位 mm)

八角面	戸首幅
A面	19.5
B面	20
C面	20.5
D面	21



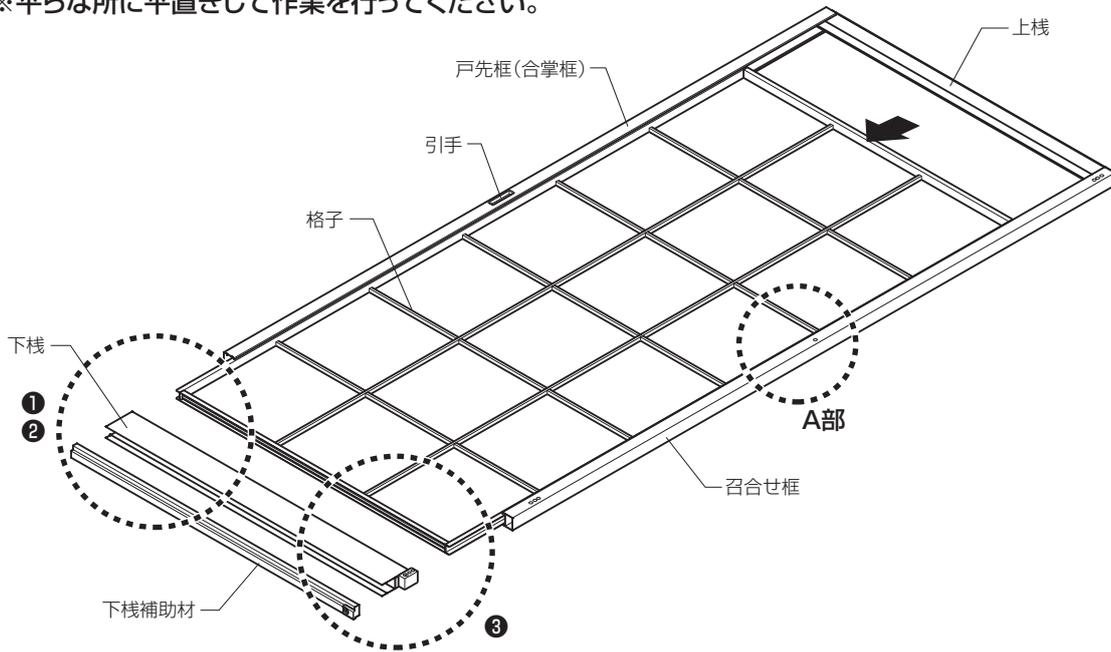
お願い

- 市販のアイロンで張るタイプの障子紙は使用しないでください。表面の樹脂シートが溶けるおそれがあります。
- 市販の澱粉糊または有償部品として用意している「張替え用のり」以外は使用しないでください。
表面の樹脂シートが傷みます。

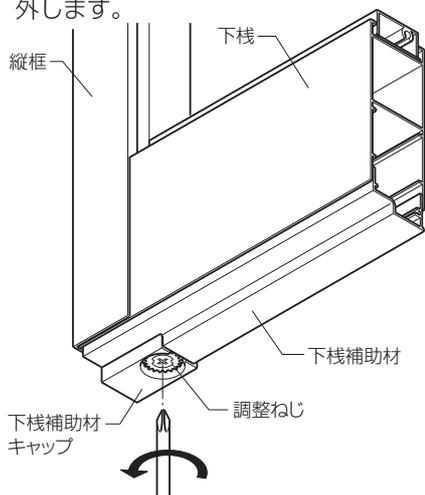
■障子紙の張替えに必要な物

- ・必要幅の障子紙
- ・当社設定の有償部品の糊または市販の澱粉糊
- ・カッター
- ・ハケ
- ・プラスドライバー
- ・水

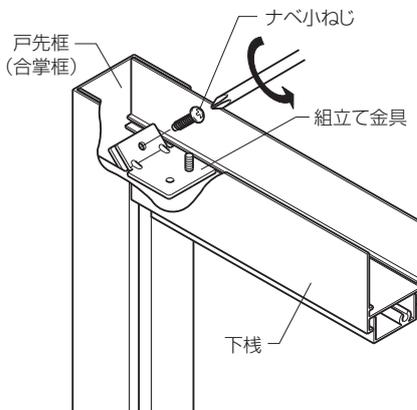
※平らな所に平置きして作業を行ってください。



①下棧の底の調整ねじを左に回してゆるめ、下棧補助材キャップと下棧補助材を外します。



②下棧の戸先框側についている組立てねじ(ナベ小ねじ)を外します。



調整方法について

③下棧を縦框から真下に引抜きます。

④格子を縦框から真下に引抜きます。

⑤障子紙を裏面から、水分を含ませたハケなどで十分にしめらせ、
下の方から静かに棒で巻取ると簡単にはがせます。

※ヘラ、カッターなどで削り落とすと、格子を傷めるのでおやめく
ださい。

紙や糊の残りがあるときは、やわらかいスポンジに水分を十分ふ
くませ拭き取ってください。

⑥市販の澱粉糊で、障子紙を張ります。

紙は格子より10mm程度大きく張ってください。(図1)

※障子に結露が発生する場所でご使用になる場合には、結露水に
よる紙のハガレ防止のため、有償部品「張替え用のり」の使用を
おすすめします。

※有償部品として、張替え用の「障子紙(強化和紙)」も用意してあ
ります。

※澱粉糊または、「張替え用のり」以外は、使用しないでください。
表面の樹脂シートが傷みます。

※市販のアイロンで張るタイプの障子紙は使用しないでくださ
い。表面の樹脂シートが溶けるおそれがあります。

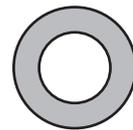
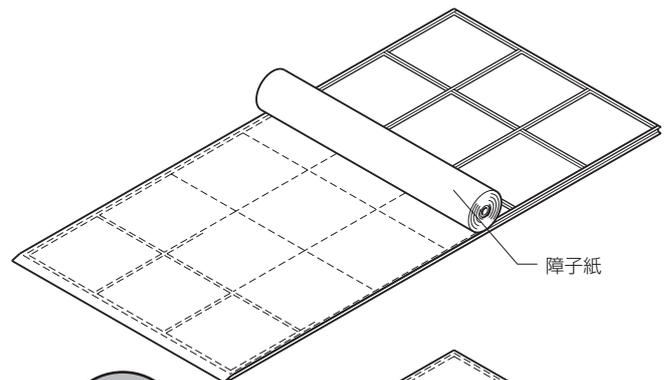
⑦格子の角にカッターをあてて紙を切断します。(図2)

※格子の見付け部分にカッターをあてると、格子にキズが付くので
おやめください。(図3)

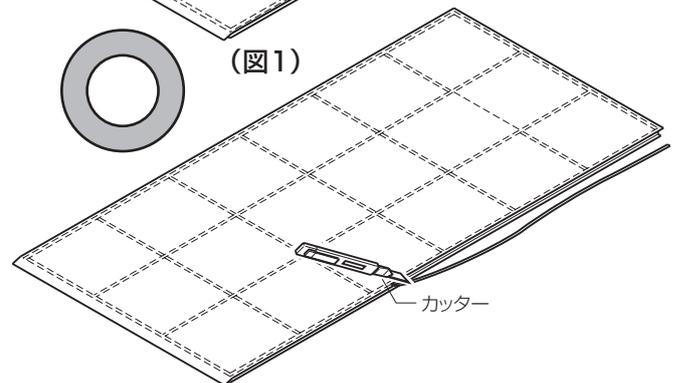
⑧格子を縦框の下から差込みます。

※召合せ框側の向きを必ず合わせて差込んでください。

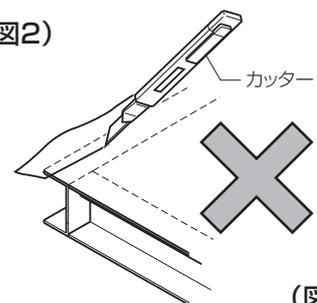
⑨下棧を縦框に差込み、①②で外したねじを取付けます。下棧補助
キャップと下棧補助材を下棧に取付け、調整ねじを締めます。



(図1)



(図2)



(図3)

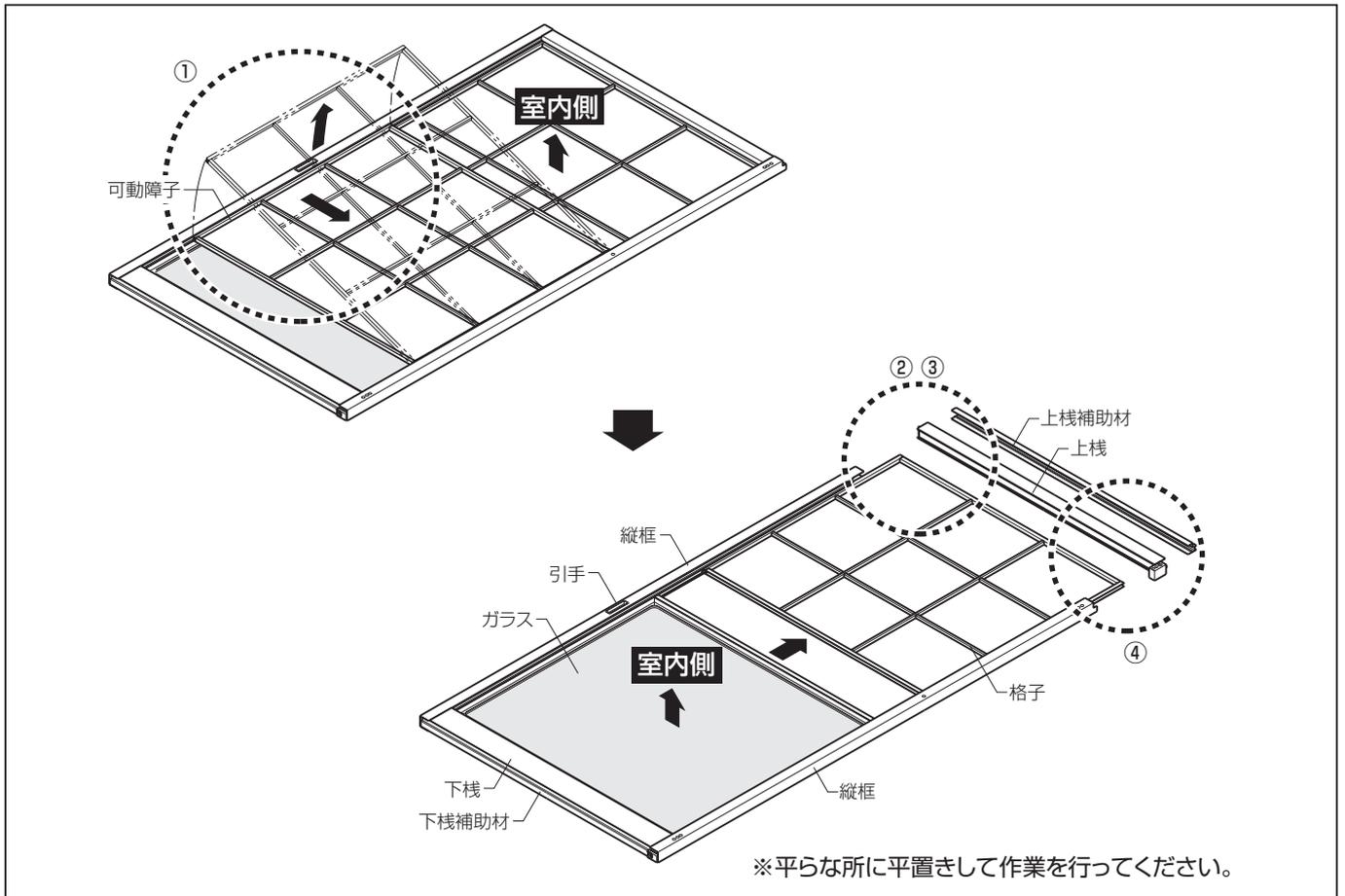
SL猫間障子・上げ下げ障子／障子紙の張替え方法

■障子紙の張替えに必要な物

- ・必要幅の障子紙
- ・当社設定の有償部品の糊または市販の澱粉糊
- ・カッター
- ・ハケ
- ・プラスドライバー
- ・水

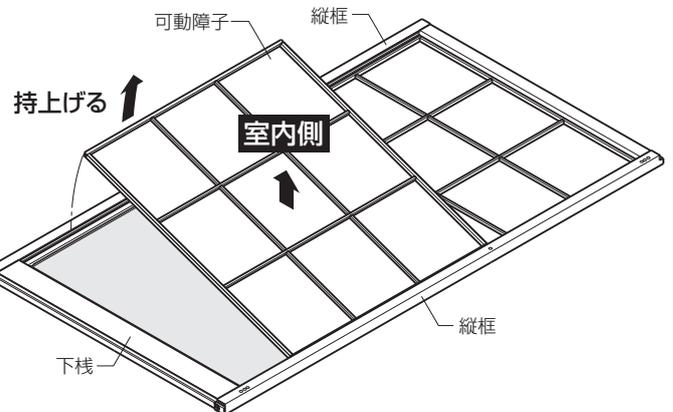
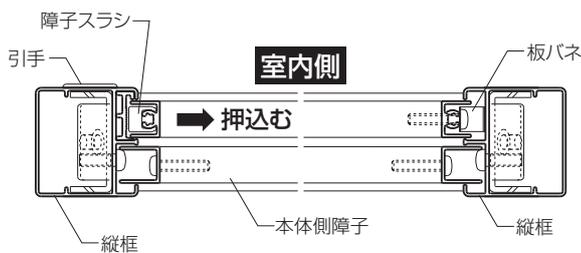
障子紙のお願い

- 市販のアイロンで張るタイプの障子紙は使用しないでください。表面の樹脂シートが溶けるおそれがあります。
- 市販の澱粉糊または有償部品として用意している「張替え用のり」以外は使用しないでください。表面の樹脂シートが傷みます。



- ①可動障子を格子面から見て右側に押し込み、持上げて外します。
 ※可動障子の障子紙を張替える場合は、⑤以降を参照してください。

■本体下部からの見上げ図

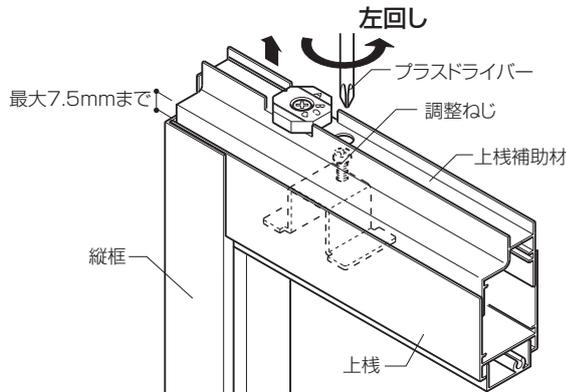


- ②上棧補助材を外します。

調整方法について

・猫間障子の場合

- ①上棧補助材の調整ねじを左に回してゆるめ、上棧補助材を外します。



- ③上棧の戸先框側に付いている組立てねじ（ナベ小ねじ M4×10）を外します。

- ④上棧を縦框から真上に引抜きます。

- ⑤障子紙を裏面から、水分を含ませたハケなどで十分にしめらせ、下の方から静かに棒で巻取ると簡単にはがせます。
※ヘラ・カッターなどで削り落とすと格子を傷めるのでおやめください。
紙や糊の残りがあるときは、やわらかいスポンジに水分を十分含ませ拭き取ってください。

- ⑥市販の澱粉糊で、障子紙を張ります。紙は格子より10mm程度大きく張ってください。(図1)
※障子に結露が発生する場所でご使用になる場合には、結露水による紙のハガレ防止のため、有償部品「張替え用のり」の使用をおすすめします。
※有償部品として、張替え用の「障子紙(強力和紙)」も用意してあります。
※澱粉糊または、「張替え用のり」以外は使用しないでください。表面の樹脂シートが痛みます。
※市販のアイロンで張るタイプの障子紙は使用しないでください。表面の樹脂シートが溶けるおそれがあります。

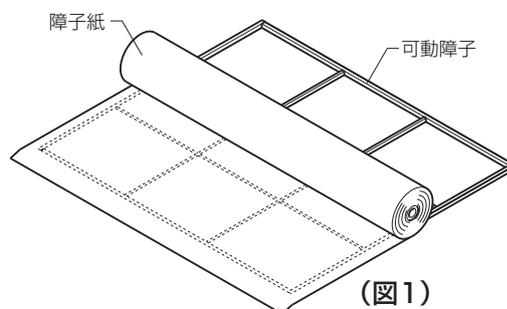
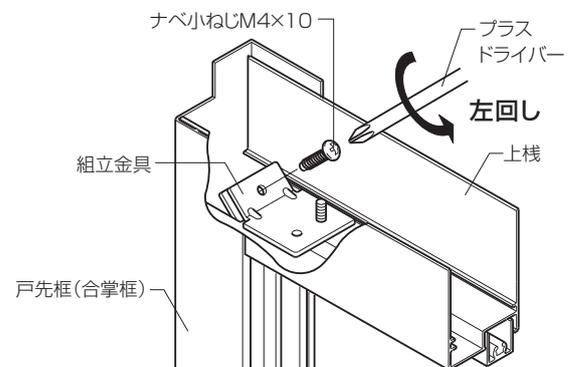
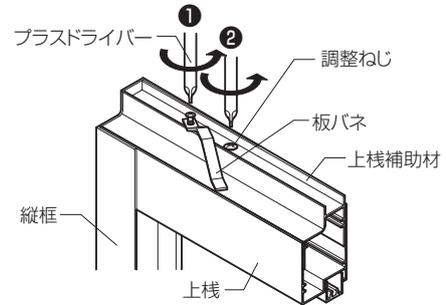
- ⑦格子の角にカッターをあてて紙を切断します。(図2)
※格子の見付け部分にカッターをあてると、格子にキズが付くのでおやめください。(図3)

- ⑧格子を縦框の上から差込みます。
※縦框と格子に付いている金具どうしがかみ合うように差込んでください。
※可動障子を取付ける際は、可動障子に左右がありますので、取外したときと同じ向きに取付けます。
取付け後、可動障子が外れていないことを必ず確認してください。

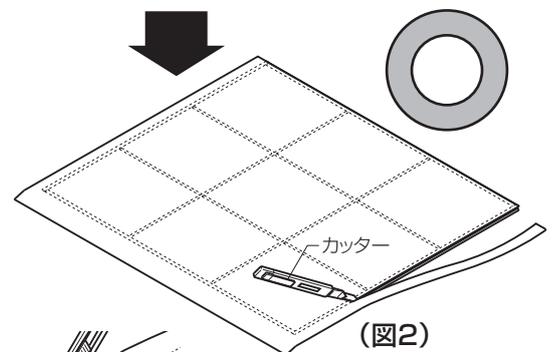
- ⑨上棧を縦框に差込み、②③で外したねじを取付けます。上げ下げ障子は②でゆるめた板バネのねじを固定します。上棧補助材を上棧に取付け、調整ねじを締めます。

・上げ下げ障子の場合

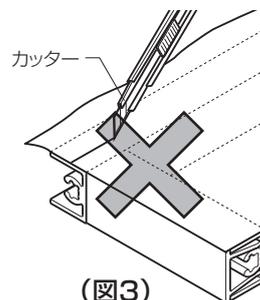
- ①上棧に付いている板バネのねじをゆるめ、板バネをずらします。
※ねじを外してしまうと上棧補助材に取付けてある接続金具が抜け落ちてしまうため外さないでください。
②上棧補助材の調整ねじを左に回してゆるめ、上棧補助材を外します。



(図1)



(図2)



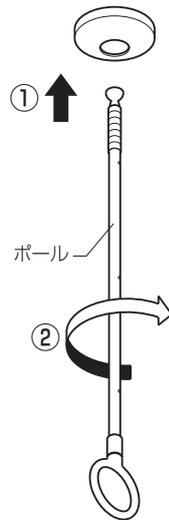
(図3)

室内物干し 天井付けタイプ / ポールの着脱・長さ調整方法

■ポールの着脱方法について

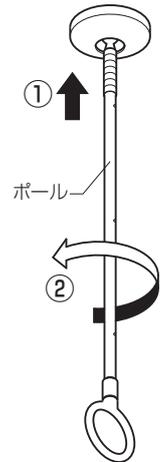
●取付け

- ①ポールを軽く上に押し当てます。
- ②右に回すとキャッチ部品が閉じ、ポールが保持されます。



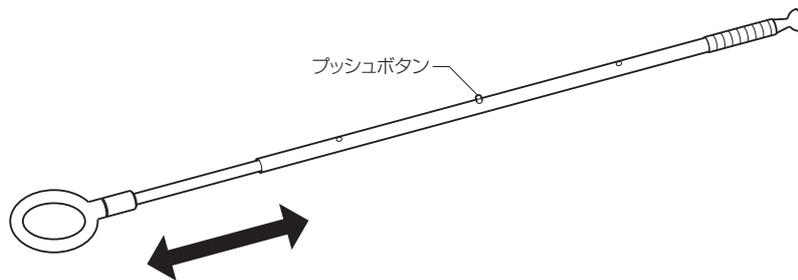
●取外し

- ①ポールを軽く上に押し当てます。
- ②左に回すとキャッチ部品が開き、ポールが取外せます。



■ポールの長さ調整方法について

- ①調整は必ずポールを取外し、手元で行ってください。
- ②ポールのプッシュボタンを押して、伸縮させてください。
- ③調整後は、ポールが固定されていることを確かめた後にご使用ください。



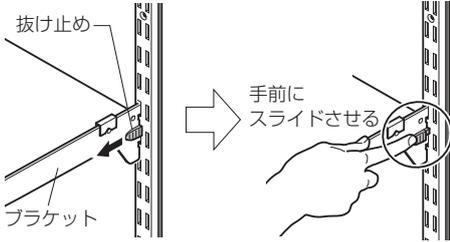
※長さ調整は460mm、550mm、640mmの3段階になります。

調整方法について

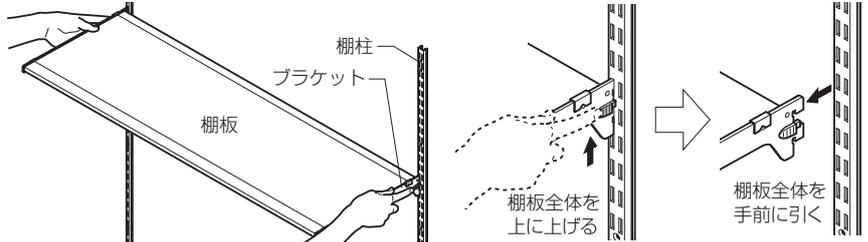
すっきり棚の棚板位置変更方法

■棚板の取外し方法 ※イラストは樹脂棚板ですが、木製棚板も手順は同じです。

①ブラケット抜け止めを手前にスライドさせます。



②抜け止めをスライドさせたまま、棚板の両端(ブラケット部)を手で持ち、棚板全体を上へ上げ手前に引いて棚柱から棚板を取外します。

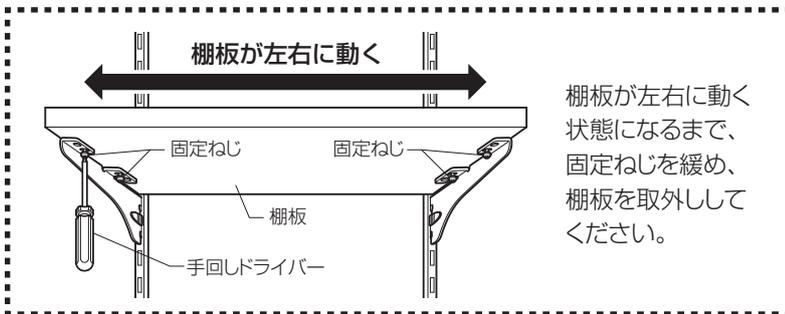
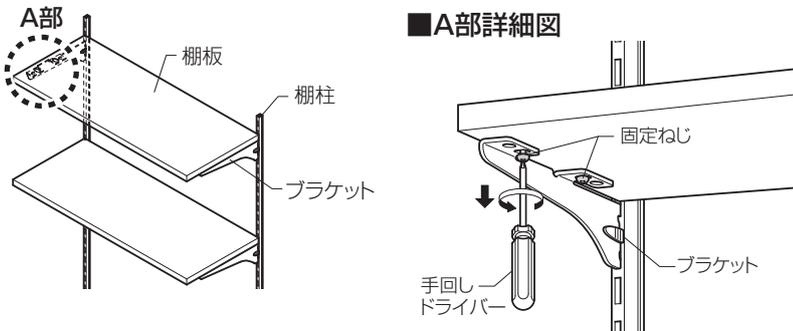


【木製棚板の場合】

〈(棚柱とブラケットの側面が強くあたって) 棚板が取外しにくい場合〉

無理に外さず、一度棚板裏面の固定ねじを少しゆるめてから棚板を取外してください。

※再び棚板を取付する場合には、棚柱に取付後 ゆるめた固定ねじを再度締め直し棚板とブラケットを固定してください。

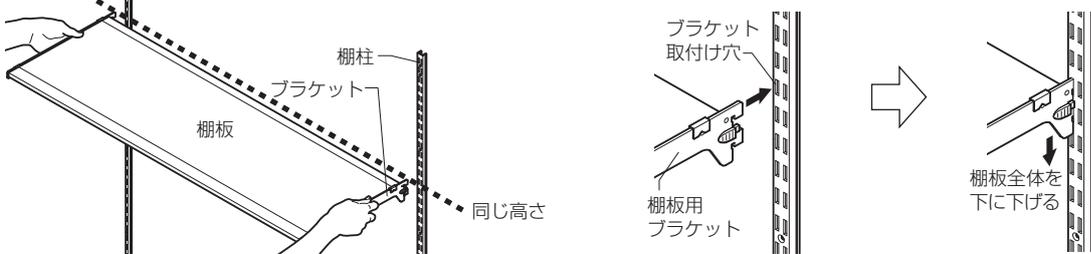


棚板が左右に動く状態になるまで、固定ねじを緩め、棚板を取外してください。

※無理に外すと棚柱やブラケットの表面にキズなどがつくおそれがあります。

■棚板の取付け方法

棚板両端(ブラケット部)を手で持ち、棚柱のブラケット取付け穴に両端の棚板用ブラケットを同時に差込み、棚板全体を下へ下げて固定します。



※必ず2本の棚板用ブラケットが同じ高さになるように設置してください。

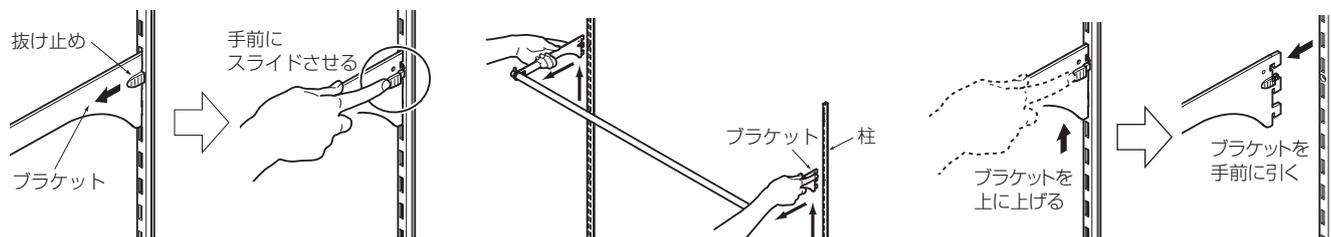
※ブラケット取付け穴に棚板用ブラケットのツメを落とし込んで棚板が外れないことを確認してください。



すっきり棚のパイプ位置変更方法

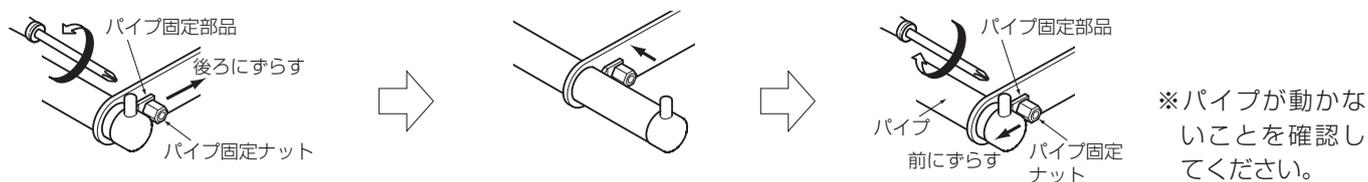
■パイプの取外し方法

- ① ブラケットの抜け止めを手前にスライドさせます。
- ② 抜け止めをスライドさせたまま、両側のブラケットを上へ上げ、手前に引いて棚柱からブラケットを取外します。



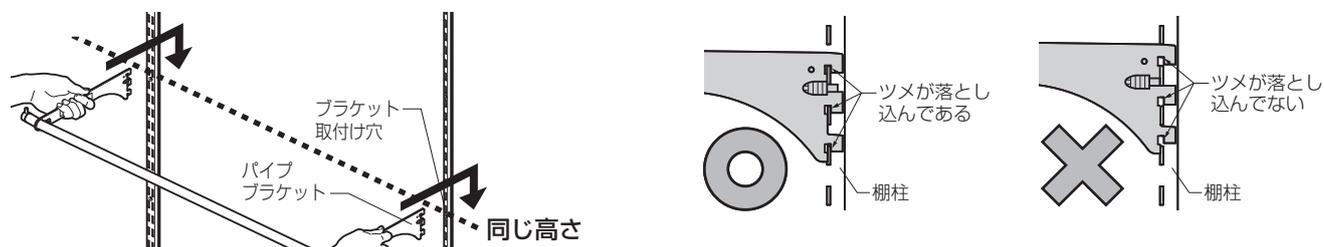
■ブラケットの固定幅変更方法

- ① パイプ固定ナットを手で押さえながら、ドライバーでねじをゆるめパイプ固定部品を後ろにずらします。
- ② ブラケットの固定位置を決めます。
- ③ パイプ固定部品を前にずらしてパイプに押し当て、パイプ固定ナットを手で押さえながら、ドライバーでねじを締めてパイプを固定します。



■パイプの取付け方法

取付け位置を決め、棚板のブラケット取付け穴に両端のブラケットを同時に差込み、全体を下に下げて固定します。



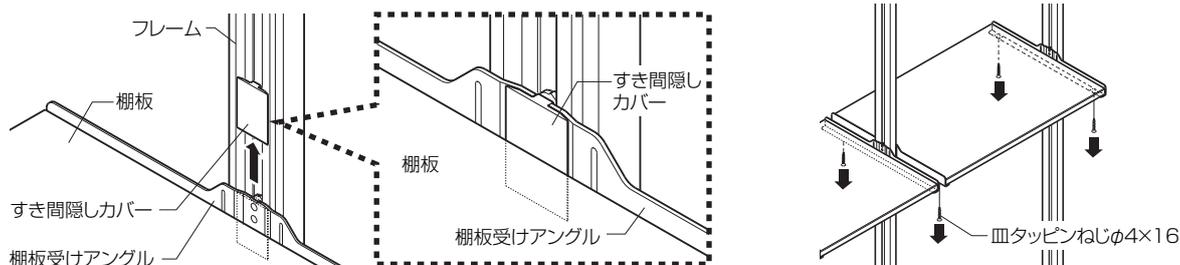
※必ず2本のブラケットが同じ高さになるように設置してください。

※ブラケット取付け穴にブラケットのツメを落とし込んでブラケットが外れないことを確認してください。

フレーム収納 棚板位置変更方法(W1200をのぞく)

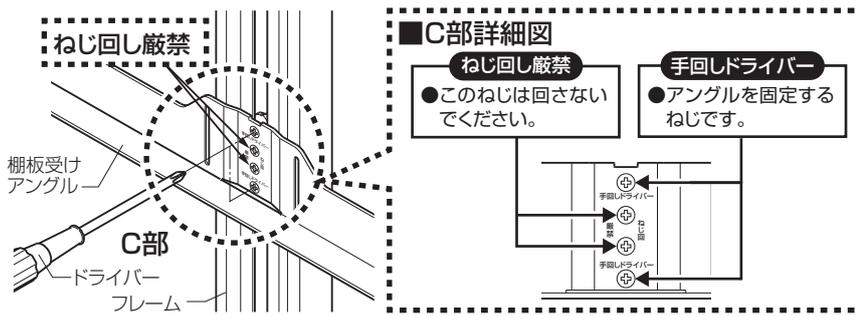
※W1200はL字アングルで壁固定されているため位置変更はおすすめしません。

- ① すき間隠しカバーを取外します。
- ② 棚板を棚受けアングルから外します。



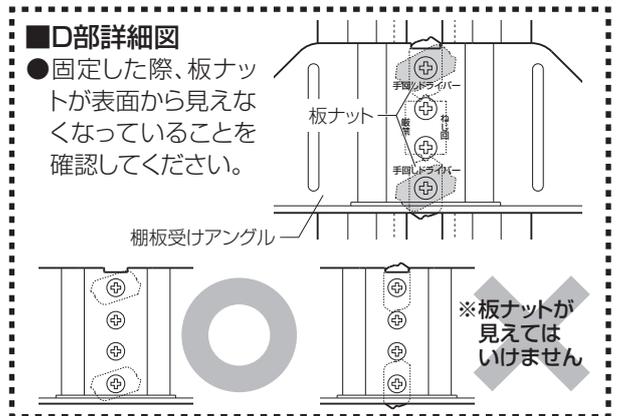
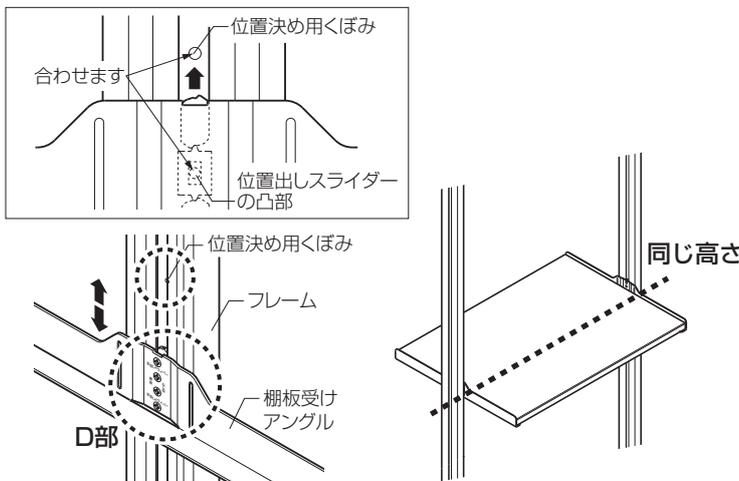
調整方法について

③棚受けアングルを固定しているねじをゆるめます。



お願い
 ※必ず手回しドライバーでゆるめてください。ねじ回し厳禁のねじは、さわらないでください。
 ※アングルを固定しているねじはゆるめすぎないでください。ゆるめすぎると板ナットがフレームの中に落下します。

④棚板受けアングルを上下にスライドさせ、位置出しスライダーの凸部をフレームの位置決め用のくぼみに合わせ、固定ねじで固定します。
 ※左右同じ高さになっていることを確認してください。



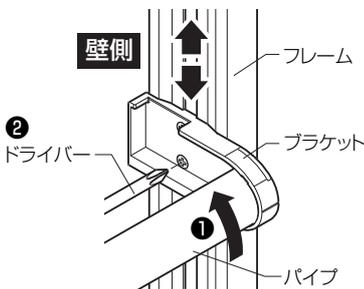
※ドライバーにて固定後、棚板受けアングルに下方向の荷重をかけ、しっかり固定されていることを確認してください。

⑤棚受けアングルが固定されていることを確認したら、②で外した棚板を②で外したねじで固定しなおし、①のすき間隠しカバーを取付けます。

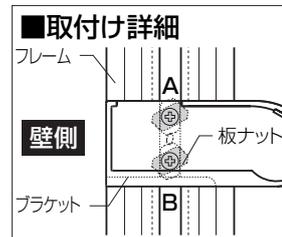
フレーム収納 ハンガーパイプ・小物掛けパイプ位置変更方法

※イラストはハンガーパイプですが、小物掛けパイプも手順は同じです。

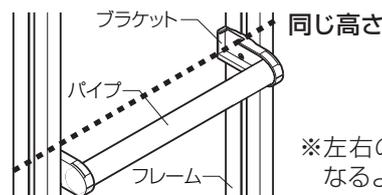
- ①ブラケットからパイプを外します。
- ②取付けねじをゆるめ、ブラケットを移動します。



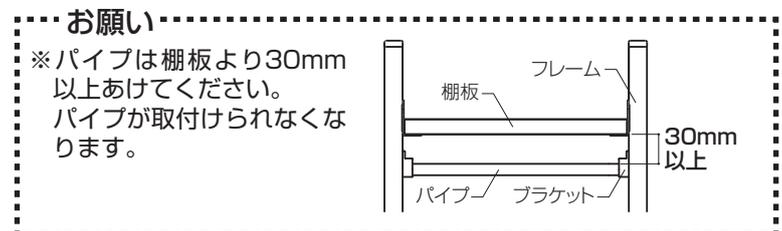
③ブラケットを固定し、パイプをブラケットに差し込みます。



※A・Bの板ナットが、回転してフレームにかかっていることを確認してください。
 ※固定後、ブラケットに下方向の荷重をかけ、しっかり固定されていることを確認してください。



※左右のブラケットが同じ高さになるように設置してください。



アフターメンテナンスについて

保証について

保証期間中は、保証の規定にしたがって修理をさせていただきます。
保証期間中でも有料になる場合がありますので「**商品保証について**」の内容をよくご確認ください。

保証期間を過ぎている場合は、ご希望により有料で修理をさせていただきます。修理用部品の保有期間が過ぎている場合は、修理ができないこともあります。

修理を依頼されるときは

点検および修理を依頼される前に、各商品の『**取扱い説明書**』をもう一度ご確認くださいの上、それでも故障が直らない場合やご不明な点がある場合は、商品をお求めの施工店、工務店、販売店又は LIXIL 修理受付センターにご連絡ください。その際、下記のことをご連絡ください。

- ①ご住所・お名前・電話番号
- ②商品名・品番
- ③ご購入日又はご入居日
※分譲住宅（建売）、分譲マンションは建設業者から売主への引渡し日となります。
- ④故障又は異常の内容
- ⑤訪問ご希望日
- ⑥ LIXIL 修理受付センターにご連絡の際は、商品のご購入者様名

個人情報保護について

当社は、当社取扱商品のユーザーさま及び流通業者さま等の個人情報を商品納入にあたって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンス、その他当社プライバシーポリシーに記載の目的のために利用させていただきます。個人情報の取扱いについての詳細は、LIXIL オフィシャルサイトの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

点検および修理の依頼先

- ・お求めの取扱い店
- ・製品に表示している連絡先
- ・ LIXIL 修理受付センター ☎ 0120-413-433

点検および修理料金のしくみ

修理料金は技術料・部品代・出張料などで構成されています。
技術料は、点検および故障箇所の修理および部品交換・調整などの作業にかかる費用です。
部品代は、修理に使用した部品代です。
出張料は、修理士を派遣する場合の費用です。なお修理により交換した部品・製品は、特段のお申し出がない場合は当社にて引き取らせていただきます。

修理用部品の保有期間

この商品の修理用部品（商品の機能維持には問題ない範囲内で色やデザインが異なる代替部品も含まれます。）の最低保有期間は、製造打ち切り後 10 年です。電装系部品については製造打ち切り後 7 年、室内建具などの扉・引出しなどの面材については、製造打ち切り後 2 年としております。
※機器類など専用の取扱い説明書があるものは除きます。添付の取扱い説明書をご確認ください。

また、修理用部品の供給が難しい場合は、新シリーズの類似商品を供給させていただくこともありますのでご了承ください。

交換用部品について

お客様ご自身でお取替えいただける部品については、LIXIL オフィシャルサイトよりご注文いただけます。

- LIXIL PARTS SHOP <https://parts.lixil.co.jp/lixilps/shop/>

掲載のない部品につきましては、お求めの取扱い店又は当社お客さま相談センター ☎ 0120-126-001 にご連絡ください。

商品保証について

本書は、ここに記載の保証期間、保証内容の範囲において無料修理を行うことをお約束するものです。保証期間中、商品に故障・損傷などの不具合（以下「不具合」といいます）が発生した場合には、お取扱いの施工店、工務店、販売店又は当社お客さま相談センターにご相談ください。

■対象商品…………… インテリア建材商品

■保証期間…………… 施工者よりの引渡し日(注1・注2)から2年間(電装部品については1年間)

注1)改修工事の場合、改修部分の工事完了の日とします。

注2)分譲住宅(建売住宅)の場合、建築主さまへの引渡し日とします。

■保証内容…………… 取扱い説明書、本体ラベル又はその他の注意書きに基づく適正なご使用状態で、保証期間内に商品そのものに不具合が発生した場合には、下記に例示する免責事項に該当する場合を除き無料修理いたします。

■免責事項…………… 保証期間内でも、次のような場合には有料修理となります。

- ①当社の手配によらない加工、組立て、施工、管理、メンテナンスなどの不備に起因する不具合(例えば、工事中の養生不良による変色や腐食など)
- ②表示された商品の性能をこえた性能を必要とする場所に取付けられた場合の不具合
- ③建築躯体の変形など商品以外の不具合に起因する商品の不具合
- ④商品又は部品の経年変化(使用に伴う消耗、摩耗など。木製品のソリ、干割れ、変色など)や経年劣化(樹脂部品の変質、変色など)又はこれらに伴うサビ、カビなどその他類似の不具合
- ⑤自然現象や住環境に起因する結露などの不具合
- ⑥環境が特に悪い地域又は場所での腐食および不具合(例えば、海岸地帯での塩害による腐食、浴室内などの湿潤な部位、部分的、又は全面的に野外に晒された場所。部屋内外の温度差が極端に違う部位に取付けられたもの、極端に乾湿を繰り返す部位に取付けられたもの。異常な高温・低温・多湿による不具合)
- ⑦天災その他の不可抗力(例えば、暴風、豪雨、洪水、高潮、地震、地盤沈下、落雷、火災など)により、商品の性能をこえる事態が発生した場合の不具合
- ⑧施工当時実用化されていた技術、知識では予測することが不可能な現象又はこれが原因で生じた不具合
- ⑨犬、猫、鳥、鼠などの小動物の害による不具合やキクイムシなどによる虫害
- ⑩引き渡し後の使用上の操作誤り、調整不備又は適切な維持管理を行わなかったことによる不具合
- ⑪お客さま自身の組立て、取付け、修理、改造(必要部品の取外しを含む)に起因する不具合
- ⑫本来の使用(一般住宅同等の環境下で使用される建築物)の目的以外の用途に使用された場合の不具合又は使用目的と異なる使用方法による場合の不具合
- ⑬犯罪などの不法な行為に起因する破損や不具合

※保証期間経過後の修理、交換などは有料とさせていただきます。

※本書によって、お客さまの法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お取扱いの施工店、工務店、販売店又は当社お客さま相談センターにお問合わせください。

株式会社 LIXIL

※商品のお問い合わせ・ご相談時のため、メモしておくと便利です。

■販売店名

TEL ()

■工務店名

TEL ()

2017年 12月

MEMO

MEMO

株式会社 LIXIL

商品についてのお問い合わせ・部品のご購入は、お客さま相談センターまで

受付時間/月～金 9:00～18:00 土・日・祝日 9:00～17:00(ゴールデンウィーク、夏期休暇、年末年始等を除く)

TEL. ☎ 0120-126-001 FAX. 03-3638-8447

●旭トステム外装株式会社のサイディング材に関する商品相談は

旭トステム外装(株) サービスデスクナビダイヤル TEL.0570-001-117

修理のご依頼は、LIXIL修理受付センターまで

受付時間/月～金 9:00～18:00(祝日、年末年始、夏期休暇等を除く)

TEL. ☎ 0120-413-433 FAX. ☎ 0120-413-436

<https://www.lixil.co.jp/support/>

安全に関するご注意

ご使用前に「取扱説明書」をよくご覧の上、正しくお使いください。また、取付設置工事は「取付設置説明書・施工説明書」に従ってください。いずれの場合も、取り扱いを誤ると事故や故障の原因となります。

個人情報保護について

当社は、当社取扱商品のユーザーさま及び流通業者さま等の個人情報を商品納入にあたって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンス、その他当社プライバシーポリシーに記載の目的のために利用させていただきます。個人情報の取り扱いについての詳細は、当社オフィシャルサイトの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

●商品改良のため、予告なしに仕様の変更を行うことがありますのでご了承ください。

株式会社 LIXIL

会社や商品についての情報のご確認は、LIXIL オフィシャルサイトまで

<https://www.lixil.co.jp/>

※ショールームの所在地、カタログの閲覧・請求、図面・CAD データなどの各種情報は、上記オフィシャルサイトからご確認ください。

取説番号 MAN-944D	事業所コード CPX5	2022.4.1発行
---------------	-------------	------------

